

カリキュラム等の 改善に係る提案

細 野 構 成 員

ご提出資料

追加教育内容 専門基礎分野 人体の構造と機能について

- ・高齢者の生理学的特性・変化 +1単位15時間
- ・競技者の生理学的特性・変化 +1単位15時間

関連する「成長と発達」については「運動学」および「リハビリテーション医学」、「加齢と老化」については「病理学概論」および「リハビリテーション医学」で教授されているが、これらを、高齢者および競技者の外傷予防の観点から統合的に教育し柔道整復師に対する社会的要請の変化に対応する必要があると考える。

柔道整復学校養成施設指定規則別表第一（抜粋）

追加前

教育内容		単位数
専門基礎分野	人体の構造と機能	13単位

追加後

教育内容		単位数	備考
専門基礎分野	人体の構造と機能	15単位	高齢者および競技者の生理学的特性・変化を含む

追加教育内容 専門基礎分野 疾病と傷害について

・柔道整復術の適否を判定すべき疾患 +1単位15時間

教育内容の基本的知識となる各疾病および外傷の病態および検査所見等に関する講義は「整形外科学」、「外科学概論」、「一般臨床医学」などの科目において教授されているが、これらの知識を活用した「柔道整復術の適否」という観点からの教育内容を加えることで、柔道整復師が適切な柔道整復施術を行う能力の基礎を身に付けられると考えられる。

柔道整復学校養成施設指定規則別表第一（抜粋）

追加前

教育内容		単位数
専門基礎分野	疾病と傷害	12単位

追加後

教育内容		単位数	備考
専門基礎分野	疾病と傷害	13単位	柔道整復術の適否を判定すべき疾患を含む

追加教育内容 専門基礎分野

保健医療福祉と柔道整復の理念について

・保険の仕組みおよび職業倫理 +1単位15時間

教育内容に関連する「保険の仕組み」については「衛生学・公衆衛生学」および「関係法規」、「職業倫理」については「衛生学・公衆衛生学」および「柔道整復の歴史」などで教授されているが、「療養費払い制度」、「受領委任制度」、「柔道整復に対する社会的責務」などの講義を加えることで、前述の講義内容が有機的に結合され、保険制度を十分理解したうえで、社会の付託に耐えうる倫理感を持ち合わせた柔道整復師の養成が可能になると考える。

柔道整復学校養成施設指定規則別表第一（抜粋）

追加前

教育内容		単位数
専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念	7単位

追加後

教育内容		単位数	備考
専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念	8単位	保険の仕組みおよび職業倫理を含む

追加教育内容 専門分野 基礎柔道整復学について

・外傷の保存療法(経過および治癒の判定) +1単位15時間

外傷の保存療法については柔道整復業務の根幹を成すものであり、「基礎柔道整復学」、「臨床柔道整復学」、「柔道整復実技」等で教授されているところであるが、外傷の経過および治癒判定に関する教授は十分でなく、これらの内容を教授することで柔道整復師が完結型の施術を行う場合に必要な能力を養成できると考える。

柔道整復学校養成施設指定規則別表第一(抜粋)

追加前

教育内容		単位数
専門分野	基礎柔道整復学	9単位

追加後

教育内容		単位数	備考
専門分野	基礎柔道整復学	10単位	外傷保存療法の経過および治癒の判定を含む

追加教育内容 専門分野 臨床柔道整復学について

- ・物理療法機器の取り扱い +1単位15時間
- ・柔道整復術適否の臨床的判定 +1単位15時間

・物理療法機器の取り扱いおよび原理については「リハビリテーション医学」、「基礎柔道整復学」、「柔道整復実技」等で教授されているところであるが、これらの内容を教授することで、各科目で得た知識を統合することができ、さらには、新しい物理療法機器に関する知識を修得し、柔道整復業務で物理療法機器を適切に使用し治療効果を高めるための使用法についての知識も修得できると考える。

・専門基礎分野「疾病と傷害」の教育内容に「柔道整復術の適否を判定すべき疾患」に関する教育を加えるのに加えて、この教育内容を加えることにより専門基礎分野で得た病態や検査所見からの適否の判定に関する知識を活用しながら、客観的検査手法等を持たない柔道整復師が、臨床所見から判断して施術に適する損傷と、施術に適さない損傷とを的確に判断できる能力を獲得して、柔道整復術を安全に提供できる能力を修得できると考える。

柔道整復学校養成施設指定規則別表第一（抜粋）

追加前

教育内容		単位数
専門分野	臨床柔道整復学	14単位

追加後

教育内容		単位数	備考
専門分野	臨床柔道整復学	16単位	物理療法機器の取り扱い、柔道整復術適否の臨床的判定を含む

追加教育内容 専門分野 柔道整復実技について

- ・高齢者の外傷予防 +1単位15時間
- ・競技者の外傷予防 +1単位15時間

専門基礎分野「人体の構造と機能」の教育内容に「高齢者の生理的特徴・変化」および「競技者の生理的特徴・変化」に関する教育を加えるのに加えて、これらの教育内容を加え、人体の構造と機能で得られた基礎知識を活用して、具体的な外傷予防に関する柔道整復師の手法を身に付けさせることで、柔道整復師への社会的要請の一つである高齢者および競技者の外傷予防に貢献可能となる柔道整復師を養成できると考える。

柔道整復学校養成施設指定規則別表第一（抜粋）

追加前

教育内容		単位数
専門分野	柔道整復実技	15単位

追加後

教育内容		単位数	備考
専門分野	柔道整復実技	17単位	高齢者および競技者の外傷予防技術を含む

総単位数の引上げに伴う時間数の増加

現行				改定案		
教育内容		単位	時間数	単位	時間数	備考
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	14		14		
専門基礎 分野	人体の構造と機能	13		15	+30	高齢者および競技者の 生理学的特性・変化を 含む
	疾病と傷害	12		13	+15	柔道整復術の適否を判 定すべき疾患を含む
	保健医療福祉と柔 道整復の理念	7		8	+15	保険の仕組みおよび職 業倫理を含む
専門分野	基礎柔道整復学	9		10	+15	外傷保存療法の経過お よび治癒の判定を含む
	臨床柔道整復学	14		16	+30	物理療法機器の取り扱 い、柔道整復術適否の 臨床的判定を含む
	柔道整復実技（臨床 実習を含む。）	15 (1)		17	+30	高齢者および競技者の 外傷予防技術を含む (臨床実習含まず)
	臨床実習			4	+135	
計		85		97		
増加				12	+270	2480+270=2750

柔道整復師養成施設指導ガイドラインに関する検討について

専門分野「教育の目標」の「種々の外傷に必要な予防と治療の技術を修得する。また、柔道整復に関する社会的要請の多様化に対応できる技術を養う」を「種々の外傷に必要な予防(高齢者、競技者等)と治療の技術を修得する。また、柔道整復に関する社会的要請の多様化に対応できる技術を養う」としてはどうか。

現行、外傷予防に関する確立した予防技術についての教授は行われていないと考えられる。これは、対象となる外傷が漠然としているうえに、外傷全般の予防に関する一般的な技術が確立して居らず、教育の現場が対応しきれない状態にあるのではないかと推察できる。一方、高齢者や競技者の外傷および障害予防には、ある程度の体系化が進み、高齢者の転倒予防やスポーツトレーナー活動による競技者の外傷予防など成果が上がっている。

そこで、「予防」の後に(高齢者、競技者等)と記載し、教育内容にこれらの内容を含むことを明確にして、柔道整復師への社会的要請に応える人材を育成することとしてはどうか。

基礎分野の科目の一部に放送大学の単位取得による修得を認めてはどうか

基礎分野の単位修得のうち、一定単位数(例えば1/2程度)を放送大学の科目履修によって取得したものを、専門学校で取得したものとして互換する制度を設けてはどうか。

第2回あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師学校養成施設カリキュラム等改善検討会の資料にもあるが、

- 1) 放送大学の教育内容は非常に質が高いうえに、単位取得にも単位認定試験が実施されているなど厳しい条件が付されている、これらの修得は柔道整復師養成施設の質の向上に寄与できると考えられる。
- 2) 各養成施設で個々に確保する教育陣よりも質の高い教育陣による教育が期待できる。
- 3) 受講生の中から学位(学士・修士・博士)を取得することを目指す者が現れる可能性があり、質の高い柔道整復師養成に繋がる可能性がある。
- 4) 学位保持者である柔道整復師が増加することになれば、柔道整復が時代の先端を行く職種であるとの社会的評価を受ける可能性があり、優秀な人材が集まることが期待でき、柔道整復師の質の向上に繋がることが考えられる。

等の効果が期待できる。

柔道整復教育科目別到達目標および必要講義・実習時間一覧表

解剖学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	人体解剖学概説	解剖学総論	1 解剖学を学ぶ意義、人体構造への興味と畏敬の念を持たせる。 2 細胞とその発生、機能に応じた組織の種類、器官と器官系の関係を理解する。 3 人体の部位名を学習する。	1 細胞の発生と分化の過程を理解し、機能に応じた形態の特殊性を理解できる。 2 組織、器官、器官系の関係を理解できる。 3 人体の部位に関する正しい用語が使用できる。
2	運動器系	骨	人体における骨の役割・形状による分類と構造、骨の発生と成長、再生について理解する。	1 骨の機能が説明できる。 2 骨の形状に従って分類できる。 3 器官としての骨の構造の概略が説明できる。 4 骨の成長の概要が説明できる。 5 成長期の骨の特徴が説明できる。 6 骨の再生について説明できる。
		上肢帯・上肢の骨	上肢帯及び上肢を構成する骨の名称・形状・位置を知り、その役割を理解する。	1 上肢・上肢帯の骨を挙げられる。 2 骨格模型で上肢・上肢帯の骨の名称が言える。 3 上肢・上肢帯の骨の形態的特徴が説明できる。 4 上肢・上肢帯の骨の役割が説明できる。 5 骨格模型で上肢・上肢帯の骨を正しく組み立てることができる。
		下肢帯・下肢の骨	下肢帯及び下肢を構成する骨の名称・形状・位置を知り、その役割を理解する。	1 下肢・下肢帯の骨を挙げられる。 2 骨格模型で下肢・下肢帯の骨の名称が言える。 3 下肢・下肢帯の骨の形態的特徴が説明できる。 4 下肢・下肢帯の骨の役割が説明できる。 5 骨格模型で下肢・下肢帯の骨を正しく組み立てることができる。
		頭蓋・顔面・体幹の骨	頭蓋・顔面及び体幹を構成する骨の名称・形状・位置を知り、その役割を理解する。	1 頭蓋・顔面・体幹の骨を挙げられる。 2 骨格模型で頭蓋・顔面・体幹の骨の名称が言える。 3 頭蓋・顔面・体幹の骨の形態的特徴が説明できる。 4 頭蓋・顔面・体幹の骨の役割が説明できる。 5 骨格模型で頭蓋・顔面・体幹の骨を正しく組み立てることができる。
		骨の連結	骨の連結の種類と構造を知り、それぞれ代表的関節の構造的・機能的特徴を理解する。	1 骨の連結の種類が挙げられる。 2 骨の連結を種類別に構造の説明できる。 3 骨の連結を種類別に特徴が説明できる。 4 骨の連結を種類別に代表的な関節を挙げられる。
		上肢帯・上肢の骨の連結	上肢にある関節の構成骨・構造を知り、それぞれ機能及び運動上の特徴を理解する。	1 骨格模型でそれぞれの関節を示すことができる。 2 各関節を構成する骨が言える。 3 各関節の構造の概略が説明できる。 4 各関節の機能的特徴が説明できる。 5 各関節の運動が説明できる。
		下肢帯・下肢の骨の連結	下肢にある関節の構成骨・構造を知り、それぞれ機能及び運動上の特徴を理解する。	1 骨格模型でそれぞれの関節を示すことができる。 2 各関節を構成する骨が言える。 3 各関節の構造の概略が説明できる。 4 各関節の機能的特徴が説明できる。 5 各関節の運動が説明できる。
		頭蓋・顔面・体幹の骨の連結	頭蓋・顔面・体幹の骨にある関節の構成骨・構造を知り、それぞれ機能及び運動上の特徴を理解する。	1 骨格模型でそれぞれの関節を示すことができる。 2 各関節を構成する骨が言える。 3 各関節の構造の概略が説明できる。 4 各関節の機能的特徴が説明できる。 5 各関節の運動が説明できる。
		筋・腱	筋及び腱の構造と機能を知り分類する。	1 筋・腱の機能が説明できる。

			筋・腱の身体運動における役割を理解する。	2筋の構造・性質による分類ができる。 3筋の種別及び腱の構造の概略が説明できる。 4骨格筋の構造的な特徴が説明できる。 5骨格筋の役割が説明できる。
		胸部・上肢・上肢帯の筋	胸部・上肢・上肢帯における筋の配置を知り、位置と関節運動の関連を理解する。また、それぞれの関節運動への関与を理解する。	1胸部・上肢・上肢帯筋を部位別に挙げられる。 2骨格模型でそれぞれの筋の付着・走行を示せる。 3それぞれ筋と関節運動との関連の概略が説明できる。 4関節運動の主動筋を示せる。 5運動の主動筋、補助筋、拮抗筋の関連が説明できる。
		下肢・下肢帯の筋	下肢・下肢帯における筋の配置を知り、位置と関節運動の関連を理解する。また、それぞれの関節運動への関与を理解する。	1下肢・下肢帯筋を部位別に挙げられる。 2骨格模型でそれぞれの筋の付着・走行を示せる。 3それぞれ筋と関節運動との関連の概略が説明できる。 4関節運動の主動筋を示せる。 5運動の主動筋、補助筋、拮抗筋の関連が説明できる。
		頭蓋・顔面・体幹の筋	頭蓋・顔面・体幹における筋の配置を知り、位置と関節運動の関連を理解する。また、それぞれの関節運動への関与を理解する。	1頭蓋・顔面・体幹における筋を部位別に挙げられる。 2骨格模型でそれぞれの筋の付着・走行を示せる。 3それぞれ筋と関節運動との関連の概略が説明できる。 4関節運動の主動筋を示せる。 5運動の主動筋、補助筋、拮抗筋の関連が説明できる。
3	脈管系	脈管系総論	1循環器系の構成を知る。 2心、血管の構造を理解する。 3胸腺・リンパ系の器官の構造を知る。 4リンパ系と血液循環系との連関を理解する。 5細網内皮系としての骨髄、脾臓、胸腺などの構造と役割を理解する	1循環器系の構成を説明できる。 2血液循環とリンパの循環の連続性を図示できる。 3主要血管の走行と分布を提示できる。 4免疫系の要素としての骨髄、脾臓、胸腺と免疫担当細胞の概略を説明できる。 5循環調節に関わる神経との関連を説明できる。
		脈管系各論	1身体各部の動脈の構成と走行を知る。 2身体各部の静脈の構成と走行を知る。 3リンパ管の構成と走行を知る。 4胎児循環の特徴と役割を理解する。 5門脈系、下大静脈とその根、下肢と骨盤の静脈を理解する。	1身体各部の動脈の構成と走行の概要が説明できる。 2身体各部の静脈の構成と走行の概要が説明できる。 3リンパ管の構成と走行の概要が説明できる。 4胎児循環の特徴と役割が説明できる。 5門脈系、下大静脈とその根、下肢と骨盤の静脈の概要が説明できる。
4	内臓系	内臓学総論	1内臓系の種類を知る。 2系の構成臓器の種類を知る。 3それぞれ臓器の形態の概略を理解する。	1内臓系の種類を挙げられる。 2各系を構成する臓器の名称を挙げ説明できる。 3おおよその形態を描くことができる。
		消化器系	1各臓器の解剖学的な位置を知る。 2消化器系の構成臓器の位置関係を知り、連続的なつながりを理解する。 3各臓器の構造を知る。 4各臓器の消化管壁の構造が機能に適合した形として理解する。 5肝、膵など実質臓器の内景を知る。 6実質臓器の機能の概略を理解する。	1消化器系臓器の名称を挙げ機能を説明できる。 2各臓器の解剖学的な位置を示せる。 3消化器系の構成臓器の位置関係を説明し、連続的なつながりが図示できる。 4各臓器の構造が説明できる。 5各臓器の消化管壁の構造が説明できる。 6消化管壁の構造と機能の関係が説明できる。 7肝、膵など実質臓器の内景の特徴を挙げ説明できる。 8肝臓の機能の概略が説明できる。 9膵臓の機能の概略が説明できる。
		呼吸器系総論・各論	1呼吸器系臓器の名称と機能を知る。 2各臓器の解剖学的な位置を知る。 3呼吸器の構成臓器の位置関係を知り、連続的なつながりを理解する。	1呼吸器系臓器の名称を挙げ機能の概略が説明できる。 2各臓器の解剖学的な位置が説明できる。

			<p>4 各臓器の構造を知る。 5 各臓器の機能の概略を理解する。</p>	<p>3 呼吸器系の構成臓器の位置関係が説明できる。 4 連続的なつながりが図示できる。 5 各臓器の構造の特徴が説明できる。 6 各臓器の機能の概略が説明できる。</p>
		泌尿器・生殖 器総論・各論	<p>1 泌尿・生殖器系の構成臓器のつながりを理解する。 2 各臓器の構造を理解する。 3 泌尿・生殖器系臓器の機能の概略を知る。 4 腎、膀胱の構造を機能に適應した形として理解する。</p>	<p>1 泌尿器の構成臓器の種類を挙げられる。 2 泌尿器系各臓器の位置、形態を説明し図示できる。 3 泌尿器系各臓器の機能の概略が説明できる。 4 生殖器の構成臓器の種類を挙げられる。 5 生殖器系各臓器の位置、形態を説明し図示できる。 6 生殖器系各臓器の機能の概略が説明できる。</p>
5	内分泌系	内分泌系	<p>1 内分泌系の構成臓器の名称を知る。 2 解剖学的位置を知る。 3 各臓器の機能の概略を理解する。 4 臓器の内景を知り、機能との関連を理解する。</p>	<p>1 内分泌系の構成臓器の名称が挙げられる。 2 解剖学的位置を図示できる。 3 各臓器の機能の概略が説明できる。 4 臓器の内景を示せる。 5 臓器の構造と機能との関連が説明できる。</p>
6	神経系	神経系総論	<p>1 中枢神経と末梢神経の区分と存在部位、神経組織と神経系に属する細胞群を知る。 2 神経系の構成の概略を理解する。 3 ニューロンの構造、シナプスの神経終板の微細構造を知る。</p>	<p>1 中枢神経系の外観と区分を図示できる。 2 ニューロンの概念図を書き、シナプスや運動終板の概略を図示できる。</p>
		神経系各論 (中枢神経系の解剖)	<p>1 大脳の外形について概略を知る。 2 矢状断での内部構造とその意義を知る。 3 前額断での内部構造とその意義を知る。 4 脳幹の部位と区分・内部構造とその意義を知る。 5 中脳の外形と神経核について概略を知る。 6 橋と延髄の内景と神経核、伝導路について概略を知る。 7 小脳の外形と内景、神経核と神経線維の連絡について概略を知る。 8 基底核と大脳皮質の線維的連絡の概略を知る。 9 神経系と内分泌系の神経線維による連絡を理解する。</p>	<p>1 脳の外形と区分を描くことが出来る。 2 脳の機能局在について概略を説明できる。 3 脳幹の部位と区分・内部構造について概略が説明できる。 4 中脳の外形と神経核について概略が説明できる。 5 橋と延髄の神経核、伝導路について概略が説明できる。 6 小脳の外形と区分を描くことが出来る。 7 基底核と大脳皮質の線維的連絡の概略が説明できる。 8 神経系と内分泌系の神経線維による連絡について概略が説明できる。</p>
		神経系各論 (脳神経系の解剖)	<p>1 脳神経の名称を知る 2 脳神経の起始核、走行を知る。 3 脳神経の頭蓋骨の通過部を知る。 4 経過中の神経節の所在、分布などを知る。 5 各脳神経の性状及び機能を理解する。 6 脊髄の外景、区分、脊柱管との位置関係を理解する。</p>	<p>1 脳神経の名称を上げることができる。 2 脳神経の起始核、走行を説明できる。 3 脳神経の頭蓋骨の通過部を挙げ説明できる。 4 経過中の神経節の所在、分布を挙げ説明できる。 5 各脳神経の性状及び機能が説明できる。 6 大きさ、区分、断面、脊髄の断面、伝導路の配置などを図上で示すことができる。</p>
		神経系各論 (脊髄神経系の解剖)	<p>1 中枢神経及び末梢神経の概要が理解できる。 2 身体運動における神経の役割が理解できる。 3 脊髄神経の構造が理解できる。 4 重要な神経叢と末梢神経の関係を理解する。 5 四肢に分布する神経の名称・走行を知る。</p>	<p>1 中枢神経及び末梢神経の構造的差異が説明できる。 2 中枢神経及び末梢神経の機能的差異が説明できる。 3 中枢神経及び末梢神経の役割が説明できる。 4 身体運動における神経の役割が説明できる。 5 脊髄神経の構造が説明できる。 6 神経叢と関連する末梢神経を挙げられる。 7 四肢に分布する重要な神経の名称・走行を示せる。</p>

7	感覚器	感覚器系	<p>1 感覚器の種類と機能を知る。</p> <p>2 各感覚器の構造を理解する。</p> <p>3 受容器の構造と求心神経路を理解する。</p> <p>4 筋、腱、内臓に存在する感覚受容器の種類と機能を知る。</p> <p>5 筋、腱、内臓に存在する感覚受容器の分布とその役割を理解する。</p>	<p>1 感覚器の種類を挙げ、機能の概略を説明できる。</p> <p>2 特殊感覚器の構造の概略を図示できる。</p> <p>3 受容器の構造を説明し求心神経路を示せる。</p> <p>4 筋、腱、内臓に存在する感覚受容器の種類を挙げられる。</p> <p>5 筋、腱、内臓中の受容器の部位、伝導路などを示すことができる。</p>
8	体表解剖	体幹の体表解剖	体幹の体表解剖を理解、触診することができる。	体幹の触診ができる。
		上肢の体表解剖	上肢の体表解剖を理解、触診することができる。	上肢の触診ができる。
		下肢の体表解剖	下肢の体表解剖を理解、触診することができる。	下肢の触診ができる。

生理学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	生理学の基礎	生理学基礎	<ol style="list-style-type: none"> 1 人体を構成する各要素の働きを学び、人体全体としての機能を理解する。 2 細胞内小器官の構造と機能を理解する。 3 生体内での物質移動の原理を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生理学という学問の体系の概略が言える。 2 個々の細胞内小器官の機能が説明できる。 3 細胞膜を通しての物質の移動原理の種類とその仕組みが説明できる。
2	血液の生理学	体液の生理学	<ol style="list-style-type: none"> 1 体液についての区分、組成やしくみを理解する。 2 体液ナトリウムイオン量の調節と体液量を理解する。 3 体液酸塩基平衡の調節を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 体液の区分、イオン組成、ホメオスタシスを維持する仕組みを説明できる。 2 体内のナトリウムイオンが身体に与える影響、調節機構が説明できる。 3 体内の水素イオンと PH との関係が説明できる。 4 アシドーシスとアルカローシスを説明できる。
		体液調節・血液	<ol style="list-style-type: none"> 1 体液、特に細胞外液の恒常性を維持する仕組みが理解できる。 2 血液の役割を理解できる。 3 血漿成分特に血漿蛋白質の種類と機能を理解する。 4 赤血球の働き特にヘモグロビンの機能を理解する。 5 白血球の種類とそれらの機能を理解する。 6 血液凝固に関わる主たる因子と凝固の機序を理解する。 7 各血液型の凝集原と凝集素ならびに凝集反応の機序について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 細胞内液と外液とでの主なイオンの違いが答えられる。 2 体液浸透圧、体液 Na 濃度の調節の意義とその仕組みが説明できる。 3 体液の酸塩基平衡の調節の仕組みが答えられる。 4 血液の役割が答えられる。 5 血漿蛋白質を上げて基本的な働きが説明できる。 6 赤血球の機能と特徴、ヘモグロビンの働きが説明できる。 7 白血球の種類とその働きが簡単に説明できる。 8 モラビッツの凝固機序が説明できる。 9 血液型と凝集原、凝集素の関係ならびに凝集反応の機序が説明できる。
3	循環の生理学	循環	<ol style="list-style-type: none"> 1 循環の生理的意義を理解する。 2 心臓の構造と機能を理解する。 3 心筋の基本的性質と意義を理解する。 4 心電図の波形と意味を理解する。 5 心臓のポンプ機能の仕組みを理解する。 6 各血管の構造と機能を理解する。 7 血圧の発生の仕組みと測定法について学ぶ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 循環の生理的意義が説明できる。 2 特に大循環、小循環の構成を説明できる。 3 心臓の構造と機能が説明できる。 4 心筋の基本的性質を示し意義が説明できる。 5 典型的な心電図の波形を挙げ意味が説明できる。 6 心臓のポンプ機能の仕組みが説明できる。 7 各血管の構造と機能が説明できる。 8 血圧の発生の仕組みと測定法の概略が説明できる。 9 血圧に関する用語が説明できる。
		循環の調節	<ol style="list-style-type: none"> 1 リンパ管系の構成と生理的意義を理解する。 2 心血管から成る循環系の機能調節について特に神経性調節の面から学ぶ。 3 臓器ごとの特徴ある循環調節についてその意義と調節の仕組みを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 リンパの特徴が説明できる。 2 心血管機能に対する末梢受容器を介する神経性の反射調節の仕組みが説明できる。 3 特殊な局所循環を挙げ大まかな特徴が説明できる。
4	呼吸の生理学	呼吸	<ol style="list-style-type: none"> 1 呼吸器の構造とその機能について理解する。 2 換気の仕組みについて理解する。 3 換気の容量変化の名称と意味を理解する。 4 ガス交換の仕組みをガス分圧との関係から理解する。 5 酸素、二酸化炭素の血中運搬の仕組みとそれに影響する因子について学ぶ。 6 呼吸調節の仕組みを理解する。 7 呼吸の異常が起きる原因について学ぶ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 呼吸器の構造と機能を関連付けて説明ができる。 2 換気の仕組みを呼吸運動と呼吸筋から説明できる。 3 換気の容量変化の名称を挙げ説明ができる。 4 ガス交換の仕組みについてガス分圧による移動原理の面から説明できる。 5 呼吸運動の神経性調節について呼吸中枢と化学受容器の面から説明することができる。 6 代表的な呼吸異常を挙げ原因の概略が説明できる。
5	消化と吸収	消化と吸収(口腔・胃・小腸消化)	<ol style="list-style-type: none"> 1 消化器系の構造と機能を理解する。 2 口腔内における消化の仕組みを理解する。 3 胃内における消化の仕組みを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 消化器系の構造と機能が説明できる。 2 唾液の主たる成分と働きについて説明ができる。 3 胃液の成分とその働き及び特徴について説明できる。

			4 小腸内における消化の仕組みを理解する。	4 膵液の成分とその働き及び特徴について説明できる。 5 胆汁の成分とその働き及び特徴について説明できる。
		消化と吸収(吸収・消化管ホルモン)	1 大腸内における消化の仕組みを理解する。 2 栄養素の消化と吸収の仕組みについて理解する。 3 消化管ホルモンの特徴と機能について理解する。 4 肝臓の機能について理解する。	1 大腸の消化の特徴について説明できる。 2 栄養素の消化と吸収の仕組みについて説明できる。 3 消化管ホルモンの種類とその働きについて説明できる。 4 肝臓の働きを上げ、説明ができる。
6	栄養と代謝	代謝	1 代謝の生理的意味と中間代謝及びエネルギー代謝について理解する。	1 代謝について分類し説明ができる。 2 ATPの説明ができる。 3 吸収期と空腹期における中間代謝の違いが説明できる。 4 エネルギー代謝量測定が説明できる。 5 呼吸商が説明できる。 6 基礎代謝及び影響を与える因子の説明ができる。
7	体温とその調節	体温	1 体温発生の仕組みを理解する。 2 体温の生理的な変動を理解する。 3 体内の熱産生と放散の仕組みを理解する。 4 体温調節の仕組みを理解する。 5 発熱の仕組みを理解する。	1 各体温の特徴が説明できる。 2 主な生理的な変動例を上げ、説明できる。 3 体熱の産生及び放熱の仕組みが説明できる。 4 発汗の種類とその特徴ならびに機序が説明できる。
8	尿の生成と排泄	排泄	1 腎臓の構造と機能を理解する。 2 糸球体のろ過の仕組みを理解する。 3 尿細管における再吸収の仕組みと各部位の特徴を理解する。 4 尿細管での分泌の仕組みを理解する。 5 排尿の仕組みを理解する。	1 腎臓の機能について説明できる。 2 ネフロン構成要素を想起できる。 3 糸球体の機能が説明でき、ろ過されるものとされないものが区別できる。 4 クリアランスについて説明ができる。 5 尿細管の各部位の機能的特徴と各部位での再吸される物質が理解できる。 6 尿細管からの分泌物質が説明できる。 7 排尿の仕組みについて排尿反射経路を理解した上で説明ができる。
9	内分泌の機能	内分泌系の機能	1 内分泌及びホルモンの定義を理解する。 2 ホルモンの特性を理解する。 3 ホルモンの化学組成と作用機序が理解する。 4 内分泌調節の仕組みを理解する。 5 視床下部ホルモンの特徴と作用を理解する。 6 下垂体前葉ホルモンと後葉ホルモンの特徴と分泌調節ならびに作用を理解する。 7 甲状腺ホルモンの特徴と分泌調節ならびに作用を理解できる。 8 副腎皮質ホルモンである糖質コルチコイドと電解質コルチコイドの特徴と分泌調節ならびに作用を理解する。 9 副腎髄質ホルモンの特徴と分泌調節ならびに作用を理解できる。 10 膵臓ホルモンの特徴と分泌調節ならびに作用を理解する。 11 精巣、卵巣ホルモンの特徴と分泌調節ならびに作用を理解する。	1 内分泌及びホルモンの定義が説明できる。 2 ホルモンの特性が説明できる。 3 ホルモンを化学組成の相違で分類し、標的細胞への作用機序が説明できる。 4 ホルモン分泌の調節の仕組みが説明できる。 5 視床下部ホルモンの特徴と下垂体前葉ホルモンに対する分泌支配が説明できる。 6 下垂体前葉と後葉ホルモンの名前と作用が全て説明できる。 7 甲状腺ホルモンの作用と分泌調節が説明できる。 8 糖質コルチコイドと電解質コルチコイドの名前を挙げ、両者の作用と分泌調節に仕組みが説明できる。 9 副腎髄質ホルモンのアドレナリンとノルアドレナリンの作用及び両者の相違と分泌調節の特徴が説明できる。 10 膵臓ホルモンの名前を挙げ、作用と分泌調節が説明できる。 11 精巣ホルモン、卵巣ホルモンの名前が全を挙げ、作用と分泌調節の仕組みが説明できる。
10	生殖	生殖	1 性染色体と性分化の仕組みを理解する。 2 男性生殖器の構成と精子形成の仕組みを理解する。 3 女性生殖器の構成と卵巣周期及び月経周期の成り立ちについて理解する。 4 妊娠と分娩及び乳汁分泌の仕組みを理解する。	1 生殖腺及び副生殖器の性分化の仕組みが説明できる。 2 精子形成の仕組みが説明できる。 3 卵巣周期と月経周期の成り立ちとそれに関わるホルモンとの関係を説明できる。 4 妊娠と分娩の仕組みが説明できる。
11	骨の生理学	骨の生理学	1 カルシウム代謝に関わるホルモンの作用を理解する。	1 ビタミンD、上皮小体ホルモン、カルシトニンそれぞれのカルシウム代謝に対する働きを説明できる。

12	神経の基本的機能	神経の基本的機能	<ul style="list-style-type: none"> 1 ニューロンの構成と興奮について理解する。 2 静止膜電位と活動電位の発生機序とその意義を理解する。 3 イオンチャネルについて理解する。 4 興奮伝導の仕組みとその三原則ならびに神経線維の太さとの関係を理解する。 5 興奮伝達についてシナプス伝達の仕組みと特徴を理解する。 6 シナプス接続とシナプス前抑制を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 ニューロンの機能が説明できる。 2 静止膜電位の意味と発生の仕組みが説明できる。 3 活動電位の意味と発生の仕組みが説明できる。 4 興奮伝導の三原則を想起し、その特徴が説明できる。 5 神経線維の種類と伝導速度との関係が説明できる。 6 シナプス伝達の特徴を想起し、各々を説明できる。 7 末梢神経終末で放出される化学伝達物質が想起できる。
		神経系の機能 1	<ul style="list-style-type: none"> 1 神経系における反射機能の生理的意義と反射弓の構成を理解する。 2 体性神経系と自律神経系の機能的役割を理解する。 3 末梢神経と中枢神経の特徴を理解する。 4 脊髄の構造と機能について理解する。 5 脳神経とその機能について理解する。 6 交感神経、副交感神経の解剖学的及び機能的な相違を理解する。 7 自律神経の内臓支配の特徴を理解する。 8 内臓反射の機序を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 神経の反射弓が想起でき、その意義が説明できる。 2 神経系を機能別に分類でき、その働きが説明できる。 3 脊髄の構造と機能の概略と特にベル・マジャンディーの法則が説明できる。 4 脳神経を全て挙げることができ、機能の説明と神経の構成が説明できる。 5 交感神経と副交感神経の解剖学的特徴と両者の機能面の相違を、内臓支配を含めて説明できる。 6 内臓反射の種類を想起し、例を挙げる事ができる。
		神経系の機能 2	<ul style="list-style-type: none"> 1 運動神経による骨格筋支配の仕組みを理解する。 2 筋紡錘、腱紡錘の機能的役割について理解する。 3 脊髄反射である伸張反射と屈曲反射を中心にその機序と反射の意義及び反射の構成要素を理解する。 4 脳幹における運動機能調節について姿勢反射を中心にその仕組みと生理的意義が理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 運動単位の説明ができる。 2 筋紡錘の役割が説明できる。 3 伸張反射・屈曲反射についてことばの意味とその発現機序が説明できる。 4 姿勢反射の種類が想起できる。
		神経系の機能 3	<ul style="list-style-type: none"> 1 小脳、大脳基底核の機能を理解する。 2 新皮質運動野の機能区分を理解する。 3 新皮質では高次機能が局在していることを理解する。 4 神経細胞の活動状態を脳波の波形から理解する。 5 覚醒と睡眠の仕組みを理解する。 6 認知、言語、意志などを司っている連合野の働きを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 小脳と大脳基底核の機能が簡単に説明できる。 2 大脳皮質の機能局在について簡単に説明できる。 3 脳波を分類し、その特徴が説明できる。 4 レム睡眠とノンレム睡眠の違いを説明できる。 5 認知、言語、意志などと連合野の関係及び働きが説明できる。
13	筋肉の機能	筋肉の機能	<ul style="list-style-type: none"> 1 骨格筋の構造を理解する。 2 筋収縮の仕組みを理解する。 3 筋細胞膜を興奮させる仕組みを理解する。 4 骨格筋の収縮の仕方を理解する。 5 筋収縮のエネルギーとしての ATP 供給の仕組みを理解する。 6 骨格筋、心筋、平滑筋の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 骨格筋の構造を説明できる。 2 筋収縮の仕組みが説明できる。 3 骨格筋収縮様式とその特徴が説明できる。 4 筋収縮に ATP がどのように関わっているかを説明できる。 5 骨格筋、心筋、平滑筋のそれぞれの特徴が十分に説明できる。
14	感覚の生理学	感覚の生理学	<ul style="list-style-type: none"> 1 感覚の種類と一般的性質を理解する。 2 皮膚感覚である痛覚、触圧覚、温冷覚の特徴を理解する。 3 深部感覚の特徴と種類と意味を理解する。 4 内臓感覚の種類と特徴、更に内臓痛の特徴を理解する。 5 味覚の特徴と種類と発生機序を理解する。 6 耳の構造と聴覚発生機序を理解する。 7 前庭器官の構造を理解する。 8 眼の構造を理解する。 9 遠近調節の仕組みを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 感覚の種類を想起し、説明できる。 2 それぞれの皮膚感覚の主たる特徴が説明できる。 3 深部感覚と内臓感覚の特徴が説明できる。 4 内臓痛の特徴が説明できる。 5 関連痛の機序が説明できる。 6 嗅覚の発生機序が説明できること。 7 聴覚の発生機序を外耳から内耳方向に主たるポイントを抑えながら説明できる。 8 遠近調節の仕組みが正しく説明できる。 9 結像異常の種類を上げ、その原因が説明できる。

運動学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	運動学の目的	運動学の定義と領域	1 医療の運動学が身体各部の運動のメカニズムを理解する学問であることを知る。 2 医療における運動学の領域と目的を知る。	1 医療の運動学が身体各部の運動を力学的・解剖学的・生理学的にメカニズムを理解する学問であることが説明できる。 2 医療における運動学の領域が力学、運動器の構造と働き、神経系システムの運動制御、骨格連鎖システムのメカニズム、姿勢や歩行といった基本運動の仕組み及び動作獲得のための運動発達や学習理論なども含まれることが説明できる。
2	運動の表し方	運動の表記	1 身体運動の面と軸の表記法を知る。 2 身体各部の関節運動の名称と意味を知る。	1 身体運動の面と軸の表記法を説明できる。 2 身体各部の関節運動の名称を挙げ、その運動の方向が説明できる。
3	身体運動と力学	力学の基礎	1 変位、速度・加速度、ベクトル、運動の法則について学習する。 2 仕事、仕事率、力のモーメント、テコについて学習する。	1 変位の力学的意味を説明できる。 2 速度・加速度の力学的意味を説明できる。 3 ベクトルの力学的意味を説明できる。 4 ニュートンの運動法則を説明できる。 5 仕事の力学的意味を説明できる。 6 仕事率の力学的意味を説明できる。 7 力のモーメントを説明できる。 8 テコについて例を挙げて説明できる。
4	運動器の構造と機能	骨格筋の基礎	1 骨格筋の筋収縮の様態を理解する。 2 骨格筋の機能を理解する。 3 筋の張力と筋長について理解する。	1 骨格筋の筋収縮の様態について説明できる。 2 骨格筋の機能を挙げ、説明できる。 3 筋の張力と筋長との関係について説明できる。
		上肢帯と上肢の構造	1 上肢帯を構成する関節を知る。 2 肩甲骨の位置と機能を知る。 3 肩関節を構成する骨を知り、構造を理解する。	1 上肢帯を構成する関節を挙げ、関節構造を説明できる。 2 肩甲骨の位置を示し、機能を説明できる。 3 肩関節を構成する骨を挙げ、構造を説明できる。
		肘と前腕の関節の構造	1 肘と前腕にある関節の構造を理解する。 2 上腕骨遠位端部の構造の特徴を理解する。 3 前腕骨近位端部の構造の特徴を理解する。 4 肘角を理解して、意義を理解する。	1 肘と前腕にある関節を挙げ、その構造を説明できる。 2 上腕骨遠位端部の構造の特徴を挙げ、解剖学的意義を説明できる。 3 前腕骨近位端部の構造の特徴を挙げ、解剖学的意義を説明できる。 4 肘角の構成を示し、その意義を説明する。
		手部の関節の構造	1 手部を構成する骨を理解する。 2 手関節の構造を理解する。 3 手部にある各関節を構成する骨を知り、その構造を理解する。 4 手根管を構成する骨を知り、その構造を理解する。	1 手部を構成する骨を挙げられる。 2 手関節の構造と特徴を説明できる。 3 手部にある各関節を構成する骨を挙げ、その構造と特徴を説明できる。 4 手根管を構成する骨を挙げ、その構造と特徴を説明できる。
		顔面・頭部の構造	1 顔面・頭部を構成する骨を理解する。 2 顔面・頭部の構造を理解する。 3 顎関節を構成する骨を知り、関節構造を理解する。 4 顎関節円板を知り構造を理解する。	1 顔面・頭部を構成する骨を挙げられる。 2 顔面・頭部の構造と特徴を説明できる。 3 顎関節を構成する骨を挙げ、その構造と特徴を説明できる。 4 顎関節円板の構造と特徴を説明できる。
		下肢帯と自由下肢の構造	1 下肢帯を構成する関節を知る。 2 骨盤骨の位置と機能を知る。 3 股関節を構成する骨を知り、構造を理解する。	1 下肢帯を構成する関節を挙げ、関節構造を説明できる。 2 骨盤骨の位置を示し、機能を説明できる。 3 股関節を構成する骨を挙げ、構造を説明できる。
		膝関節の構造	1 膝関節を構成する骨を知る。 2 膝関節の構造を理解する。 3 半月板・側副靭帯・十字靭帯の構造を理解する。 4 膝関節運動で半月板・側副靭帯・十字靭帯の役割を理解する。	1 膝関節を構成する骨を挙げられる。 2 膝関節の構造を説明できる。 3 半月板・側副靭帯・十字靭帯の構造を説明できる。 4 膝関節運動で半月板・側副靭帯・十字靭帯の主な役割を挙げ、説明できる。
		足の骨と関節	1 距腿関節を構成する骨を知る。	1 距腿関節を構成する骨を挙げ、その構

			<ul style="list-style-type: none"> 2 距腿関節の構造と機能を知る。 3 足根中足関節を構成する骨を知る。 4 足根中足関節の構造と機能を知る。 5 中足指節関節を構成する骨を知る。 6 中足指節関節の構造と機能を知る。 7 指節間関節を構成する骨を知る。 8 指節間関節の構造と機能を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 造と機能が説明できる。 2 足根中足関節を構成する骨を挙げ、その構造と機能が説明できる。 3 中足指節関節を構成する骨を挙げ、その構造と機能が説明できる。 4 指節間関節を構成する骨を挙げ、その構造と機能が説明できる。
		足のアーチとその機能	<ul style="list-style-type: none"> 1 足部にあるアーチ構造を知る。 2 それぞれのアーチを構成する骨を知る。 3 それぞれのアーチについて主要な機能を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 足部にあるアーチ構造を挙げることができる。 2 それぞれのアーチを構成する骨を挙げ、アーチの形状の概略を図示できる。 3 それぞれのアーチについて主要な機能が説明できる。
		体幹の構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> 1 各部の椎骨の形態的な特徴を知る。 2 脊柱の生理的彎曲を知る。 3 脊椎の連結について特徴を理解する。 4 脊椎の機能を理解する。 5 椎間円板の構造と機能を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 各部の椎骨の形態的な特徴を挙げられる。 2 脊柱の生理的彎曲を説明できる。 3 脊椎の連結について特徴をあげ、概要が説明できる。 4 脊椎の機能が説明できる。 5 椎間円板の構造を示し、その機能を説明できる。
5	運動感覚	運動感覚	<ul style="list-style-type: none"> 1 運動感覚を理解する。 2 運動感覚の受容器を知る。 3 運動制御に関与する運動感覚受容器を知り、コントロールのメカニズムを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 運動感覚が説明できる。 2 運動感覚の受容器を挙げられる。 3 運動感覚受容器と運動制御のメカニズムが説明できる。
6	反射と随意運動	反射と随意運動	<ul style="list-style-type: none"> 1 随意運動と不随意運動の相違を理解する。 2 反射と随意運動の関連を理解する。 3 運動制御のメカニズムを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 随意運動と不随意運動の相違が説明できる。 2 反射と随意運動の関連が説明できる。 3 運動制御のメカニズムが説明できる。
7	四肢と体幹の運動	肩関節の運動	<ul style="list-style-type: none"> 1 肩関節運動の特徴を知る。 2 上肢帯の運動の特徴を知る。 3 上肢帯と肩関節の運動に関与する筋を知る。 4 肩関節の運動方向と筋との関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 肩関節運動の運動方向と特徴が挙げられる。 2 上肢帯の運動の特徴が挙げられる。 3 上肢帯と肩関節の運動に関与する筋が挙げられる。 4 肩関節の運動方向と筋との関係が説明できる。
		肘関節の運動	<ul style="list-style-type: none"> 1 肘関節と前腕部の運動の特徴を知る。 2 肘関節と前腕部の運動に関与する筋を知る。 3 肘関節と前腕部の運動方向と筋との関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 肘関節と前腕部の運動の特徴が挙げられる。 2 肘関節と前腕部の運動に関与する筋が挙げられる。 3 肘関節と前腕部の運動方向と筋との関係が説明できる。
		手の運動	<ul style="list-style-type: none"> 1 手関節の運動の特徴を知る。 2 手関節の運動に関与する筋を知る。 3 手部の各関節の運動と筋との関係を理解する。 4 手の把持動作を理解する。 5 腱鞘、指背腱膜の構造を知る。 6 指背腱膜の障害によって起こる手部の変形を知る。 7 上肢の末梢神経麻痺によって起こる手部の変形を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 手関節の運動の特徴が挙げられる。 2 手関節の運動に関与する筋が挙げられる。 3 手部の各関節の運動と筋との関係が説明できる。 4 手の把持動作の特徴が説明できる。 5 腱鞘、指背腱膜の構造を示すことができる。 6 指背腱膜の障害によって起こる手部の変形が説明できる。 7 上肢の末梢神経麻痺によって起こる手部の変形が説明できる。
		股関節とその運動	<ul style="list-style-type: none"> 1 股関節運動の特徴を知る。 2 股関節の運動に関与する筋を知る。 3 股関節の運動方向と筋との関係を理解する。 4 トレンデレンブルグ徴候を理解し、原因となる障害と徴候発生との関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 股関節運動の特徴を挙げられる。 2 股関節の運動に関与する筋を挙げられる。 3 股関節の運動方向と筋との関係が説明できる。 4 トレンデレンブルグ徴候を説明し、原因となる障害と徴候発生との関係が説明できる。
		膝関節の運動	<ul style="list-style-type: none"> 1 膝関節の運動を理解する。 2 膝関節の運動方向と筋との関係を理解する。 3 下腿の回旋運動に関与する筋を知る。 4 膝蓋骨の運動を理解し、関与する筋を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 膝関節の運動の特徴を挙げ、説明できる。 2 膝関節の運動方向と筋との関係が説明できる。 3 下腿の回旋運動に関与する筋が挙げられる。 4 膝蓋骨の運動の特徴を説明し、運動に関与する筋を示すことができる。

		足関節及び足部の運動	<ul style="list-style-type: none"> 1 足関節の背屈・底屈運動の特徴を知る。 2 足関節の背屈・底屈運動に関与する筋を知る。 3 足部の内がえしと外がえし運動の特徴を知る。 4 足部の内がえしと外がえし運動に関与する筋を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 足関節の背屈・底屈運動の特徴を挙げ、説明できる。 2 足関節の背屈・底屈運動に関与する筋を挙げ、関係が説明できる。 3 足部の内がえしと外がえし運動の特徴を挙げ、説明できる。 4 足部の内がえしと外がえし運動に関与する筋を挙げ、関係が説明できる。
		足部の関節の運動と筋	<ul style="list-style-type: none"> 1 足根中足関節の運動の特徴と関与する筋を知る。 2 中足指節関節の運動の特徴と関与する筋を知る。 3 趾節間関節の運動の特徴と関与する筋を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 足根中足関節の運動の特徴を挙げ、筋との関係が説明できる。 2 中足指節関節の運動の特徴を挙げ、筋との関係が説明できる。 3 趾節間関節の運動の特徴を挙げ、筋との関係が説明できる。
		体幹とその運動	<ul style="list-style-type: none"> 1 胸椎と胸郭の運動の特徴と関与する筋を知る。 2 体幹の運動の特徴と関与する筋を知る。 3 各部の椎間関節面の特徴と運動範囲との関連を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 胸椎と胸郭の運動の特徴を挙げ、筋との関係が説明できる。 2 体幹の運動の特徴を挙げ、筋との関係が説明できる。 3 各部の椎間関節面の特徴と運動範囲との関連が説明できる。
8	姿勢	姿勢	<ul style="list-style-type: none"> 1 姿勢と動作との関係を理解する。 2 バランス保持に対する姿勢の影響を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 姿勢の安定と不安定を説明できる。 2 姿勢と動作との関係が説明できる。 3 バランス保持に対する姿勢の影響について説明できる。
9	歩行	歩行	<ul style="list-style-type: none"> 1 歩行周期、一步、重複歩、ケイデンス、足角、歩隔、歩幅の意味を理解する。 2 歩行時の重心移動について理解する。 3 歩行時の股・膝・足関節の運動、体幹の運動について理解する。 4 歩行と筋活動、歩行と走行、歩行とエネルギー消費について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 歩行周期、一步、重複歩、ケイデンス、足角、歩隔、歩幅について、それぞれの意味が説明できる。 2 歩行時の重心移動を説明できる 3 歩行と股・膝・足関節の運動、体幹の運動の関係について説明できる。 4 歩行と筋活動、歩行と走行、歩行とエネルギー消費の関係について説明できる。
10	運動発達	小児の運動発達	<ul style="list-style-type: none"> 1 小児の発達段階を知る。 2 発達障害の概要を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 小児の年齢と可能になる運動とをいえる。 2 主な発達障害を挙げる概要が説明できる。
11	運動学習	運動学習	<ul style="list-style-type: none"> 1 運動学習と行動の遂行の関係を知る。 2 運動学習の3段階を知る。 3 運動学習における訓練及び練習の重要性を理解する。 4 運動学習による運動技能の保持を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 運動学習と行動の遂行の関係が説明できる。 2 運動学習の3段階が挙げられる。 3 運動学習における訓練及び練習の重要性が説明できる。 4 運動学習による運動技能の保持について説明できる。

病理学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	病理学とは	病理学の意義	1 疾病の原因、経過などについて細胞、組織、臓器などの形態の変化を研究する学問であることを理解する。 2 病理学の観察方法等を学習する。	1 病理学の意義・方法の概要を説明できる。
2	疾病の一般	疾病の一般	1 疾病の分類を理解する。 2 症候の意義を理解する。 3 疾病の経過、予後、転帰を理解する。	1 疾病の分類を説明できる。 2 疾病の分類や経過、予後、転帰を理解できる。
3	細胞傷害	退行性病変(代謝障害1)	1 退行性病変(代謝障害)の定義を学習する。 2 萎縮の種類や原因を理解する。 3 変性の定義や分類、原因を理解する。 4 代謝障害と疾病との関係を理解する。 5 老化の現象について理解する。	1 退行性病変(代謝障害)を分類することができる。 2 萎縮の種類や原因が説明できる。 3 変性の分類や原因が説明できる。 4 代謝障害と疾病との関係について説明できる。 5 老化のメカニズムを説明できる。
		退行性病変(代謝障害2)	1 壊死の定義、分類、転帰を理解させる。 2 死の定義、判定、変化を理解させる。	1 壊死、死について理解できる。
4	循環障害	循環障害 血液の循環障害	1 循環についての復習をする。 2 充血の原因と結果を理解させる。 3 うっ血・虚血の原因と結果を理解する。 4 出血の形状や原因、分類、影響、結果を理解させる。 5 血栓形成の機転、部位、転帰を理解する。 6 塞栓・梗塞の種類や経過を理解する。 7 浮腫の成因、性状、病態、転帰を理解する。 8 脱水症・高血圧症について理解する。	1 充血・うっ血・虚血・出血・血栓・塞栓・梗塞についての原因や分類、病態、転帰が理解できる。 2 浮腫や脱水症・高血圧症について理解できる。
5	進行性病変(病的増殖)	進行性病変(病的増殖)	1 肥大や過形成の定義、分類を理解する。 2 再生の定義、分類、機転を理解する。 3 化生について理解する。 4 組織の修復過程を理解する。 5 組織内異物の排除、器質化、被包について理解する。 6 移植の定義、分類を理解する。	1 肥大、過形成、再生、化生について説明できる。 2 創傷治癒や組織内異物の処理について説明できる。
6	炎症	炎症	1 炎症の原因を理解する。 2 炎症における組織の障害、循環障害及び滲出機転、組織増生を理解する。 3 炎症の経過や形態による分類を理解する。	1 炎症の原因や形態学的変化を理解できる。 2 炎症の分類を説明できる。
7	免疫異常、アレルギー	免疫異常、アレルギー	1 免疫の仕組みについて理解する。 2 抗原・抗体・液性免疫・細胞性免疫について理解する。 3 補体・サイトカインの反応について理解する。 4 原発性免疫不全と後天性免疫不全について理解する。 5 自己免疫疾患の代表的疾患の病因を理解する。 6 アレルギー I～V型について理解する。	1 免疫異常について説明できる。 2 アレルギーの発生機序により I～V型に分けられることについて説明できる。
8	腫瘍	腫瘍	1 腫瘍の定義・外形・色調・硬さ・二次変化について理解する。 2 腫瘍細胞・腫瘍マーカー・組織の構造について理解する。 3 良性腫瘍と悪性腫瘍との相違を理解する。 4 腫瘍の発生の機構や生体への影響・発生原因を理解する。 5 癌の診断と治療・腫瘍の分類を理解する。	1 腫瘍の定義・腫瘍細胞や良性と悪性の違いについて説明できる。 2 腫瘍の発生の機構が理解できる。 3 腫瘍の診断・治療・分類を説明できる。
9	先天性異常	先天異常	1 遺伝子・染色体について理解する。 2 単因子性遺伝の形式をとる疾患を理解する。 3 多因子性遺伝の形式をとる疾患を理解する。 4 奇形の原因・種類について理解する。	1 単因子性遺伝の形式をとる疾患を説明できる。 2 多因子性遺伝の形式をとる疾患を説明できる。 3 奇形の原因・種類について理解できる。
10	病因	病因・内因・外因	1 病因となる様々な原因を理解する。 2 疾病の素因を大別し、疾病になりやす	1 病因となる様々な原因を挙げ、説明できる。

		<p>い状態を学習する。</p> <p>3 内因により起こる疾病の発生原因を学習し、病因と原因の関係を理解する。</p> <p>4 外因により起こる疾病の発生原因を学習し、病因と原因の関係を理解する。</p>	<p>2 疾病の素因を大別し、疾病になりやすい状態を挙げ、説明できる。</p> <p>3 内因により起こる疾病の発生原因を挙げ、病因と原因の関係を説明できる。</p> <p>4 外因により起こる疾病の発生原因を挙げ、病因と原因の関係を説明できる。</p>
--	--	--	---

衛生学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動 健康の概念	公衆衛生の歴史と健康の概念	1 WHO の健康の定義を理解する。 2 WHO の国際障害分類を理解する。 3 健康に関わる要因を包括的に理解する。 4 衛生統計を行う意味を理解する。 5 主要な衛生統計の種類とその意味合いを理解する。(静態・動態統計を含む) 6 衛生統計による現在の傾向が理解できる。 7 衛生学・公衆衛生学の歴史が理解できる。 8 公衆衛生活動の概要が理解できる。	1 WHO の健康の定義を挙げ、意味合いを説明できる。 2 WHO の国際障害分類を挙げ、それぞれのステージ分類における健康的な生活を説明できる。 3 健康に関わる要因を列挙できる。 4 衛生統計を行う意味を説明できる。 5 主要な衛生統計の種類を挙げ、意味合いを説明できる。(静態・動態統計を含む) 6 衛生統計による現在の傾向が判り、意味付けができる。
2	疾病予防と健康管理	疾病予防と健康管理	1 疾病の自然史が理解できる。 2 疾病自然史に対応する予防が理解できる。 3 生活習慣病を理解し、要因を知る。 4 健康管理の意味合いが理解できる。 5 集団検診の概要が理解できる。	1 疾病の自然史を知っている。 2 疾病自然史に対応する予防のステージを挙げられる。 3 生活習慣病を説明でき、要因を挙げられる。 4 健康管理の意味合いが解る。 5 集団検診の概要が説明できる。
3	感染症の予防	感染症の予防	1 感染症とはどのようなものか理解する。 2 感染症成立の条件が理解できる。 3 感染症予防対策の原則を理解する。 4 感染症予防に関する法律の意味合いが理解できる。	1 感染症とはどのようなものか説明できる。 2 感染症成立の条件が説明できる。 3 感染症予防対策の原則が例を挙げて説明できる。 4 感染症予防に関する法律が挙げられる。 5 感染症予防に関する法律の意味合いが説明できる。
4	消毒	消毒	1 消毒法の意義が理解できる。 2 消毒法の基本的知識を理解する。 3 消毒法の種類と方法が理解できる。 4 消毒対象物別に適した消毒法を理解する。	1 消毒法の意義が説明できる。 2 消毒法の基本的知識を挙げられる。 3 消毒法の種類と方法が挙げられ、分類できる。 4 消毒対象物別に適した消毒法を挙げられる。
5	環境衛生(環境保健)	環境保健	1 環境問題とその内容が理解できる。 2 環境因子(人工的)で人体に影響を及ぼす因子を理解できる。 3 公害の定義を挙げ、関係法規、行政対応が理解できる。 4 地球環境維持のための行政の取組が理解できる。	1 環境問題とその内容が挙げられる。 2 環境因子(人工的)で人体に影響を及ぼす因子を説明できる。 3 公害の定義を挙げ、関係法規、行政対応が説明できる。 4 地球環境維持のための行政の取組が説明できる。

リハビリテーション医学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	リハビリテーションの概念と歴史 リハビリテーション医学	総論	1 リハビリテーションの定義と概念を知る。 2 医学的リハビリテーションの意義を知る。 3 障害レベルの分類と必要性を理解する。	1 リハビリテーションの定義と概念及び主要目的を示せる。 2 リハビリテーションの歴史の概略を示せる。 3 医学的リハビリテーションとリハビリテーション医学の関係を説明できる。 4 障害のレベルを示し相互関係の概略が説明できる。 5 リハビリテーション医学の流れの概略が説明できる。 6 リハビリテーションにおける障害の受容の重要性が説明できる。
2	リハビリテーション医学の基礎医学	機能解剖	1 運動に関与する器官の概要を知る。 2 運動コントロール機構の概要を理解する。 3 上肢の運動と機能解剖を理解する。 4 下肢の運動と機能解剖を理解する。 5 姿勢保持・歩行の機構を理解する。	1 関節運動・筋の作用の概要が説明できる。 2 錐体路・錐体街路・反射の機構による運動コントロールの概要が説明できる。 3 姿勢保持・歩行の機構が説明できる。 4 上肢にある大関節の運動と機能解剖が説明できる。 5 下肢にある大関節の運動と機能解剖が説明できる。 6 脊柱の運動と機能解剖が説明できる。
		障害学	関節・筋・神経の障害を理解する。	1 関節拘縮の発生機序について概要が説明できる。 2 関節の変形を原因別に分類できる。 3 筋萎縮の発生機序・分類について概要が説明できる。 4 神経麻痺の分類と障害について概略が説明できる。
		治療学	1 運動障害の原因部位と評価手段を知る。 2 リハビリテーション治療の概要を理解する。	1 運動障害をきたす原因部位を分類、関連器官と評価手段の種類を挙げ概略を説明できる。 2 治療アプローチの原則を障害レベル別に説明できる。 3 機能障害に対する治療の概略を説明できる。 4 拘縮治療の概略が説明できる。 5 筋力増強訓練の概略が説明できる。 6 バイオフィードバックについて概略が説明できる。 7 痛みに対する治療の概略が説明できる。
3	リハビリテーション医学の評価と診断	評価と診断	1 障害モデルにおける評価の意義を理解する。 2 ゴール設定・評価の目的について理解する。 3 病歴による障害評価について理解する。 4 身体計測、関節可動域測定及び徒手筋力検査ができる。 5 中枢性運動障害、小児運動発達の評価法を理解する。 6 協調性テストの種類を知り方法を修得する。 7 失認・失行を理解し評価法の概要を理解する。 8 心理評価、日常生活動作の評価の概要を知る。 9 電気生理学的検査、画像診断の概要を理解する。	1 障害モデルにおける評価の意義を説明できる。 2 評価の目的を説明しゴール設定で評価の持つ意義を説明できる。 3 病歴聴取と障害評価の関係が説明できる。 4 身体計測、関節可動域測定及び徒手筋力検査の意義を説明し実施できる。 5 中枢性運動障害の評価法の概略が説明できる。 6 小児運動発達の概要を説明し障害評価法の概略が説明できる。 7 協調性テストの意義と運動失調の種類を示し概略が説明できる。 8 失認・失行の意義と種類を示し評価法の概要を説明できる。 9 心理評価の概要を説明できる。 10 日常生活動作の評価項目を挙げ概要を説明できる。 11 電気生理学的検査、画像診断の概要を説明できる。
4	リハビリテーションの治療	リハビリテーションの治療	1 理学療法法の定義・適応・実施過程を理解する。 2 運動療法の種類・適応・期待される効果を知る。	1 理学療法法の定義・適応・実施過程の概略を説明できる。 2 運動療法の種類・適応・期待される効果について説明できる。

			<p>3 物理療法の種類・適応・期待される効果を知る。</p> <p>4 牽引・マッサージ・マニピュレーションの適応・禁忌・効果について理解する。</p> <p>5 作業療法概要を理解し種類と適応を知る。</p> <p>6 装具の分類・使用目的・適応を理解する。</p> <p>7 義肢・歩行補助具の分類・使用目的・適応を理解する。</p> <p>8 自助具・介助機器の分類・使用目的・適応を理解する。</p> <p>9 言語障害の分類と概要を理解する。</p> <p>10 言語療法の概要を理解する。</p>	<p>3 運動療法の実施法の概略が説明できる。</p> <p>4 物理療法の種類・適応・期待される効果について説明できる。</p> <p>5 物理療法の実施上起こる危険性を示し説明できる。</p> <p>6 牽引・マッサージ・マニピュレーションの適応・禁忌・効果について説明し起こりうる事故回避の方法を示せる。</p> <p>7 作業療法の概要と種類を示し説明できる。</p> <p>8 装具の分類・使用目的・適応について説明できる。</p> <p>9 義肢・歩行補助具の分類・使用目的・適応について説明できる。</p> <p>10 自助具・介助機器の分類・使用目的・適応について説明できる。</p> <p>11 言語障害の分類を示し概要が説明できる。</p> <p>12 言語療法の概要が説明できる。</p>
5	リハビリテーション医学と関連職種	リハビリテーション関連職種	関連職種の資格と役割を知る。	<p>1 リハビリテーション医の役割の概要が説明できる。</p> <p>2 理学療法士の資格と役割の概要が説明できる。</p> <p>3 作業療法士の資格と役割の概要が説明できる。</p> <p>4 リハビリテーション看護師の役割の概要が説明できる。</p> <p>5 言語療法士の資格と役割の概要が説明できる。</p> <p>6 臨床心理士の資格と役割の概要が説明できる。</p> <p>7 ソーシャルワーカーの資格と役割の概要が説明できる。</p> <p>8 義肢装具士の資格と役割の概要が説明できる。</p>
6	リハビリテーションの実際	脳卒中のリハビリテーション	<p>1 脳卒中の分類・障害種類について理解する。</p> <p>2 脳卒中リハビリテーションの概略を知る。</p>	<p>1 脳卒中の分類と特徴の概要が説明できる。</p> <p>2 脳卒中にみられる障害を挙げ概要が説明できる。</p> <p>3 ブルンストロームの Stage 分類で概要が説明できる。</p> <p>4 脳卒中リハビリテーションを回復期別に概要が説明できる。</p>
		脊髄損傷のリハビリテーション	<p>1 脊髄損傷について概要を理解する。</p> <p>2 脊髄損傷リハビリテーションの概略を知る。</p>	<p>1 脊髄損傷の病態・損傷部位と機能予後の関係を概略的に説明できる。</p> <p>2 脊髄損傷における合併症を挙げ対策の概要を示せる。</p> <p>3 脊髄損傷リハビリテーションを回復期別に概要が説明できる。</p>
		小児疾患のリハビリテーション	小児疾患リハビリテーション概略を知る。	<p>1 脳性麻痺の特徴と診断について概略が説明できる。</p> <p>2 脳性麻痺のリハビリテーションの概要を示せる。</p> <p>3 二分脊椎とそのリハビリテーションの概要を示せる。</p> <p>4 筋ジストロフィーとそのリハビリテーションの概要を示せる。</p> <p>5 血友病・熱傷・心疾患の概略が説明できる。</p>
		切断・末梢神経・リウマチのリハビリテーション	<p>1 切断の実体とリハビリテーションの概要を知る。</p> <p>2 末梢神経損傷の実体とリハビリテーションの概要を知る。</p> <p>3 関節リウマチの実体とリハビリテーションの概要を知る。</p>	<p>1 切断の原因・適応・切断部位の名称を挙げ説明できる。</p> <p>2 切断のリハビリテーションの概要を示せる。</p> <p>3 末梢神経損傷の分類・重傷度分類の概要を示せる。</p> <p>4 末梢神経損傷のリハビリテーションの概要を示せる。</p> <p>5 関節リウマチの概略が説明できる。</p> <p>6 関節リウマチのリハビリテーションの概要を示せる。</p>

		腰痛・頸腕痛のリハビリテーション	<p>1 腰痛疾患とリハビリテーションの概要を知る。</p> <p>2 頸腕痛を起こす疾患とリハビリテーションの概要を知る。</p> <p>3 五十肩・骨折のリハビリテーションの概要を知る。</p>	<p>1 腰痛の原因疾患を挙げ、腰痛発生機序を説明できる。</p> <p>2 腰痛のリハビリテーションの概要が示せる。</p> <p>3 頸腕痛の原因疾患を挙げ発生機序の概要が説明できる。</p> <p>4 頸腕痛のリハビリテーションの概要が示せる。</p> <p>5 五十肩・骨折の病態の概略が説明できる。</p> <p>6 五十肩・骨折のリハビリテーションの概要が示せる。</p>
		心疾患・呼吸器疾患のリハビリテーション	<p>1 心疾患とリハビリテーションの概要を知る。</p> <p>2 呼吸器疾患とリハビリテーションの概要を知る。</p>	<p>1 心疾患とリハビリテーションの概要が説明できる。</p> <p>2 呼吸器疾患とリハビリテーションの概要が説明できる。</p>
		老人のリハビリテーション	老人のリハビリテーションの特殊性を知る。	老人のリハビリテーションの特殊性が説明できる。
7	リハビリテーションと福祉	リハビリテーションと福祉	リハビリテーション関連法規の概要を知る。	リハビリテーション関連法規の概要が説明できる。

一般臨床医学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	診察の意義 診察の進め方	診察概論・問診・視診	1 診察の意義を理解する。 2 診察の進め方を知り診療の過程を理解する。 3 問診すべき項目を知りその意義を理解する。 4 視診の意義を理解しその方法の概略を知る。	1 診察の概要と意義を説明できる。 2 診察の種類を問診・身体診察に分け示せる。 3 診察の進め方と評価・記録を、順を追って説明できる。 4 問診する項目を挙げ意義を説明できる。 5 視診の意義を説明し方法を示せる。
2	医療面接	医療面接	医療面接の基本を理解する。	1 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で患者に接することができる。 2 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。 3 病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。 4 診察で得た所見、診断、必要な検査を説明、報告できる。
3	視診	視診	1 体格・体型、体位・姿勢、栄養状態、精神状態、異常運動、歩行、皮膚の状態の視診項目と意義を理解する。 2 身体各部の視診項目と代表的な疾患と臨床所見の関係を知る。	3 体格・体型での視診項目を挙げ意義を説明できる。 4 体位・姿勢での視診項目を挙げ意義を説明できる。 5 栄養状態での視診項目を挙げ意義を説明できる。 6 精神状態での視診項目を挙げ意義を説明できる。 7 異常運動での視診項目を挙げ意義を説明できる。 8 歩行での視診項目を挙げ意義を説明できる。 9 皮膚の状での視診項目を挙げ意義を説明できる。 10 身体各部の視診で重要な項目を挙げられる。 11 身体各部の臨床所見と疾患の関係を示せる。
4	打診・聴診・触診	打診・聴診・触診	1 打診の意義を理解し方法の概略を知る。 2 打診音の種類と意義の概略を知る。 3 聴診の意義を理解し方法の概略を知る。 4 触診の意義を理解し各部の触診法を知る。	1 打診の意義と方法を説明できる。 2 打診音の種類と意義を説明できる。 3 聴診の意義と方法を説明できる。 4 肺野の聴診音と異常音の臨床的意義を説明できる。 5 心臓の正常音と異常音の臨床的意義を説明できる。 6 腹部の正常音と異常音の臨床的意義を説明できる。 7 触診の意義と方法を説明できる。 8 身体各部の触診点を示せる。 9 身体各部の触診所見が示す臨床的意義を説明できる。 10 筋の触診で見られる重要所見を挙げ説明できる。 11 関節の触診で見られる重要所見を挙げ説明できる。
5	生命徴候	生命徴候	生命徴候とその正常値を知る。	1 生命徴候を挙げ正常値を示せる。 2 典型的な熱型を挙げ意義を説明できる。 3 血圧測定法の種類を挙げ測定できる。 4 高血圧・低血圧の定義と臨床的意義が説明できる。 5 脈拍が正しく計測できる。 6 脈拍異常の種類を挙げ臨床的意義を説明できる。 7 異常呼吸の種類を挙げ臨床的意義を説明できる。
6	感覚・反射検査	感覚・反射検査	1 感覚検査の意義を理解しその方法を知る。 2 反射検査の意義を理解しその方法を知る。	1 感覚の種類を挙げ感覚検査の意義を説明できる。 2 表在性感覚検査と異常所見を説明できる。

				<p>3 深部感覚検査と異常所見を説明できる。</p> <p>4 複合感覚検査と異常所見を説明できる。</p> <p>5 反射の種類を挙げ反射検査の意義を説明できる。</p> <p>6 表在反射の種類と検査の異常所見を説明できる。</p> <p>7 深部反射の種類と検査の異常所見を説明できる。</p> <p>8 病的反射の種類と意義を説明できる。</p> <p>9 自立神経反射の種類と意義、異常所見を説明できる。</p>
7	代表的な臨床症状	代表的な臨床症状	<p>1 主要な臨床症状の病態を理解する。</p> <p>2 臨床症状を示す主な疾患と治療法を知る。</p>	<p>1 発熱の病態生理の概要と主要疾患が示せる。</p> <p>2 出血傾向の病態生理の概要と主要疾患が示せる。</p> <p>3 リンパ節腫脹の病態生理の概要と主要疾患が示せる。</p> <p>4 意識障害の病態生理の概要と主要疾患が示せる。</p> <p>5 チアノーゼの病態生理の概要と主要疾患が示せる。</p> <p>6 関節痛の病態生理の概要と主要疾患が示せる。</p> <p>7 浮腫の病態生理の概要と主要疾患が示せる。</p> <p>8 肥満・やせの病態生理の概要と主要疾患が示せる。</p>
8	検査法	検査法 薬物療法	<p>1 生理・運動検査の概要を知る。</p> <p>2 薬物療法及び患者の心理の概要を知る。</p>	<p>1 心電図検査の概略が説明できる。</p> <p>2 脳波検査の概略が説明できる。</p> <p>3 筋電図の概略が説明できる。</p> <p>4 検体検査の概略が説明できる。</p>
9	主要な疾患	呼吸器系疾患	<p>1 呼吸器疾患の主要症状・主要所見を知る。</p> <p>2 主な呼吸器疾患の症状・診断・治療を知る。</p>	<p>1 呼吸器疾患の主要症状を挙げ意義が説明できる。</p> <p>2 胸水の病因・症状と診断・治療の概略が説明できる。</p> <p>3 主な肺感染症の種類を挙げ病因・症状と診断・治療の概略が説明できる。</p> <p>4 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の概略が説明できる。</p> <p>5 肺血栓塞栓症の概略が説明できる。</p> <p>6 主な肺腫瘍の種類を挙げ概略を説明できる。</p> <p>7 胸部にみる変形及び形成障害の概略を説明できる。</p> <p>8 無気肺・自然気胸の概略が説明できる。</p>
		循環器系疾患	<p>1 循環器疾患でみられる主要症状を知る。</p> <p>2 主な心臓疾患を先天性・後天性に分け症状・診断・治療を知る。</p> <p>3 不整脈の種類を知り病態、診断的意義の概略を理解する。</p>	<p>1 循環器疾患の主要症状を挙げ意義が説明できる。</p> <p>2 主な先天性心疾患の種類を挙げ症状と診断・治療の概略が説明できる。</p> <p>3 主な後天的心疾患の種類を挙げ症状と診断・治療の概略が説明できる。</p> <p>4 不整脈の種類を挙げ発生機序、病態、診断的意義の概略が説明できる。</p> <p>5 本態性高血圧の概略が説明できる。</p> <p>6 主な動脈疾患の種類を挙げ概略を説明できる。</p> <p>7 主な静脈疾患の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>8 レイノー病の概略が説明できる。</p>
		消化器系疾患	<p>1 消化器疾患の主要症状・主要所見を知る。</p> <p>2 主な消化器疾患の症状・診断・治療を知る。</p>	<p>1 消化器疾患にみる主要症状を挙げ意義が説明できる。</p> <p>2 食道癌の診断・治療の概略が説明できる。</p> <p>3 主な胃疾患の種類を挙げ症状と診断・治療の概略が説明できる。</p> <p>4 主な腸疾患の種類を挙げ病態、診断的意義の概略が説明できる。</p>
		肝・胆道・膵・腹膜疾患	<p>1 肝疾患の主要症状・主要所見・診断・治療を知る。</p>	<p>1 肝・胆・膵疾患にみられる主要症状を挙げ概略が説明できる。</p>

		<p>2胆道疾患の主要症状・主要所見・診断・治療を知る。</p> <p>3膵疾患の主要症状・主要所見・診断・治療を知る。</p> <p>4腹膜疾患の主要症状・主要所見・診断・治療を知る。</p>	<p>2 主な肝疾患の種類を挙げ概略を説明できる。</p> <p>3 主な胆疾患の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>4 主な胆疾患の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>5 主な腹膜疾患の種類を挙げ概略が説明できる。</p>
	内分泌疾患	<p>1 内分泌疾患の特徴・診断・治療の概略を知る。</p> <p>2 内分泌異常による疾患の種類と概略を知る。</p>	<p>1 内分泌疾患の特徴・診断・治療の概略が説明できる。</p> <p>2 間脳・下垂体機能障害の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>3 甲状腺機能異常の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>4 副甲状腺機能異常の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>5 副腎機能異常の種類を挙げ概略が説明できる。</p>
	代謝・栄養疾患	代謝・栄養疾患の概略を知る。	<p>1 栄養素・栄養代謝の概略が説明できる。</p> <p>2 糖尿病、高脂血症、痛風、ビタミン欠乏症の分類・病態・診断・治療の概略が説明できる。</p>
	血液・造血器疾患 腎・尿路疾患	<p>1 代表的血液疾患の概略を知る。</p> <p>2 代表的腎・尿路疾患の概略を知る。</p>	<p>1 主な血液の生理機能を挙げ説明できる。</p> <p>2 主な貧血の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>3 白血病の概略が説明できる。</p> <p>4 悪性リンパ腫・骨髄腫の概略が説明できる。</p> <p>5 紫斑病・凝固因子欠乏症の概略が説明できる。</p> <p>6 腎・尿路疾患にみられる主な症状を挙げ説明できる。</p> <p>7 主な腎不全の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>8 糸球体腎炎の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>9 尿路感染症を挙げ概略が説明できる。</p> <p>10 腎・尿路結石、前立腺肥大症の概略が説明できる。</p>
	神経疾患	<p>1 神経機能と神経疾患の主要症状を知る。</p> <p>2 脳・脊髄・末梢神経疾患の概略を知る。</p>	<p>1 神経系の構造と機能、神経疾患の概要・症状を説明できる。</p> <p>2 脳血管障害の種類を挙げ、原因、定義、症状、診断、治療を理解できる。</p> <p>3 脳・脊髄腫瘍、髄膜炎、痴呆性疾患、基底核変性疾患運動ニューロン疾患、末梢神経疾患、脱髄疾患、筋疾患、頸椎疾患の種類を挙げ、原因、定義、症状、診断、治療を理解できる。</p>
	感染症・性病	<p>1 感染症の特徴・診断・治療の概略を知る。</p> <p>2 性病の特徴・診断・治療の概略を知る。</p>	<p>1 細菌感染症の概説、診断、治療を理解できる。</p> <p>2 梅毒の概説、診断、治療を理解できる。</p> <p>3 ウイルス感染症の概説、診断、合併症、治療を理解できる。</p>
	リウマチ性疾患・膠原病・遺伝性結合組織疾患 環境要因による疾患	<p>1 リウマチ性疾患、膠原病の概説、診断、治療を知る。</p> <p>2 遺伝性疾患の概説、診断、治療を知る。</p> <p>3 環境要因による疾患の種類、臨床症候、検査所見、治療、予後を知る。</p>	<p>1 リウマチ性疾患、膠原病の概説、診断、治療を理解できる。</p> <p>2 遺伝性疾患の概説、診断、治療を理解できる。</p> <p>3 環境要因による疾患の種類、臨床症候、検査所見、治療、予後を理解できる。</p>

外科学概論				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	外科学とは			
2	損傷	損傷	1 損傷を分類する意義を理解する。 2 機械的損傷の分類と意義を理解する。 3 非機械的損傷の分類と意義を理解する。 4 外傷の重症度の判定基準を理解する。 5 バイタルサインの判定基準を理解する。	1 機械的・非機械的損傷の分類が示せる。 2 創の分類が示せる。 3 バイタルサインを挙げ判定基準が示せる。 4 受傷部位と合併損傷との関係の概略が説明できる。
		創傷	1 創傷治癒を遅延させる因子を理解する。 2 創傷の治癒について理解する。 3 創傷の処置の必要性を理解する。 4 創傷の治癒過程を理解する。	1 創傷治癒を遅延させる因子について説明できる。 2 一次縫合と二次縫合について説明できる。 3 創傷の治癒過程を説明できる。
		熱傷	1 熱傷の原因と分類について理解できる。 2 熱傷の治療と全身管理について理解できる。 3 合併症について理解できる。	1 熱傷原因について説明できる。 2 診断・重傷度の範囲について説明できる。 3 治療・合併症について説明できる。
3	炎症と外科感染症	炎症と外科感染症	1 炎症の定義を理解できる。 2 感染発症のメカニズムを理解できる。 3 外科感染症について理解できる。	1 炎症の定義・分類について説明できる。 2 感染発症のメカニズムについて説明できる。 3 院内感染症と術後感染症について説明できる。 4 外科感染症について原因菌と症状・治療について説明できる。
4	腫瘍	腫瘍	1 腫瘍の概念を理解する。 2 腫瘍の主な分類を知る。 3 主な良性腫瘍の種類と概略を理解する。 4 悪性腫瘍を分類し病態について知る。 5 悪性腫瘍の診断の概略を知る。 6 悪性腫瘍の治療の概略を知る。 7 腫瘍の治療成績についての概略を知る。	1 上皮性・非上皮性腫瘍の違いが説明できる。 2 腫瘍の成因及び悪性・良性腫瘍の概略が説明できる。 3 良性腫瘍の種類を挙げ概略が説明できる。 4 癌及び肉腫の差異が説明できる。 5 腫瘍の自然史について説明ができる。 6 主な悪性腫瘍の特徴・症状が説明できる。 7 腫瘍の診察・検査を通じて診断の概要が説明できる。 8 腫瘍の治療・治療成績の概要が説明できる。
5	ショック	ショック	1 ショックの定義・分類を知る。 2 ショックの症状と診断の概要を理解する。 3 ショックの初期処置・治療を理解する。	1 ショックの定義が説明でき分類できる。 2 ショックの症状を挙げ重症度の概略が説明できる。 3 ショックに伴う多臓器不全の概略が説明できる。 4 ショックの初期処置についての概略が説明できる。 5 ショックの治療の概略が説明できる。
6	輸血・輸液	輸血、輸液	1 血液学基礎知識及び ABO 式血液型交差適合試験の意義について理解する。 2 輸血の意義・適応・副作用を理解する。 3 輸液の意義・種類・適応について理解する。 4 輸液の合併症について理解する。	1 血液学の基礎及び交差適合試験の概要が説明できる。 2 輸血の種類を挙げ説明できる。 3 輸血の副作用を挙げ説明できる。 4 輸液の定義・目的・適応が示せる。 5 輸液の種類と適応の関係が説明できる。 6 輸液の注意・副作用・合併症が説明できる。
7	消毒と滅菌	消毒と滅菌	滅菌・消毒の意義が理解できる。	1 消毒の重要性、主な消毒法を挙げ概要が説明できる。 2 手指の消毒法を挙げられる。 3 手術時の皮膚消毒の概要が説明できる。
8	手術	手術	各種手術法の意義が理解できる。	1 手術手順の概要が説明できる。 2 皮膚切開法の概要が説明できる。 3 止血術・結紮・縫合法及び穿刺術の概要が説明できる。
9	麻酔	麻酔	1 各種麻酔法を知り意義が理解できる。 2 全身及び局所麻酔の違いと用途が理解	1 主な麻酔の種類が挙げられる。 2 麻酔前投薬の意義と主な作用を説明で

			できる。	<p>きる。</p> <p>3 全身麻酔の使用する器具を挙げ概要を説明できる。</p> <p>4 全身麻酔薬を挙げ適応の概要を説明できる。</p> <p>5 全身麻酔の手技及び合併症の概要を説明できる。</p> <p>6 局所麻酔の種類が挙げられる。</p> <p>7 表面麻酔・浸潤麻酔・脊椎麻酔・硬膜外麻酔・神経ブロックについて概略が説明できる。</p>
10	移植と免疫	移植と免疫	<p>1 移植の種類・移植に伴う事項を理解する。</p> <p>2 代表的臓器移植の現状と適応等の問題点を理解する。</p>	<p>1 移植の種類を挙げ説明できる。</p> <p>2 臓器調達・保存・免疫反応等の概要が説明できる。</p> <p>3 肝・腎・心臓移植の概要が説明できる。</p>
11	出血と止血	出血と止血	<p>1 出血の種類及び概要を理解する。</p> <p>2 外出血・内出血の概要を知り合わせて止血法を理解する。</p>	<p>1 出血の種類を外出血・内出血、血管の種類、出血の状況等で分類し説明できる。</p> <p>2 外出血の種類を挙げ概要が説明できる。</p> <p>3 内出血の種類を挙げ概要が説明できる。</p> <p>4 止血法の種類を挙げ適応等の概要が説明できる。</p>
12	心肺蘇生法	心肺蘇生法	蘇生法の概略を理解する。	<p>1 一次救命処置を挙げ ABC の説明ができる。</p> <p>2 気道確保の各法を挙げ説明できる。</p> <p>3 人工呼吸の方法と概要が説明できる。</p> <p>4 胸骨圧迫の方法と注意点が説明できる。</p> <p>5 二次救命処置を挙げられる。</p>
13	脳神経外科疾患	脳神経外科疾患	<p>1 頭蓋内の主要な病態の概略を知る。</p> <p>2 脳腫瘍の概略を知る。</p> <p>3 脳血管障害の概略と主な病態を知る。</p>	<p>1 頭蓋内圧亢進・意識障害・脳浮腫・脳ヘルニア・脳死・頭痛等の概略が説明できる。</p> <p>2 主な脳腫瘍の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>3 頭部外傷を含めての脳血管障害を挙げ概略の説明ができる。</p>
14	甲状腺・頸部疾患	甲状腺・頸部疾患	<p>1 甲状腺疾患の診察・診断法を理解する。</p> <p>2 主な甲状腺疾患の概要を理解する。</p> <p>3 頸部腫瘍の概要を理解する。</p>	<p>1 甲状腺疾患の診察・診断法の概要が説明できる。</p> <p>2 主な甲状腺・頸部疾患を挙げ概要が説明できる。</p> <p>3 甲状腺腫瘍の概要が説明できる。</p>
15	胸壁・呼吸器疾患	胸壁・呼吸器疾患	<p>1 胸部疾患の主要な症候を知り主要な疾患との関連を理解する。</p> <p>2 胸部疾患の主要な検査の概略を知る。</p> <p>3 胸部疾患の主な手術法の概略を知る。</p> <p>4 胸部疾患・胸部外傷の概略を知る。</p>	<p>1 胸部疾患で見られる主要な症候を挙げ疾患との関連が説明できる。</p> <p>2 胸部疾患に用いられる主な検査の概要と適応が説明できる。</p> <p>3 胸部で行われる主要な手術の概略が説明できる。</p> <p>4 主要な胸膜疾患を挙げ概要が説明できる。</p> <p>5 主要な肺疾患（癌を含む）を挙げ概要が説明できる。</p> <p>6 主要な縦郭疾患を挙げ概要が説明できる。</p> <p>7 主要な胸部損傷を挙げ概要が説明できる。</p>
16	心臓・脈管疾患	心臓・脈管疾患	<p>1 心・血管系疾患の検査法を知る。</p> <p>2 心臓疾患での主な手術法の概略を知る。</p> <p>3 主な心臓疾患の概要を知る。</p>	<p>1 心・血管系疾患の検査法の概略を説明できる。</p> <p>2 心臓疾患での主な手術法を挙げ概略を説明できる。</p> <p>3 主な心臓疾患を挙げ概要を説明できる。</p>
17	乳腺疾患	乳腺疾患	乳腺疾患の概略を理解する。	<p>1 乳腺疾患の診察・診断法の概要が説明できる。</p> <p>2 主な乳腺疾患を挙げ概要が説明できる。</p> <p>3 乳房腫瘍の概要が説明できる。</p>
18	腹部外科疾患	腹部外科疾患	<p>1 腹部疾患の主要な症候を知り主要な疾患との関連を理解する。</p> <p>2 腹部疾患の主要な検査の概略を知る。</p>	<p>1 腹部疾患で見られる主要な症候を挙げ疾患との関連が説明できる。</p> <p>2 腹部疾患に用いられる主な検査の概要</p>

		<p>3 腹部疾患の主な手術法の概略を知る。</p> <p>4 腹部疾患・腹部外傷の概略を知る。</p>	<p>と適応が説明できる。</p> <p>3 腹部で行われる主要な手術の概略が説明できる。</p> <p>4 主要な胆・肝・膵疾患を挙げ概要が説明できる。</p> <p>5 主要な消化器疾患（癌を含む）を挙げ概要が説明できる。</p> <p>6 主要な腹部外科疾患を挙げ概要が説明できる。</p>
--	--	--	--

整形外科学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	整形外科とは	総論	整形外科は運動器の疾患に関する学問であることを理解し、歴史を学習する。	整形外科の意義、内容を理解できる。
2	運動器の基礎知識	運動器の基礎知識	1 骨の基礎知識を復習する。 2 関節の基礎知識を復習する。 3 筋、神経の基礎知識を復習する。 4 運動器の科学、生体材料について理解する。	1 すでに学習した運動器について図示、説明できる。 2 運動器の科学について理解できる。
3	整形外科診察法 整形外科検査法	整形外科診断学	整形外科特有な診察法、検査法及び画像診断の概要を知り、簡単な検査法を実践できる。	1 正常姿勢の特徴を示せる。 2 四肢計測の意義が説明でき、計測ができる。 3 跛行の種類を挙げ、疾患との関係が説明できる。 4 関節可動域の計測ができ、良肢位を示せる。 5 徒手筋力検査の意義が説明でき測定できる。 6 知覚・反射検査の意義が説明でき簡単な検査ができる。 7 整形外科の画像診断の種類と概略が説明できる。 8 単純X線画像で簡単な骨折所見が見いだせる。 9 血液・関節液・筋電図などの検査について概略を説明できる。
4	整形外科的治療法	整形外科治療法	整形外科治療の概要を知り、特に観血療法の種類及びその適応について理解する。	1 整形外科領域の薬物療法を挙げ主な適応を示せる。 2 整形外科で用いる包帯法を挙げ特徴を示せる。 3 ギブス包帯の種類を挙げ主な適応を示せる。 4 ギブス包帯施行上の注意点を示せる。 5 牽引療法の種類を挙げ特徴及び適応を示せる。 6 整形外科領域での観血療法を挙げ概略を説明できる。 7 皮膚・骨・関節・筋・腱・神経に対する観血療法の概略が説明でき適応を示せる。 8 骨に対する保存療法と観血療法それぞれの利点・欠点が説明できる。
5	骨・関節損傷総論	骨・関節損傷総論	整形外科において骨折総論・関節の損傷・軟部組織損傷の総論について学習し、知識を得る。	1 骨折の定義・症状・診断・治療・合併症が説明できる。 2 小児骨折・開放性骨折・疲労骨折・病的骨折説明できる。 3 捻挫・脱臼の損傷について説明できる。
6	スポーツ整形外科総論	スポーツ整形外科総論	スポーツ外傷・障害の概要を知る。	1 スポーツと損傷及び障害との関連を説明できる。 2 それぞれのスポーツに特有な損傷を挙げられる。 3 それぞれの損傷・障害への対応が説明できる。
7	リハビリテーション総論	リハビリテーション総論	整形外科に特有なリハビリテーションの概要を知り、各種リハビリテーションの方法や考え方の知識を得る。	変形（拘縮）・術後・上肢・スポーツのリハビリテーションについての概要や方法を説明できる。
8	疾患別各論	先天性骨系統疾患 疾患 軟部組織疾患	整形外科領域における全身性の骨系統疾患・軟部疾患の概要を知り、一次的な対応をするための知識を得る。	1 主な骨系統疾患の概略が説明できる。 2 主な骨系統疾患の治療法の概略が説明できる。 3 主な軟部組織疾患の概略が説明できる。 4 主な軟部組織疾患の治療法の概略が説明できる。
		神経及び筋の疾患	神経・筋の系統疾患の特徴・症状等の概要を知り、外傷との鑑別でき、さらに一次的な対応をするための知識を得る。	1 整形外科領域での主な神経・筋系統疾患を挙げられる。 2 それぞれの疾患で特徴的な症状が説明できる。 3 関連する外傷との鑑別点を示せる。 4 それぞれの疾患に対する治療法の概略

				が説明できる。
		感染性軟部組織・関節疾患	感染性疾患の概要を知り、その予防及び一次的な対応をするための知識を得る。	<ul style="list-style-type: none"> 1 整形外科領域における主な感染性疾患を挙げられる。 2 それぞれの疾患で特徴的な症状が説明できる。 3 それぞれの疾患に対する治療法の概略が説明できる。
		非感染性軟部組織・関節疾患	非感染性疾患の概要を知り、その予防及び一次的な対応をするための知識を得る。	<ul style="list-style-type: none"> 1 整形外科領域での主な非感染性疾患を挙げられる。 2 それぞれの疾患で特徴的な症状が説明できる。 3 それぞれの疾患に対する治療法の概略が説明できる。
		骨腫瘍	骨腫瘍の特徴・症状等の概要を知り、その重大性を理解、外傷と鑑別する知識を得る。	<ul style="list-style-type: none"> 1 整形外科領域での主な骨腫瘍を挙げられる。 2 それぞれの疾患で特徴的な症状が説明できる。 3 関連する外傷との鑑別点を示せる。
		軟部腫瘍	軟部腫瘍の特徴・症状等の概要を知り、その重大性を理解、外傷と鑑別する知識を得る。	<ul style="list-style-type: none"> 1 整形外科領域での主な軟部組織腫瘍を挙げられる。 2 それぞれの疾患で特徴的な症状が説明できる。 3 関連する外傷との鑑別点を示せる。
		骨端症	骨端症の特徴・症状等の概要を知り、外傷と鑑別できる知識を得る。	<ul style="list-style-type: none"> 1 骨端症の種類を挙げられる。 2 それぞれの疾患で発症部位を挙げ特徴的な症状が説明できる。 3 関連する外傷との鑑別点を示せる。 4 それぞれの疾患に対する治療法の概略が説明できる。
		四肢循環障害	整形外科領域における疾患概念・分類・症状・診断・鑑別について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1 末梢動脈疾患についての疾患概念や症状、診断、鑑別、予後、予防法、治療が理解できる。 2 レイノー症候群についての疾患概念、分類、症状、診断、治療が理解できる。 3 深部静脈血栓症についての疾患概念、病因、症状、診断、治療が理解できる。 4 静脈瘤の概念、症状、診断、治療が理解できる。
9	身体部位別各論	体幹	体幹の疾患の特徴・症状等の概要を知り、外傷との鑑別及び一次的な対応をするための知識を得る。	<ul style="list-style-type: none"> 1 整形外科領域での主な体幹部の疾患を挙げられる。 2 それぞれの疾患で原因、特徴的な症状が説明できる。 3 類似する外傷との鑑別点を示せる。 4 それぞれの疾患に対する治療法の概略が説明できる。
		肩甲帯及び上肢の疾患	<ul style="list-style-type: none"> 1 整形外科領域における肩甲帯及び上肢の疾患の特徴・症状・一般的治療法等の概要を知り、外傷との鑑別及び一次的な対応をするための知識を得る。 2 柔整業務との関連を理解し、適応の有無に関する知識を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 整形外科領域の主な肩甲帯・上肢の疾患を挙げられる。 2 それぞれの疾患で原因、特徴的な症状が説明できる。 3 類似する外傷との鑑別点を示せる。 4 それぞれの疾患に対する治療法の概略が説明できる。 5 適応の有無を示しその根拠を説明できる。
		骨盤及び下肢の疾患	<ul style="list-style-type: none"> 1 整形外科領域における骨盤及び下肢の疾患の特徴・症状・一般的治療法等の概要を知り、外傷との鑑別及び一次的な対応をするための知識を得る。 2 柔整業務との関連を理解し、適応の有無に関する知識を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 整形外科領域の主な骨盤・下肢の疾患を挙げられる。 2 それぞれの疾患で原因、特徴的な症状が説明できる。 3 類似する外傷との鑑別点を示せる。 4 それぞれの疾患に対する治療法の概略が説明できる。 5 適応の有無を示しその根拠を説明できる。

関係法規				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	序論	法律	<ul style="list-style-type: none"> 1 法の意義及び体系の概略を知る。 2 柔道整復師に關係する法律の概要を知る。 3 柔道整復師法制定の沿革を知る。 4 柔道整復師の法的位置づけを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 法の意義及び大系の概略を示しその關連が説明できる。 2 柔道整復師に關係する法律を挙げ關係が説明できる。 3 柔道整復師法制定の沿革が説明できる。 4 柔道整復師の法的位置づけ及び根拠が説明できる。
2	柔道整復師法とその関連内容	柔道整復師法総則	<ul style="list-style-type: none"> 1 柔道整復師法制定の目的を知る。 2 柔道整復師の定義を知る。 3 施術所の定義を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 柔道整復師法制定の目的が説明できる。 2 柔道整復師の定義が説明できる。 3 施術所の定義が説明できる。
		柔道整復師法免許	<ul style="list-style-type: none"> 1 免許の意義を知る。 2 柔道整復師免許の意義を知る。 3 免許要件の詳細を知る。 4 柔道整復師免許の詳細を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 社会生活上の免許の意義が説明できる。 2 柔道整復師免許の意義及び効力について説明できる。 3 免許を受けるための資格要件が説明できる。 4 柔道整復師免許の申請法の詳細が説明できる。 5 柔道整復師の免許法（名簿登録）の詳細が説明できる。
		柔道整復師法試験	<ul style="list-style-type: none"> 1 柔道整復師試験の概要を知る。 2 受験資格について学校教育法との関連を知る。 3 不正行為者の受験停止について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 柔道整復師試験の実施方法の概要が説明できる。 2 受験資格の詳細が説明できる。 3 受験者の不正行為に対する対応が説明できる。 4 受験手続き及び試験科目が説明できる。 5 合格証及び合格証明書の相違及び交付が説明できる。
		柔道整復師法業務	<ul style="list-style-type: none"> 1 業務の禁止に関して詳細を知る。 2 施術の制限の意義と詳細を知る。 3 医師法・薬剤師法との関連を詳細に知る。 4 診療放射線取り扱いについて詳細に知る。 5 業務と守秘義務の関係を詳細に知る。 6 業務における都道府県知事の指示について知る。 7 業務と厚生労働大臣の関係を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 業の意味及び性格に関して詳細に説明できる。 2 他の医療関係職種との関連で施術の制限が説明できる。 3 外科手術及び投薬の禁止について詳細に説明できる。 4 放射線の範囲及び照射について詳細に説明できる。 5 業務上知り得た事項の守秘義務について説明できる。 6 都道府県知事の指示について説明できる。 7 厚生労働大臣の役割について説明できる。
		学校養成施設指定試験機関	<ul style="list-style-type: none"> 1 柔道整復師養成システム概要を知る。 2 柔道整復師の指定試験機関の概要を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 柔道整復師養成システム概要が説明できる。 2 学校・養成施設入学用件等の概要が説明できる。 3 柔道整復師指定登録機関の業務等の概要が説明できる。 4 柔道整復師指定試験機関の業務の概要が説明できる。
		施術所	<ul style="list-style-type: none"> 1 施術所の開設に関する詳細を知る。 2 施術所の構造設備基準の詳細を知る。 3 施術所に対する監督について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 施術所の開設に関する必要事項を詳細に説明できる。 2 施術所の構造設備基準を挙げ詳細に説明できる。 3 施術所の報告及び検査事項を挙げ説明できる。
		罰則等	<ul style="list-style-type: none"> 1 柔道整復師法上の罰則を詳細に知る。 2 広告の制限に関し詳細を知る。 3 新法制定の伴う経過的特例の概要を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 柔道整復師法上に規定される罰則を挙げ詳細に説明できる。 2 広告事項及び広告できない事項を挙げ説明できる。 3 新法制定の伴う経過的特例事項を挙げ説明できる。

3	関係法規	医療関係法規	1 医療法の概要を知る。 2 医師法の概要を知る。 3 医療制度について理解する。	1 医療法の概要が説明できる。 2 医療法における柔道整復師の位置が説明できる。 3 医師法の概要が説明できる。 4 医師と柔道整復師の関係が説明できる。 5 医療制度について説明できる。 6 医療制度上の柔道整復師の位置づけが説明できる。
		衛生関係法規	1 衛生関係法規についてその種類と意義を知る。 2 柔道整復業務との関連を知る。	1 衛生関係法規の概略を説明できる。 2 業務遂行に当たり衛生関係法規の意義が説明できる。 3 衛生関係法規と柔道整復との関係が説明できる。
		社会保険関係法規	1 社会保険関係法規の概略を知る。 2 業務遂行と社会保険関係法規の意義を知る。 3 社会保険と柔道整復との関係を知る。	1 社会保険関係法規の概略を説明できる。 2 業務遂行に当たり社会保険の意義が説明できる。 3 社会保険関係法規と柔道整復との関係が説明できる。
		社会福祉関係法規	1 社会福祉関係法規の概略を知る。 2 業務遂行と社会福祉関係法規の意義を知る。 3 社会福祉と柔道整復との関係を知る。	1 社会福祉関係法規の概略を説明できる。 2 業務遂行に当たり社会福祉の意義が説明できる。 3 社会福祉関係法規と柔道整復との関係が説明できる。
4	柔道整復業務	療養費受領委任協定	1 療養費制度の概要を理解する。 2 療養費の受領委任払いを理解する。 3 各種保険制度を理解し、保険施術の取り扱いを理解する。 4 協定負傷名を知る。	1 療養費制度の概要を説明できる。 2 療養費の受領委任払いを説明できる。 3 各種保険制度を説明できる。 4 保険施術の取り扱いを説明できる。 5 協定負傷名を説明できる。
		算定基準	施術料金の算定法を知る。	1 初検料及び初検時相談支援料の算定ができる。 2 往療料、再検料の算定ができる。 3 骨折の部、不全骨折、脱臼の部の整復・固定料の算定ができる。 4 打撲・捻挫の部の初療料の算定ができる。 5 算定基準（電法料、長期・多部位の算定ができる）。 6 近接部位の算定方法が説明できる。
		施術録 療養費支給申請書	施術録の種類、記入方法、保存期間について知る。療養費支給申請書の記入方法、申請の方法について知る。	1 施術録の種類、記入方法、保存期間について説明ができる。 2 療養費支給申請書の記入方法、申請の方法について説明できる。

公衆衛生学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	母子保健	母子保健	1 母子保健の意味合いを理解できる。 2 母子保健の主要統計が理解できる。 3 母子保健行政とその対応が理解できる。	1 母子保健の意味合いを説明できる。 2 母子保健の主要統計の意味と傾向が説明できる。 3 母子保健の行政システムとその対応が説明できる。
2	学校保健・産業保険	学校保健・産業保険	1 学校保健・産業保健を理解できる。 2 学校保健・産業保健の組織、運営の形が理解できる。 3 学校保健・産業保健はどのような取組をしているか理解できる。 4 学校保健・産業保健の主要統計の意味と傾向が理解できる。	1 学校保健・産業保健の意味合いを説明できる。 2 学校保健・産業保健の組織、運営の形が説明できる。 3 学校保健・産業保健の取組をしているか説明できる。 4 学校保健・産業保健の主要統計について説明できる。
3	成人・高齢者保健	成人・高齢者保健	1 成人・高齢者保健の意味合いを理解できる。 2 成人・高齢者保健の主要統計（生活習慣病等）の意味と傾向が理解できる。 3 成人・高齢者保健の行政の取組が理解できる。	1 成人・高齢者保健の意味合いを説明できる。 2 成人・高齢者保健の主要統計（生活習慣病等）の意味と傾向が説明できる。 3 成人・高齢者保健の行政の取組が説明できる。
4	精神保健	精神保健	1 精神保健の定義と経緯が理解できる。 2 精神の病気の分類をし、それぞれの特徴が理解できる。 3 精神障害者の入院形態を分類し違いを理解できる。 4 精神保健の主要統計の意味と傾向が理解できる。	1 精神保健の定義と経緯が説明できる。 2 精神の病気の分類をし、それぞれの特徴が説明できる。 3 精神障害者の入院形態を分類し違いを説明できる。 4 精神保健の主要統計の意味と傾向がわかる。
5	地域保健と国際保健	地域保健と国際保健	1 地域保健の定義を理解する。 2 プライマリーヘルスケアの展開を理解する。 3 地域社会のとらえ方を理解する。 4 地域活動の特徴を理解する。 5 地域活動の現状を理解する。 6 WHOの活動を理解する。	1 プライマリーヘルスケアの説明ができる。 2 地域保健活動の特徴を説明できる。 3 WHOの活動を説明できる。
6	衛生行政と保健医療の制度	衛生行政と保健医療の歴史	1 衛生行政の根拠となる憲法を理解する。 2 我が国衛生行政組織の概略が理解できる。 3 医療保険制度のシステムが理解できる。 4 保険者の区分と特徴が理解できる。 5 介護保険制度を理解できる。 6 国民医療費の内訳と、問題点が理解できる。 7 健康づくり政策の意味を理解する。 8 健康づくり政策の概要が理解できる。	1 衛生行政の根拠となる憲法を知っている。 2 我が国の衛生行政組織の概略を説明できる。 3 医療保険制度のシステム概要を説明できる。 4 保険者の区分と特徴が挙げられる。 5 介護保険制度の意味合いを説明できる。 6 国民医療費の内訳と、問題点を挙げ概要を説明できる。 7 健康づくり政策の意味を説明できる。 8 健康づくり政策の概要を挙げ概要を説明できる。
7	医療倫理と安全の確保	医療及び公衆衛生活動の問題点と倫理	1 医療の倫理関係の問題点を知る。 2 公衆衛生活動に伴う問題と倫理を知る。	1 医療に関する倫理上の問題点を挙げ説明できる。 2 公衆衛生活動に伴う問題と倫理に関する事項を挙げ説明できる。
		医療の安全の確保	1 医療の安全の確保に関する国の施策を知る。 2 医療の安全の確保に関する用語を理解する。 3 医療事故防止について概要を知る。 4 医療裁判について概要を知る。	1 医療の安全の確保に関する国の施策を挙げ説明できる。 2 医療事故、医療過誤、ヒヤリ・ハット事例について説明できる。 3 失敗、エラー、違反について説明できる。 4 医療事故の要因を挙げ概要を説明できる。 5 インシデント・レポートについて説明できる。 6 医療事故防止の及び院内感染防止について概要を説明できる。 7 医療訴訟について概要を説明できる。 8 インフォームド・コンセントについて説明できる。
8	疫学	疫学	1 疫学の意義を理解する。 2 疫学調査の必要性を理解できる。	1 疫学の意義を説明できる。 2 疫学調査の必要性を、例を挙げて説明

			<p>3 疫学調査方法の意味を理解する。 4 調査の結果、及び評価が理解できる。</p>	<p>できる。 3 疫学調査の方法を挙げ、特徴を説明できる。 4 疫学調査の結果、及び評価の意味合いが説明できる。</p>
--	--	--	---	---

柔道整復の歴史				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	医学史	医学史序説	病の定義や、医学・医療の定義について学習する。医学史の意義と特質を知り、医学史を学ぶ重要性を理解する。	1 病・医学・医療とは何かについて説明できる。 2 ヘルス・ケア・システムの概要を説明できる。 3 医学史の意義と特質を説明できる。
		西洋医学史 古代～ルネサンス～近世	1 各時代の歴史的背景や医学の特徴について学習し、代表的な人物や医療法を知り、現代医学との結び付きについて理解する。 2 臨床医学が発展・発達してきた過程について学習する。	1 各時代の歴史的背景を説明できる。 2 各時代の医学の特徴を説明できる。 3 各時代の代表的な人物や医療法を説明できる。 4 臨床医学の発展・発達について説明できる。
		東洋医学	古代インド医学について学習し、中国医学理論体系の形成及び発展について学び、中国医学と西洋医学の対立から結合の歴史について理解する。	1 古代インド医学について説明ができる。 2 中医学理論体系の形成について説明ができる。 3 中医と西医の概要について説明ができる。
		日本の医学	各時代の歴史的背景や医学の特徴について学習し、代表的な人物や医療法を知り、各時代にどのような影響をあたえてきたのかを理解する。	1 各時代の歴史的背景を説明できる。 2 各時代の医学の特徴を説明できる。 3 各時代の代表的な人物や医療法を説明できる。 4 近代の医学の特徴を説明できる。
2	現代医療	現代医療	現在の医学・医療における、近代医学の方法・課題について学習する。そして、東洋医学と西洋医学基本的な違いを知り、東洋医学の課題について理解する。	1 現代の医学医療の背景を説明できる。 2 近代医学の方法論について説明できる。 3 近代医学についての課題について説明できる。 4 東洋医学の課題について説明できる。 5 東洋医学と西洋医学の違いを説明できる。
		現代医療制度	1 医療従事者と医療施設について関係法規も同時に学習する。 2 医療制度の特色を理解し、医療保険の仕組みについて学習し公的医療負担の仕組みについて理解する。 3 介護サービス行政について学習し、国民医療費が増大する原因と解決法を理解する。	1 医療従事者と医療施設の説明ができる。 2 医療制度の特色を説明できる。 3 医療保険の仕組みについて説明ができる。 4 公的医療負担について説明ができる。 5 介護サービス行政について説明ができる。 6 国民医療費の問題点について説明ができる。
3	医療従事者の倫理	医療従事者の倫理	医療倫理を学ぶ意義を理解し、医師（医療者）の倫理、医療者―患者の倫理、医学―社会の倫理について学習する。その上で施術者としての倫理について学習する。	1 倫理の意義を説明できる。 2 医療従事者にとっての倫理観を十分に理解できる。 3 医療者―患者の倫理を理解し説明できる。 4 医学―社会の倫理を理解し説明できる。 5 施術者としての倫理を理解し説明できる。
4	柔道整復師の歴史・倫理	柔道整復の沿革	1 柔道整復の基本概念及び、我が国の骨折治療の歴史を各時代経過別に学習し、柔道との関わりを理解する。 2 柔道整復の現代的意義について学習する。	1 柔道整復の基本概念を理解し説明できる。 2 我が国の骨折治療の歴史を理解し説明できる。 3 柔道との関わりを理解する。 4 柔道整復の現代的意義を理解し説明できる。
		柔道整復師の倫理	1 柔道整復師の業務範囲について医師法・柔道整復師法と照合しながら学習する。 2 業務禁止と施術制限について理解し、柔道整復師としての心得について学習する。	1 柔道整復師としての業務範囲を理解する。 2 業務禁止と施術制限について理解する。 3 柔道整復師としての心得を理解する。

柔道				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	柔道の意義	柔道の意義	1 柔道が「道」であることを理解する。 2 道場の規格を知る。 3 柔道着の規定と着用の意義を理解する。	1 柔道の意義が説明できる。 2 道場の規格が説明できる。 3 柔道着の規定と着用の意義を説明できる。 4 柔道着が正しく着用できる。
2	柔道の基本	礼法	1 礼法の意義と目的を知る。 2 各礼法の相違を理解する。 3 正しい礼法を理解する。	1 礼法の意義と目的が説明できる。 2 各礼法の相違と実施する場面が想起できる。 3 各礼法の実施の要点を説明できる。 4 各礼法が場面に応じて正しく行える。
		受け身	1 受け身の目的を理解する。 2 受け身動作の重要性を理解する。 3 受け身の種類と適用する場面を理解する。 4 各受け身の動作が正しくできる。 5 各受け身が自然な動作でできる。	1 受け身の目的が説明できる。 2 体を守る目的が説明できる。 3 各種基本受け身が正しくできる。 4 各受け身の動作が正しく、自然な動作としてできる。
		体裁き	1 体のバランスを理解する。 2 体移動のバランスを理解する。	1 自然本体・左右自然体がとれる。 2 正しい体裁きと体移動がバランスを崩さずにできる。 3 自然体・自護体などの意義が説明できる。
		足の運び	1 体移動の重要性を理解する。 2 正しい体移動の方法を理解する。 3 体移動中のバランスの取り方を体得する。	1 体移動の重要性が説明できる。 2 なみあし、つぎあしが正しく実施できる。 3 バランスを崩さず体移動が実施できる。
		組み方	1 基本的な組み手を知る。 2 正しい組み方を理解する。 3 正しい姿勢での組み方を体得する。	1 基本的な組み手が説明できる。 2 正しく組み合うことができる。 3 自然に正しい姿勢での組み合うことができる。
		投げと受け身	1 受け身の安全性を理解する。 2 投げ技に対する受け身を知る。 3 正しい受け身を体得する。	1 受け身の安全性が説明できる。 2 各投げ技に対して受け身がとれる。 3 連続した投げ技に対して自然に受け身がとれる。
		組み手・間合い・崩しと作り	1 投げ技の安全性を理解する。 2 投げ技の成り立ちを理解する。 3 投げ技の形を理解する。	1 引き手、釣り手の意義を説明し正しい位置でとれる。 2 正しく足、腰の位置がとれる。 3 正しい間合いがとれる。 4 正しく崩しと作りができる。 5 正しく足の運びができバランスを崩さない。
3	柔道の技	投げ技	1 崩しと作りを理解する。 2 技を掛けるための崩しと作りを知る。 3 安全に技を掛けるための基本を理解する。 4 技を掛けるときのバランスを体得する。 5 技の理合いを理解する。	1 崩しと作りができる。 2 背負い投げ(一本背負い・両手背負い)が正しくできる。 3 体落としが正しくできる。 4 大外刈りが正しくできる。 5 大腰が正しくできる。 6 釣り込み腰が正しくできる。 7 足払いが正しくできる。 8 支え釣り込み足が正しくできる。
		固め技	1 抑えの時間、参りの合図を知る。 2 抑え技の種類を知る。 3 抑え技の形を知り理解する。 4 抑え技における体の位置を理解する。 5 各抑え技を体得する。 6 投げ技から抑え技への連携を体得する。	1 抑えの時間、参りの合図が説明できる。 2 抑え技の種類を挙げ概要が説明できる。 3 袈裟固めが正しくできる。 4 肩固めが正しくできる。 5 上四方固め横四方固めが正しくできる。 6 投げ技から抑え技に連続的に移行できる。
4	柔道の形	投げの形 手技	1 投げの形(手技)を知る。 2 投げの形の間合い、礼法を知る。 3 浮き落としを知り理解する。 4 背負い投げを知り理解する。 5 肩車を知り理解する。	1 投げの形(手技)を挙げ説明できる。 2 投げの形で正しい間合いをとり礼法ができる。 3 手技3種が連続的に演舞できる。
		投げの形 腰技	1 投げの形(腰技)を知る。 2 投げの形の間合い、礼法を知る。 3 腰技3種を知り理解する。	1 投げの形(腰技)を挙げ説明できる。 2 浮き腰を知り理解する。 3 払い腰を知り理解する。 4 釣り込み腰を知り理解する。

				5腰技3種が連続的にできる。
		投げの形足技	1 投げの形(足技)を知る。 2 送り足払いを知り理解する。 3 支え釣り込み足を知り理解する。 4 内股を知り理解する。	1 投げの形(足技)を挙げ説明できる。 2 正しく送り足払いができる。 3 正しく支え釣り込み足ができる。 4 正しく内股ができる。 5 足技3種が連続的に演舞できる。
5	絞め技	絞めと活法	1 参りの約束事を理解する。 2 絞め技の種類を知る。 3 活法を理解する。	1 参りの約束事を挙げ説明できる。 2 絞め技の種類を挙げ説明できる。 3 活法の種類を挙げ
		絞め技	1 裸絞め、送り衿絞め、片羽締めを理解する。 2 並十字絞め、片十字絞め、逆十字絞めを理解する。 3 絞め技からの逃れ方を理解する。	1 裸絞めで攻め、逃げられる。 2 送り衿絞めで攻め、逃げられる。 3 片羽締めで攻め、逃げられる。 4 並十字、片十字、逆十字絞めで攻め逃げられる。
6	柔道の習熟	乱取りの習熟	1 基本技を中心とした乱取りができる。 2 正しく投げ、正しく受身がとれる。 3 各種の技を使い安全に柔道ができる。 4 柔道競技のルールを理解する。 5 柔道競技における反則技を理解する。 6 ルールを理解した競技ができる。	1 基本技を中心とした乱取りができる。 2 乱取りの中で正しく投げ、正しく受身がとれる。 3 各種の技を使い柔道ができる。 4 柔道競技のルールの概略を説明できる。 5 反則技の概略を説明できる。 6 ルールを理解した競技ができる。
		礼法の習熟	1 礼法の意義と目的を知る。 2 各礼法の相違を理解する。 3 正しい礼法を理解する。	1 礼法の意義と目的が説明できる。 2 各礼法の相違と実施する場面が想起できる。 3 各礼法の実施の要点を説明できる。 4 各礼法が場面に応じて正しく行える。
		受け身の習熟	1 受け身の目的を理解する。 2 受け身動作の重要性を理解する。 3 受け身の種類と適用する場面を理解する。 4 各受け身の動作が正しくできる。 5 各受け身が自然な動作でできる。	1 受け身の目的が説明できる。 2 体を守る目的が説明できる。 3 各種基本受け身が正しくできる。 4 各受け身の動作が自然な動作としてできる。
		投げ技の習熟	1 崩しと作りを体得する。 2 技を掛けるための崩しと作りを体得する。 3 安全に技を掛けるための基本を理解する。 4 技を掛けるときのバランスを体得する。 5 技の理合いを理解する。 6 基本技を中心とした乱取りができる。 7 正しく投げ、正しく受け身がとれる。 8 各種の技を使い安全に柔道ができる。	1 崩しと作りの概略が説明できる。 2 技を掛けるための崩しと作りができる。 3 安全に技を掛けるための基本が説明できる。 4 バランスを崩さず技を掛けられる。 5 技の理合いを説明できる。 6 基本技を中心とした乱取りができる。 7 正しく投げ、正しく受け身がとれる。 8 各種の技を使い安全に柔道ができる。
		固め技の習熟	1 抑えの時間、参りの合図を知る。 2 抑え技の種類を知る。 3 抑え技の形を知り理解する。 4 抑え技における体の位置を理解する。 5 各抑え技を体得する。 6 投げ技から抑え技への連携を体得する。	1 抑えの時間、参りの合図が説明できる。 2 抑え技の種類を挙げ概要が説明できる。 3 袈裟固めが正しくできる。 4 肩固めが正しくできる。 5 上四方固めが正しくできる。 6 横四方固めが正しくできる。 7 投げ技から抑え技に連続的に移行できる。
		約束乱取り	1 約束乱取りの意義を理解する。 2 基本技を中心とした乱取りができる。 3 正しく投げ、正しく受け身がとれる。 4 各種の技で安全に約束乱取りができる。	1 基本技を中心とした乱取りができる。 2 正しく投げ、正しく受け身がとれる。 3 各種の技で安全に約束乱取りができる。
		形の習熟	1 形の演武での礼法を理解する。 2 受け取りの正しい間合いを知る。 3 手技の種類を知り演技できる。 4 腰技の種類を知り演技できる。 5 足技の種類を知り演技できる。 6 一連の投げの形が連続して演技できる。 7 連絡技を理解する。 8 抑え技枝の連絡変化ができる。	1 形の演武での礼法正しくできる。 2 受け取りの正しい間合いがとれる。 3 投げの形(手技)が正しく演技できる。 4 投げの形(腰技)が正しく演技できる。 5 投げの形(足技)が正しく演技できる。 6 一連の投げの形が連続して演技できる。 7 連絡技がスムーズに移行できる。 8 抑え技枝の連絡変化ができる。
		柔道の習熟	1 柔道競技を安全に行える。 2 投げの形を正しく理解する。	1 柔道競技を安全に行える。 2 投げの形を正しく演技できる。

基礎柔道整復学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	概説・総論	柔道整復師の概説と業務	1 柔道整復の定義を知る。 2 柔道整復師の沿革を知る。 3 柔道整復師の業務範囲の概要を知る。 4 柔道整復師としての心得を知る。	1 柔道整復の定義を想起し説明できる。 1 柔道整復成立の沿革が想起できる。 2 柔道整復師の業務範囲について概要の説明ができる。 3 業務範囲と柔道整復師の心得を挙げ説明できる。
2	各組織の損傷 骨折	骨の構造と機能	人体における骨の役割・形状による分類と構造について理解できる。	1 骨の機能が説明できる。 2 骨の形状に従って分類できる。 3 器官としての骨の構造の概略が説明できる。
		骨折の定義	骨折の定義を理解する。	1 骨折の定義を説明できる。
		骨折の分類	1 骨折における分類の意義を理解する。 2 骨折骨の性状による分類を知る。 3 骨折の発生機序による分類を知る。 4 骨折の程度による分類を知る。 5 軟部組織損傷の有無による分類を知る。 6 外力の働き方による分類を知る。 7 骨折線の走行による分類を知る。 8 部位による分類及び冠名骨折を知る。	1 骨折の分類と治療法との関係の概要が説明できる。 2 外傷性・病的・疲労性骨折の分類と相違が説明できる。 3 発生機序による分類とその特徴が説明できる。 4 発生機序による分類と他分類との関連が説明できる。 5 程度による分類を挙げ概要の説明ができる。 6 不全骨折の種類を挙げその特徴の説明ができる。 7 開放性・非開放性骨折の相違を挙げ特徴を説明できる。 8 外力の働き方による分類を挙げ説明できる。 9 骨折線の走行による分類を挙げ概要を説明できる。 10 部位による分類及び代表的冠名骨折を挙げられる。
		症状	1 骨折における骨片転位について理解する。 2 骨折における一般症状の特徴を理解する。 3 骨折にみられる固有症状を知る。 4 骨折固有症状の診断上の意義を理解する。 5 骨折にみられる全身症状を知る。 6 骨折全身症状の出現メカニズムを知る。	1 骨折の骨片転位について説明できる。 2 炎症の5大徴候を挙げ説明できる。 3 骨折の一般症状とその特徴を挙げ説明できる。 4 骨折固有症状を挙げ説明できる。 5 骨折固有症状と診断上の意義との関係を説明できる。 6 骨折にみられる全身症状を挙げ説明できる。 7 骨折全身症状の出現メカニズムの概要を説明できる。
		小児・高齢者の骨折	1 小児の骨折の特徴を理解できる。 2 高齢者の骨折の特徴を理解できる。	1 小児に特有な骨折や特徴を説明できる。 2 高齢者に特有な骨折や特徴を説明できる。
		治癒機転	1 正常経過での骨折治癒機転の概要を知る。 2 異常経過での骨折治癒機転の概要を知る。 3 正常経過・異常経過の相違を理解する。 4 異常経過の予防に関して理解する。	1 正常な骨折治癒機転の概要を説明できる。 2 骨折の異常経過を挙げ概要が説明できる。 3 正常経過・異常経過の特徴的な相違点を挙げられる。 4 異常経過の予防に関して概要が説明できる。
		治癒障害	骨折治癒障害の概要を知る。	1 骨折治癒障害を挙げ概要を説明できる。
		合併症	1 骨折に併発する損傷を知る。 2 各併発症の主要な原因と特徴を理解する。 3 骨折に続発する損傷を知る。 4 各続発症の主要な原因と特徴を理解する。 5 続発症の発生予防に関して理解する。	1 骨折に併発する重要な損傷を挙げ説明できる。 2 各併発症と骨折との関連を説明できる。 3 併発症有無の確認と根拠が説明できる。 4 骨折に続発する重要な損傷を挙げ説明できる。 5 各続発症と骨折・治療法との関連を説明できる。 6 続発症有無の確認と根拠が説明できる。

				7 続発症発生予防の概要が説明できる。 8 併発症と続発症との関連を説明できる。
		後遺症	1 骨折にみられる重要な後遺症を知る。 2 後遺症の主要な原因と特徴を理解する。 3 後遺症の発生予防に関して理解する。	1 骨折にみられる重要な後遺症を挙げ説明できる。 2 過剰仮骨形成と骨折及び治療法との関連が説明できる。 3 過剰仮骨発症の有無の確認と根拠が説明できる。 4 偽関節形成と骨折及び治療法との関連が説明できる。 5 偽関節発症と骨折及び治療法との関連を説明できる。 6 偽関節の有無の確認と根拠が説明できる。 7 偽関節と遷延仮骨形成との関係の概要が説明できる。 8 偽関節治療法の概要が説明できる。
		治療法・指導管理	1 骨折の治療法についての概要を知る。 2 指導管理についての概要を知る。	1 骨折の治療法について概要を説明できる。 2 指導管理について概要を説明できる。
3	各組織の損傷 関節の損傷	関節の概要と脱臼の概念・定義・分類	1 関節構造の概略を理解する。 2 関節の構成・分類に関し熟知する。 3 関節の機能について概要を知る。 4 関節における骨及び軟骨の機能を知る。 5 関節における関節包及び靭帯の機能を知る。 6 関節における関節円板の機能を知る。 7 関節機能における付属組織の意義を知る。 8 付属組織と関節機能との関係を理解する。 9 脱臼の概念を習得、定義を熟知する。 10 外傷性・病的脱臼の相違を熟知する。 11 脱臼の発生機序・程度を分類を熟知する。 12 脱臼方向・数等による分類を熟知する。 13 非開放性脱臼・開放性脱臼の相違を知る。 14 新鮮脱臼・陈旧性脱臼の相違を知る。 15 反復性・習慣性脱臼の相違を知る。	1 関節構造の概略が説明できる。 2 関節の構成・分類に関し詳細が説明できる。 3 関節の種別に機能の概要が説明できる。 4 関節における骨及び軟骨の機能の詳細が説明できる。 5 関節包及び靭帯の機能の詳細が説明できる。 6 関節円板の機能の詳細が説明できる。 7 関節機能における付属組織の意義が説明できる。 8 付属組織と関節機能との関係が説明できる。 9 脱臼の概念及び定義の説明ができる。 10 外傷性・病的脱臼の重要な相違点を指摘、説明できる。 11 脱臼を発生機序・程度による分類を説明できる。 12 脱臼方向・数等による分類を説明できる。 13 非開放性脱臼・開放性脱臼の相違点を挙げ説明できる。 14 新鮮脱臼・陈旧性脱臼の相違点を挙げ説明できる。 15 反復性・習慣性脱臼の相違点を挙げ説明できる。
		脱臼の症状	1 脱臼における一般症状の特徴を理解する。 2 脱臼にみられる固有症状を知る。 3 脱臼固有症状の診断上の意義を理解する。	1 脱臼における一般症状の特徴を挙げ説明できる。 2 骨折・一般疾病との相違点を挙げ比較できる。 2 脱臼にみられる固有症状を挙げ説明できる。 3 脱臼固有症状の診断上の意義が説明できる。
		脱臼の合併症 整復障害	1 脱臼に併発する損傷を知る。 2 各併発症の主要な原因と特徴を理解する。 3 脱臼に続発する損傷を知る。 4 各続発症の主要な原因と特徴を理解する。 5 脱臼の整復障害を知る。	1 脱臼に併発する重要な損傷を挙げ説明できる。 2 各併発症と脱臼との関連を説明できる。 3 脱臼に続発する重要な損傷を挙げ説明できる。 4 各続発症と脱臼・治療法との関連を説明できる。 5 続発症有無の確認と根拠が説明できる。 6 続発症発生予防の概要が説明できる。 7 併発症と続発症との関連を説明できる。 8 脱臼の整復障害を説明できる。
		脱臼の治療経	1 脱臼治療機転の概要を知る。	1 正常な脱臼治療機転の概要を説明でき

		過・予後	<ul style="list-style-type: none"> 2 正常経過・異常経過の相違を理解する。 3 予後に影響を与える因子を知る。 4 因子と予後の関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> る。 2 脱臼の異常経過を挙げ概要が説明できる。 3 正常経過・異常経過の特徴的な相違点を挙げられる。 4 予後に影響を与える因子を挙げられる。 5 因子と予後の関係を概略的に説明できる。
		捻挫の定義・分類・病態	<ul style="list-style-type: none"> 1 捻挫の概念を習得、定義を熟知する。 2 捻挫の分類を熟知する。 3 新鮮・陳旧性・習慣性捻挫の概念を知る。 4 捻挫の病態を熟知する。 5 受傷関節での周辺組織の状態を熟知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 捻挫の概念及び定義が説明できる。 2 捻挫における重要な分類を挙げ説明できる。 3 新鮮・陳旧性・習慣性捻挫の概念が説明できる。 4 捻挫と他損傷との鑑別点を挙げ説明できる。 5 捻挫の病態を説明し、治療上の原則を説明できる。 6 受傷関節の周辺組織が受ける影響の概要が説明できる。
		脱臼の治療法 整復法・骨折と脱臼の固定法	<ul style="list-style-type: none"> 1 脱臼整復の種類と概要を知る。 2 徒手整復・観血整復の特徴と適応を知る。 3 徒手整復法の原則を知り理解する。 4 骨折と脱臼固定法の種類・特徴・適応を知る。 5 骨折・脱臼・関節損傷の治療上、重要な注意点を熟知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 脱臼整復の種類を挙げ概要の説明ができる。 2 徒手整復・観血整復の特徴を挙げ適応が説明できる。 3 徒手整復法の原則を示すことができる。 4 骨折や脱臼固定法の種類・特徴・適応の概略を説明できる。 5 骨折・脱臼・関節損傷の治療上、重要な注意点を挙げ説明できる。
4	検査・計測	各種検査法の意義	<ul style="list-style-type: none"> 1 運動障害や知覚障害は神経疾患の重要な症状であることを理解させ、神経疾患、筋疾患を診断するうえで意義が深いことを学習する。 2 病変がどこにあるのかを判定するのにも有意義であることを学習すると共に各種検査法の種類を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 神経・筋疾患を診断するうえで、病変がどこに存在するかを判定することができることを理解できる。 2 各種検査法を行う意義を理解できる。
		感覚検査・反射検査	<ul style="list-style-type: none"> 1 反射の種類を学習し、神経疾患をはじめ糖尿病、甲状腺疾患などの代謝性疾患を含む諸疾患の診察に重要であることを学習する。 2 反射検査を行うにあたっての注意事項も共に学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 各反射の種類と意義を理解する。 2 いずれの部位での障害かを把握できる。 3 反射検査の注意事項を理解できる。
		骨・関節の徒手検査	<ul style="list-style-type: none"> 1 正常な四肢の関節を知り、異常が起きたときに検査をすると発現する症状を熟知させ業務範囲の是非を判断するうえで特に重要な臨床徒手検査法を学習する。 2 四肢の臨床徒手検査法の目的・意義を理解し、実施法を完全に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 四肢の関節の構造と機能が把握できている。 2 異常が起きたときの症状がなぜ発現するのか理解できている。 3 各々の四肢臨床徒手検査法の目的・意義を熟知し、スムーズに実施することができる。
		徒手筋力検査法	<ul style="list-style-type: none"> 1 徒手筋力検査法の意義と目的を知る。 2 徒手筋力検査実施上の注意事項を知る。 3 正しい徒手筋力検査実施法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 徒手筋力検査法の意義と目的が説明できる。 2 徒手筋力検査実施上の注意事項を挙げ説明できる。 3 徒手筋力検査におけるトリックモーションがわかる。 4 正しく徒手筋力検査ができる。
		体幹の徒手検査	<ul style="list-style-type: none"> 1 正常な体幹の関節の復習と、異常が起きたときに検査をすると発現する症状を熟知させ、業務範囲の是非を判断するうえで特に重要な臨床徒手検査法を熟知する。 2 に体幹の臨床徒手検査法の目的・意義を理解し、実施法を完全に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 体幹の関節の構造と機能が把握できている。 2 異常が起きたときの症状がなぜ発現するのか理解できている。 3 各々の体幹臨床徒手検査法の目的・意義を熟知し、スムーズに実施することができる。
		胸腹背部の検査	<ul style="list-style-type: none"> 1 胸部・腹部・背部の視診を学習し、変形等の原因について理解する。 2 胸部・腹部・背部の打診、聴診の意義や方法について学習する。 3 胸部・腹部・背部の触診を通じて各種 	<ul style="list-style-type: none"> 1 体幹部における各々の変形や異常運動の原因を理解する。 2 打診や聴診の意義が理解できる。 3 体幹部の触診を学習し、圧痛点と共に関節の触診も学習し触診が重要な情報

			の圧痛点の位置や名称を学習する。	を提供する事を理解する。
		姿勢の測定	姿勢の定義、分類、重心について考察し、正常であれば、体位を自由に変えることができるが、疼痛などにより姿勢の変化があることを学習する。	1 姿勢の定義、分類ができる。 2 重心について理解できる。 3 異常な姿勢変化について理解できる。
5	固定	固定法の概念	1 固定法の原則や固定の肢位ならびに良肢位について学習する。 2 一定期間患部をある肢位に保持し、運動制限することにより外傷の治癒を企図することを学習する。 3 固定の目的について理解を深め、固定範囲は損傷の種類だけでなく損傷程度や年齢などによって異なることを学習する。	1 固定の定義・目的を理解している。 2 固定範囲を各々の疾患・年齢により異なることを理解できている。 3 各関節の良肢位を学習する。
		固定材料	1 固定材料の質から軟性材料・硬性材料に大別し、用途に合わせ使い分けのことを学習する。 2 それぞれの軟性材料の意義・名称・使用上の留意点と硬性材料の意義・名称・使用上の留意点を学習する。	1 固定材料を大別し、使用上の留意点を説明できる。 2 軟性材料を理解し、名称・使用上の留意点を説明できる。 3 硬性材料を理解し、名称・使用上の留意点を説明できる。
		厚紙・すだれ副子・クラーメル・アルフェンス	1 軟性材料や硬性材料を実際に使用し、作製法や各関節の装着法について学習する。 2 実際に柔道整復師として特に必要な上肢・下肢の各関節の固定肢位を復習し各関節に装着し、理解を深める。	1 上肢の各関節に装着し、その際の固定肢位・固定期間・装着方法・留意点の詳細を説明できる。 2 下肢の各関節に装着し、その際の固定肢位・固定期間・装着方法・留意点の詳細を説明できる。
6	診察	全身の観察	患者の意識状態、ショックの有無、姿勢、肢位、体型、歩行状態などから損傷の部位や程度を想定するための基本を理解する。	1 損傷に伴う意識状態の確認ができる。 2 ショックの有無が確認できる。 3 診察室に入室する患者の状態を観察することの重要性を説明できる。 4 代表的な損傷について、患者の姿勢や患肢保持の状態と損傷の関係が説明できる。 5 代表的な損傷について、患者の歩行状態から起こりやすい損傷を挙げることができる。 6 代表的な損傷について、患者の体型と起こりやすい損傷について説明できる。
		問診	患者の訴えを聴き、訴えの内容から損傷の部位や程度及び損傷内容を想定するための基本を理解する。	1 「開かれた質問」と「閉ざされた質問」の意味が説明でき、その適応する聴取内容とを説明できる。 2 主訴の聴取の重要性を説明できる。 3 受傷原因と起こりやすい損傷との関係の概要が説明できる。 4 現病歴を聴取することの重要性が説明できる。 5 既往歴や家族歴の重要性が説明できる。 6 代表的な損傷について、損傷に影響する生活様式を説明できる。 7 代表的な損傷について、損傷と起こりうる機能障害の関係の概要を説明できる。
		患部の観察	診察環境を整えるなど患者に対する配慮と、患部の所見から損傷の部位や程度を想定する基本を理解する。	1 診察環境の整備について説明できる。 2 代表的な損傷の外観上の変形が説明できる。 3 腫脹の種類や程度と損傷との関係の概要が説明できる。 4 患部周辺の色調と損傷や疾患との関係の概要が説明できる。 5 筋の形状や緊張の状態と損傷や障害との関係の概要が説明できる。 6 骨片の皮下突出など皮膚の状態と損傷治療における危険性との関連の概要が説明できる。
		触診	患部を触診することから得られる情報を理解し、損傷の部位や程度及び損傷内容を想定するための基本を理解する。	1 患部を触診することで得られる情報を挙げられる。 2 腫脹の形態により硬さや触感が異なることを説明し、その関係の概要が説明できる。

				<p>3 損傷により圧迫によって出現する疼痛が異なることを説明し、その関係の概要が説明できる。</p> <p>4 損傷により皮下に触知する変形が異なることを説明し、その関係の概要が説明できる。</p> <p>5 局所熱感が示唆する損傷部や患部の状態について説明できる。</p> <p>6 皮膚感覚の異常部位と損傷末梢神経との関係について説明できる。</p> <p>7 雑音（軋轢音など）の触知が示唆する損傷部や患部の状態について説明できる。</p>
		機能的診察	運動に伴う疼痛、可動域制限や異常運動から得られる情報を理解し、損傷の部位や程度及び損傷内容を想定するための基本を理解する。	<p>1 可動域制限の原因となる患部の状態を説明し、得られた情報と損傷や障害との関係の概要が説明できる。</p> <p>2 動作によって出現する疼痛と損傷や障害との関係の概要が説明できる。</p> <p>3 動作によって出現する異常運動と損傷や障害との関係の概要が説明できる。</p> <p>4 中枢神経麻痺と末梢神経麻痺の相違について概要が説明できる。</p> <p>5 代表的な末梢神経損傷と出現する運動障害との関係の概要が説明できる。</p> <p>6 代表的なトリックモーションの概要が説明できる。</p> <p>7 代表的な病的反射を挙げ、その概要が説明できる。</p> <p>8 腱反射の亢進または減弱、消失の意義が説明できる。</p>
7	評価	評価	運動器損傷の経過中に必要な評価及び評価の意義について理解する。	<p>1 運動器損傷の経過中に行う評価項目について説明できる。</p> <p>2 評価の時期と目的について説明できる。</p> <p>3 初期評価を行ううえでの注意事項について説明できる。</p> <p>4 中間評価を行ううえでの注意事項について説明できる。</p> <p>5 最終評価を行ううえでの注意事項について説明できる。</p> <p>6 評価結果の記録について概要が説明できる。</p>
8	後療法	後療法	<p>1 後療法の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>2 各療法の応用と禁忌を理解する。</p> <p>3 物理療法機器の特徴とその使用方法について正しく理解する。</p>	<p>1 後療法の種類と特徴が理解できる。</p> <p>2 各療法の応用と禁忌について説明ができる。</p> <p>3 機器の特徴とその使用方法について説明ができる。</p>
9	指導管理	指導管理	運動器損傷の経過中に必要な指導管理及び指導管理の意義について理解する。	<p>1 運動器損傷の経過中に行う指導管理の重要性について説明できる。</p> <p>2 患者の環境に対する指導管理について説明できる。</p> <p>3 整復に対する指導管理について説明できる。</p> <p>4 固定に対する指導管理について説明できる。</p> <p>5 後療に対する指導管理について説明できる。</p> <p>6 自己管理に対する指導管理について説明できる。</p>

臨床柔道整復学				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	頭部・顔面の損傷	頭部・顔面の損傷	頭部・顔面損傷の概念を知る。	1 頭部損傷の重要性を示し、生命徴候との関連が説明できる。 2 頭部損傷時の救急対応についての概略が説明できる。 3 救急対応を必要とする所見を示せる。
		頭蓋骨骨折・顔面の骨折	1 頭蓋冠・頭蓋底骨折の概念を知る。 2 発生機序と損傷の関係をj知る。 3 生命に関する予後に関する症状を知る。 4 顔面骨骨折の概念を知る。 5 発生機序と損傷の関係をj知る。 6 症状及び治療法の概略を知る。	1 頭蓋冠・頭蓋底骨折の概略が説明できる。 2 発生機序と損傷の関係を概略的に説明できる。 3 生命に関する予後に関する症状を挙げ説明できる。 4 顔面骨骨折の概略が説明できる。 5 発生機序と損傷の関係を概略的に説明できる。 6 症状及び治療法の概略が説明できる。
		顎関節脱臼・顎関節症	1 顎関節の構造と機能の概要を知る。 2 顎関節脱臼の分類と発生機序を知る。 3 前方脱臼の症状を熟知し整復法を知る。 4 重要な合併症・後遺症について知る。 5 予後に関する事項を知る。 6 顎関節症の症状・施術法・予後を知る。	1 顎関節脱臼の分類を示し発生機序との関連が説明できる。 2 前方脱臼の症状を挙げ整復法の詳細が説明できる。 3 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。 4 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。 5 顎関節症の症状・施術法・予後に関して説明できる。
2	頭部の損傷	頭部の損傷	1 環軸関節の構造と機能の概要を知る。 2 環軸関節脱臼の分類と発生機序を知る。 3 脱臼及び脱臼骨折の症状と治療法を知る。 4 重要な合併症・後遺症について知る。 5 予後に関する事項を知る。	1 環軸関節の構造と機能の概要が説明できる。 2 環軸関節脱臼の分類と発生機序を説明できる。 3 脱臼及び脱臼骨折の症状と治療法の概略が説明できる。 4 他の脊椎脱臼の分類と発生機序を説明できる。 5 脱臼及び脱臼骨折の症状と治療法の概略が説明できる。 6 骨・関節損傷と脊椎損傷との関連が説明できる。 7 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。 8 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
		頭部の軟部組織損傷	1 頸部捻挫の分類と発生機序を知る。 2 症状と施術の適応、施術法を知る。 3 重要な合併症・後遺症について知る。	1 頸部捻挫の分類と発生機序の詳細が説明できる。 2 症状と施術の適応、施術法が詳細に説明できる。 3 鑑別すべき類症を挙げ鑑別点が詳細に説明できる。 4 重要な合併症・後遺症について説明できる。
		鑑別を要する頭部の疾患	1 頸椎部の神経損傷の原因と症状を知る。 2 頸部疾患の概要を知る。 3 変形性頸椎症の概要を知る。 4 頸部脊柱管狭窄症の概要を知る。 5 OPLL の概要を知る。 6 その他の頸部疾患の概要を知る。 7 頸部捻挫との鑑別に資する検査法の種類を知る。 8 検査所見と診断の関係を理解する。 9 症状と治療法の概要を知る。 10 頸部脊柱管狭窄症の観血療法の概要を知る。 11 頸部脊柱管狭窄症の観血療法の適応について知る。 12 保存療法・観血療法の得失に関する事項を知る。 13 治療上の注意点を知る。	1 頸椎部の神経損傷の原因と症状が説明できる。 2 頸部疾患の概要が説明できる。 3 変形性頸椎症の原因の概要が説明できる。 4 変形性頸椎症の症状の概要を説明できる。 5 頸部脊柱管狭窄症の概要を説明できる。 6 OPLL の概要を説明できる。 7 頸部捻挫との鑑別に資する検査法を挙げられる。 8 検査所見と診断の詳細が説明できる。 9 変形性頸椎症等の保存的治療法の詳細が説明できる。 10 頸部脊柱管狭窄症の観血療法の概要が説明できる。 11 頸部脊柱管狭窄症の観血療法の適応

				<p>が説明できる。</p> <p>12 その他の頸部疾患治療法の概要が説明できる。</p> <p>13 保存療法・観血療法の得失に関する事項が説明できる。</p> <p>14 治療上の注意点を挙げ説明できる。</p>
3	胸部の損傷	胸骨・肋骨骨折	<p>1 胸骨・肋骨の構造と機能の概要を知る。</p> <p>2 胸骨骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>3 症状と施術法を知る。</p> <p>4 肋骨骨折の症状と発生機序を知る。</p> <p>5 症状と施術の適応、施術法を知る。</p> <p>6 重要な合併症・後遺症について知る。</p> <p>7 予後に関する事項を知る。</p>	<p>1 胸骨・肋骨の構造と機能の概要が説明できる。</p> <p>2 胸骨骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>3 症状を挙げ施術法の概要が説明できる。</p> <p>4 肋骨骨折の症状の特徴と発生機序が説明できる。</p> <p>5 症状と施術の適応の関係、施術法の詳細が説明できる。</p> <p>6 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。</p> <p>7 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p>
		軟部組織損傷	<p>1 胸部挫傷・胸肋関節捻挫の発生機序を知る。</p> <p>2 症状と施術の適応、施術法を知る。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について知る。</p>	<p>1 胸部挫傷・胸肋関節捻挫発生機序の概要が説明できる。</p> <p>2 症状と施術の適応、施術法が詳細に説明できる。</p> <p>3 鑑別すべき類症を挙げ鑑別点が詳細に説明できる。</p> <p>4 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p>
4	体幹・脊椎の損傷	体幹・脊椎の損傷	<p>1 脊椎の構造と機能の概要を知る。</p> <p>2 椎体圧迫骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>3 症状と治療法を知る。</p> <p>4 胸・腰椎脱臼骨折の分類と発生機序、症状と治療法を知る。</p> <p>5 腰椎椎弓骨折の発生機序、症状、治療法と予後を知る。</p> <p>6 腰椎分離・すべり症・無分離すべり症の発生機序、症状、治療法と予後を知る。</p> <p>7 重要な合併症・後遺症について知る。</p> <p>8 予後に関する事項を知る。</p>	<p>1 脊椎の構造と機能の概要が説明できる。</p> <p>2 椎体圧迫骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>3 症状を挙げ治療法の概要が説明できる。</p> <p>4 胸・腰椎脱臼骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>5 症状を挙げ治療法の概要が説明できる。</p> <p>6 腰椎椎弓骨折の発生機序、症状、治療法と予後が説明できる。</p> <p>7 腰椎分離・すべり症・無分離すべり症の発生機序、症状、治療法と予後が説明できる。</p> <p>8 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。</p> <p>9 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p>
		鑑別を要する腰部の疾患	<p>1 腰痛を主症状とする疾患の概要を知る。</p> <p>2 腰部脊柱管狭窄症の概要を知る。</p> <p>3 疾患の鑑別に資する検査法の種類を知る。</p> <p>4 検査所見と診断の関係を理解する。</p> <p>5 腰部脊柱管狭窄症観血療法の概要を知る。</p> <p>6 腰部椎間板ヘルニア観血療法の概要を知る。</p> <p>7 保存的療法の概要を知る。</p> <p>8 保存療法・観血療法の得失に関する事項を知る。</p> <p>9 治療上の注意点を挙げる。</p>	<p>1 腰痛を主症状とする疾患の概要が説明できる。</p> <p>2 腰部脊柱管狭窄症の概要が説明できる。</p> <p>3 疾患の鑑別に資する検査法の種類を挙げ説明できる。</p> <p>4 検査所見と診断の関係が説明できる。</p> <p>5 腰部脊柱管狭窄症観血療法の概要が説明できる。</p> <p>6 腰部椎間板ヘルニア観血療法の概要が説明できる。</p> <p>7 保存的療法の概要が説明できる。</p> <p>8 保存療法・観血療法の得失に関する事項が説明できる。</p> <p>9 治療上の注意点を挙げ説明できる。</p>
		腰部の軟部組織損傷	<p>1 腰部捻挫の発生機序を知る。</p> <p>2 症状と施術の適応、施術法を知る。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について知る。</p>	<p>1 腰部捻挫の発生機序の詳細が説明できる。</p> <p>2 症状と施術の適応、施術法が詳細に説明できる。</p> <p>3 鑑別すべき類症を挙げ鑑別点が詳細に説明できる。</p> <p>4 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p>
5	上肢の骨折	上肢帯の理解	上肢帯の概念と機能を知る。	1 上肢帯の概念と機能の説明ができる。

	鎖骨骨折	<ol style="list-style-type: none"> 鎖骨骨折の発生機序の特徴を知る。 定型的及びその他の鎖骨骨折の症状を知る。 整復法・固定法の詳細を理解する。 重要な合併症・後遺症について知る。 予後に関する事項を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 鎖骨骨折の発生機序と骨折型の関係が説明できる。 定型的及びその他の鎖骨骨折の症状を分類し説明できる。 定型的骨折の整復法・固定法の詳細が説明できる。 整復・固定実施上の重要な注意点を挙げ説明できる。 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
	肩甲骨骨折	<ol style="list-style-type: none"> 肩甲骨骨折の分類と発生機序の関係をj知る。 体部骨折・上角骨折等の症状を知る。 整復法・固定法の概要を知る。 重要な合併症・後遺症について知る。 予後に関する事項を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 肩甲骨骨折の分類と発生機序を示し、関係が説明できる。 体部骨折・上角骨折等の症状の特徴が説明できる。 代表的な骨折の整復法・固定法を概略的に説明できる。 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
	上腕骨近位端部骨折	上腕近位部骨折の分類と概念を知る。	1 上腕骨近位部骨折の分類を想起し、概念を説明できる。
	上腕骨骨頭骨折	<ol style="list-style-type: none"> 骨頭骨折の分類と発生機序の関係をj知る。 骨折分類別の症状の特徴を知る。 整復法・固定法の概要を知る。 重要な合併症・後遺症について知る。 予後に関する事項を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 骨頭骨折の分類と発生機序を示し、関係が説明できる。 骨折分類別の症状の特徴が説明できる。 代表的な骨折の整復法・固定法を概略的に説明できる。 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
	上腕骨解剖頸骨折	<ol style="list-style-type: none"> 解剖頸骨折の発生機序を知る。 骨折型分類別の症状の特徴を知る。 整復法・固定法・施術上の注意事項を知る。 重要な合併症・後遺症について知る。 予後に関する事項を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 解剖頸骨折の発生機序を示し説明できる。 骨折分類別の症状の特徴が説明できる。 整復法・固定法・施術上の注意を概略的に説明できる。 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
	上腕骨外科頸骨折	<ol style="list-style-type: none"> 外科頸骨折の骨折型及び発生機序を知る。 骨折型分類別の症状の特徴を理解する。 類症と鑑別点を理解する。 整復法・固定法・施術上の注意事項を知る。 重要な合併症・後遺症について知る。 予後に関する事項を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 外科頸骨折の骨折型及び発生機序を示し、関係が説明できる。 骨折型分類別の症状の特徴が説明できる。 3 鑑別すべき類症を挙げ鑑別点の説明ができる。 骨折型分類別に整復・固定法の相違点が説明できる。 施術上の注意点を概略的に説明できる。 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
	上腕骨近位骨端線離開	近位骨端線離開の概要を知る。	<ol style="list-style-type: none"> 近位骨端線離開の分類及び発生機序を示し、関係が説明できる。 分類別の症状及び特徴が説明できる。 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。
	結節部単独骨折	結節部単独骨折の概要を知る。	<ol style="list-style-type: none"> 結節部単独骨折の分類及び発生機序を示し、関係が説明できる。 分類別の症状及び特徴が説明できる。 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。
	上腕骨骨幹部骨折	<ol style="list-style-type: none"> 骨幹部骨折の骨折型及び発生機序を知る。 骨折型分類別の症状の特徴を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 骨幹部骨折の骨折型及び発生機序を示し、関係が説明できる。 上位型・下位型骨折で症状の相違が説

		<ul style="list-style-type: none"> る。 3 合併する神経損傷の詳細を理解する。 4 整復法・固定法について詳細を理解する。 5 後遺症を考えた施術上の注意事項を知る。 6 偽関節発生のメカニズムを理解する。 7 その他の合併症・後遺症について知る。 8 予後に関する事項を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 明できる。 3 橈骨神経損傷の症状について詳細が説明できる。 4 骨折型別の整復法・固定法を詳細に説明できる。 5 後遺症を考えた施術上の注意事項の詳細が示せる。 6 偽関節発生のメカニズムが詳細にわたり説明できる。 7 上記以外の合併症・後遺症を挙げ説明できる。 8 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる
	上腕骨遠位端部骨折の概要	上腕遠位端部骨折の分類と概念を知る。	1 上腕骨遠位部骨折の分類を想起、概念を説明できる。
	上腕骨顆上骨折	<ul style="list-style-type: none"> 1 顆上骨折の骨折型及び発生機序を知る。 2 骨折型分類別の症状の特徴を理解する。 3 類症と鑑別点を理解する。 4 整復法・固定法・施術上の注意事項を知る。 5 重要な合併症・後遺症について知る。 6 予後に関する事項を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 顆上骨折の骨折型及び発生機序を示し、関係が説明できる。 2 骨折型分類別の症状の特徴が説明できる。 3 鑑別すべき類症を挙げ鑑別点の説明ができる。 4 骨折型分類別に整復・固定法の相違点が説明できる。 5 合併する神経損傷の詳細が説明できる。 6 内反肘について詳細が説明できる。 7 Volkmann 拘縮について詳細が説明できる。 8 その他の合併症・後遺症を挙げ説明できる。 9 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
	上腕骨外顆骨折	<ul style="list-style-type: none"> 1 外顆骨折の発生機序別の骨折型を知る。 2 骨折型及び症状の特徴を理解する。 3 整復法・固定法・施術上の注意事項を知る。 4 重要な合併症・後遺症について知る。 5 予後に関する事項を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 外顆骨折の発生機序と骨折型の関係が説明できる。 2 骨片転位及び症状の特徴を詳細に説明できる。 3 整復法・固定法・施術上の注意事項を挙げ説明できる。 4 外反肘発生のメカニズムの詳細が説明できる。 5 遅発性尺骨神経麻痺の詳細が説明できる。 6 その他の合併症・後遺症を挙げ説明できる。 7 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
	上腕骨内側上顆骨折	<ul style="list-style-type: none"> 1 内側上顆骨折の発生機序及び症状を知る。 2 関連する損傷を知り、関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 内側上顆骨折の発生機序及び症状が説明できる。 2 肘関節脱臼・靭帯損傷との関係の詳細が説明できる。 3 整復法・固定法・施術上の注意事項を挙げ説明できる。 4 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。
	前腕骨近位端部骨折の概要	前腕近位端部骨折の分類と概念を知る。	1 前腕骨近位部骨折の分類を想起、概念を説明できる。
	橈骨頭・頸部骨折	橈骨近位端骨折の概要を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 1 橈骨頭・頸部骨折の分類及び発生機序を示し、関係が説明できる。 2 分類別の症状及び特徴が説明できる。 3 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。
	肘頭骨折	肘頭骨折の概要を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 1 肘頭骨折の分類及び発生機序を示し、関係が説明できる。 2 分類別の症状及び特徴が説明できる。 3 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。
	前腕骨骨幹部骨折・橈骨骨幹部単独骨折	<ul style="list-style-type: none"> 1 前腕骨骨幹部骨折の分類と概念を知る。 2 橈骨骨幹部単独骨折の概要を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 前腕骨骨幹部骨折の分類を想起、概念を説明できる。 2 橈骨骨幹部単独骨折の分類・発生機序を示し、関係が説明できる。 3 分類別の症状及び特徴が説明できる。

			4 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。
	尺骨骨幹部単独骨折	尺骨骨幹部単独骨折の概要を知る。	1 尺骨骨幹部単独骨折の発生機序が説明できる。 2 症状及び特徴を挙げ説明できる。 3 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。
	Monteggia 骨折	Monteggia 骨折の概要を知る。	1 Monteggia 骨折の発生機序及び病態が説明できる。 2 症状及び特徴を挙げ説明できる。 3 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。
	Galeazzi 骨折	Galeazzi 骨折の概要を知る。	1 Galeazzi 骨折の発生機序及び病態が説明できる。 2 症状及び特徴を挙げ説明できる。 3 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。
	前腕両骨骨幹部骨折	1 骨折部位別の骨折型及び発生機序を知る。 2 骨折型分類別の症状の特徴を理解する。 3 整復法・固定法について詳細を理解する。 4 後遺症を考えた施術上の注意事項を知る。 5 橋状仮骨形成のメカニズムを理解する。 6 その他の合併症・後遺症について知る。 7 予後に関する事項を知る。	1 骨折部位別の骨折型及び発生機序を示し、関係が説明できる。 2 骨折部位別に骨片転位の相違が説明できる。 3 骨折型別の整復法・固定法を詳細に説明できる。 4 後遺症を考えた施術上の注意事項の詳細が示せる。 5 橋状仮骨形成のメカニズムが詳細に説明できる。 6 橋状仮骨形成と機能障害の関係が説明できる。 7 上記以外の合併症・後遺症を挙げ説明できる。 8 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
	Colles 骨折	1 前腕遠位端部骨折の分類を詳細に知る。 2 Colles 骨折の詳細を知る。 3 骨折別に所見の相違を理解する。 4 骨折の整復法及び原理を理解する。 5 牽引直圧整復法の操作を熟知する。 6 屈曲整復法の操作を熟知する。 7 各種固定法のポイントを理解する。 8 後療法実施上の注意とポイントを理解する。 9 骨折治療上の注意点を知る。 10 保存療法・観血療法の適応について知る。	1 前腕遠位端部骨折の分類を詳細に説明できる。 2 Colles 骨折について詳細に説明できる。 3 骨折別に所見の相違点を挙げ詳細に説明できる。 4 骨折の整復法及び原理が詳細に説明できる。 5 牽引直圧整復法・屈曲整復法の操作が詳細に説明できる。 6 各種固定法のポイントが詳細に説明できる。 7 後療法実施上の注意とポイントが詳細に説明できる。 8 骨折治療上の注意点を挙げ説明できる。 9 保存療法・観血療法の適応について説明できる。
	Smith 骨折	1 Smith 骨折の詳細を知る。 2 骨折の有無判定の概要を理解する。 3 骨折の整復法及び原理を理解する。 4 各種固定法のポイントを理解する。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。 6 骨折治療上の注意点を知る。 7 保存療法・観血療法の適応について知る。	1 Smith 骨折について詳細に説明できる。 2 骨折別に所見の相違点を挙げ詳細に説明できる。 3 骨折の整復法及び原理が詳細に説明できる。 4 各種固定法のポイントが詳細に説明できる。 5 後療法実施上の注意とポイントが詳細に説明できる。 6 骨折治療上の注意点を挙げ説明できる。 7 保存療法・観血療法の適応について説明できる。
	Barton 骨折その他	1 Barton 骨折の詳細を知る。 2 その他の遠位端骨折の分類等概要を知る。 3 骨折の有無判定の概要を理解する。 4 骨折の整復法及び原理を理解する。 5 各種固定法のポイントを理解する。	1 Barton 骨折の分類、特異性の詳細を説明できる。 2 その他の遠位端骨折で分類等の概要が説明できる。 3 骨折の有無判定の概要が説明できる。 4 骨折の整復法及びその原理が説明でき

		<p>6 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p> <p>7 保存療法・観血療法の適応について知る。</p>	<p>る。</p> <p>5 各種固定法のポイントを挙げ説明できる。</p> <p>6 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p> <p>7 保存療法・観血療法の適応について説明できる。</p>
手部の舟状骨骨折	<p>1 手骨骨折の分類を詳細に知る。</p> <p>2 舟状骨骨折の分類、病態等の詳細を知る。</p> <p>3 骨折の有無判定の概要を理解する。</p> <p>4 骨折の整復法及び原理を理解する。</p> <p>5 各種固定法のポイントを理解する。</p> <p>6 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p> <p>7 舟状骨骨折の観血療法の概要を知る。</p> <p>8 手骨骨折治療上の注意点を知る。</p> <p>9 保存療法・観血療法の適応について知る。</p>	<p>1 手骨骨折を分類し詳細に説明できる。</p> <p>2 舟状骨骨折の分類、病態等が詳細に説明できる。</p> <p>3 骨折部位・種別に所見の相違を挙げ説明できる。</p> <p>4 骨折の整復法及び原理が説明できる。</p> <p>5 整復法の操作がもつ意味を詳細に説明できる。</p> <p>6 各種固定法のポイントを挙げ説明できる。</p> <p>7 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p> <p>8 舟状骨骨折の観血療法の概要が説明できる。</p> <p>9 保存療法・観血療法の適応について説明できる。</p>	
手根部骨折	<p>1 手根部骨折の分類を詳細に知る。</p> <p>2 骨折の有無判定の概要を理解する。</p> <p>3 各種固定法のポイントを理解する。</p> <p>4 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p> <p>5 手根部骨折治療上の注意点を知る。</p> <p>6 保存療法・観血療法の適応について知る。</p>	<p>1 手根部骨折を分類し詳細に説明できる。</p> <p>2 骨折部位・種別に所見の相違を挙げ説明できる。</p> <p>3 各種固定法のポイントを挙げ説明できる。</p> <p>4 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p> <p>5 手根部骨折治療上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>6 保存療法・観血療法の適応について説明できる。</p>	
手部の骨折 1	<p>1 中手骨基部骨折の分類、病態を知る。</p> <p>2 Bennet 骨折の病態、特徴等の詳細を知る。</p> <p>3 骨折の有無判定の概要を理解する。</p> <p>4 骨折の整復法及び原理を理解する。</p> <p>5 各種固定法のポイントを理解する。</p> <p>6 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p> <p>7 Bennet 骨折の観血療法の概要を知る。</p> <p>8 保存療法・観血療法の適応について知る。</p>	<p>1 中手骨骨折の分類、病態等が詳細に説明できる。</p> <p>2 Bennet 骨折の病態、特徴等が詳細に説明できる。</p> <p>3 骨折部位・種別に所見の相違を挙げ説明できる。</p> <p>4 骨折の整復法及び原理が説明できる。</p> <p>5 Bennet 骨折の固定法のポイントを挙げ説明できる。</p> <p>6 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p> <p>7 保存療法・観血療法の適応について説明できる。</p>	
手部の骨折 2	<p>1 中手骨骨折の分類、病態等の詳細を知る。</p> <p>2 骨折の有無判定の概要を理解する。</p> <p>3 骨折の整復法及び原理を理解する。</p> <p>4 各種固定法のポイントを理解する。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p> <p>6 中手骨骨折の観血療法の概要を知る。</p> <p>7 保存療法・観血療法の適応について知る。</p>	<p>1 中手骨骨折の分類、病態等が詳細に説明できる。</p> <p>2 骨折部位・種別に所見の相違を挙げ説明できる。</p> <p>3 整復法の操作が持つ意味を詳細に説明できる。</p> <p>4 各種固定法のポイントを挙げ説明できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p> <p>6 中手骨骨折の観血療法の概要が説明できる。</p> <p>7 保存療法・観血療法の適応について説明できる。</p>	
手指の骨折	<p>1 手指部損傷の分類を詳細に知る。</p> <p>2 指骨骨折の分類、病態等を詳細に知る。</p> <p>3 骨折部位別に所見の相違を理解する。</p> <p>4 骨折の整復法及び原理を理解する。</p> <p>5 整復法の操作を熟知する。</p> <p>6 各種固定法のポイントを理解する。</p>	<p>1 手指部損傷を分類し詳細に説明できる。</p> <p>2 指骨骨折の分類、病態等を詳細に説明できる。</p> <p>3 骨折部位別に所見の相違点を挙げ詳細に説明できる。</p> <p>4 骨折の整復法及び原理を詳細に説明できる。</p> <p>5 整復法の操作の持つ意味が詳細に説明</p>	

				できる。 6 各種固定法のポイントを挙げ説明できる。
6	上肢の脱臼	上肢帯の脱臼	上肢帯脱臼の種類と概念を知る。	1 上肢帯脱臼の種類を挙げ概略が説明できる。
		鎖骨脱臼	1 胸鎖関節脱臼の分類、発生機序を知る。 2 分類別の症状及び特徴を知る。 3 整復法・固定法の概要を知る。 4 肩鎖関節脱臼の分類、発生機序を知る。 5 分類別の症状及び特徴を知る。 6 整復法・固定法の詳細を理解する。 7 重要な合併症・後遺症について知る。 8 予後に関する事項を知る。	1 胸鎖関節脱臼の分類及び発生機序を示せる。 2 分類別の症状及び特徴を挙げ説明できる。 3 整復法・固定法の概要が説明できる。 4 施術上注意するべき点を指摘し説明できる。 5 肩鎖関節脱臼の分類及び発生機序を示せる。 6 分類別の症状及び特徴を挙げ説明できる。 7 整復法・固定法の詳細が説明できる。 8 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。 9 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
		肩関節損傷の概説	肩関節損傷の種類と概念を知る。	1 肩関節損傷の種類を挙げ概略が説明できる。
		肩関節脱臼	1 肩関節脱臼の分類、発生機序を知る。 2 分類別の症状及び特徴を熟知する。 3 前方脱臼の整復・固定法の詳細を熟知する。 4 重要な合併症・後遺症について知る。 5 予後に関する事項を知る。	1 肩関節脱臼の分類を挙げ発生機序との関係が説明できる。 2 分類別の症状及び特徴の詳細が説明できる。 3 診断に資する症状を挙げ、診断の根拠が示せる。 4 前方脱臼の整復・固定法の詳細が説明できる。 5 整復操作の各々を解剖学的に意義付けて説明できる。 6 脱臼に伴う骨折を挙げ整復への影響が説明できる。 7 その他の合併症・後遺症を挙げ説明できる。 8 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
		肘関節脱臼(小児肘内障を含む)	1 肘関節損傷の種類と概念を知る。 2 肘関節脱臼の分類、発生機序を知る。 3 分類別の症状及び特徴を熟知する。 4 後方脱臼の整復・固定法の詳細を熟知する。 5 その他の脱臼の整復・固定法を知る。 6 重要な合併症・後遺症について知る。 7 予後に関する事項を知る。 8 小児肘内障の発生機序及び病態を知る。 9 小児肘内障の整復法の詳細を熟知する。	1 肘関節脱臼の分類及び発生機序を挙げ関係を説明できる。 2 分類別の症状及び特徴を挙げ相違点を指摘できる。 3 後方脱臼の整復・固定法の詳細が説明できる。 4 その他の脱臼について整復・固定法が説明できる。 5 肘関節脱臼に合併する骨折の整復への影響が示せる。 6 骨化性筋炎の詳細が説明できる。 7 その他の合併症・後遺症について説明できる。 8 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。 9 小児肘内障の発生機序及び病態の説明ができる。 10 小児肘内障の整復法の詳細が説明できる。
		手関節部脱臼の概要	1 手関節損傷の分類、発生機序を知る。 2 分類別の症状及び特徴を知る。 3 遠位橈尺関節脱臼の分類、発生機序を知る。 4 脱臼種別の整復・固定法を知る。 5 橈骨手根関節脱臼の分類、発生機序を知る。 6 橈骨手根関節脱臼の整復・固定法を知る。 7 重要な合併症・後遺症について知る。 8 予後に関する事項を知る。	1 手関節損傷の分類、発生機序を示せる。 2 分類別の症状及び特徴を挙げ説明できる。 3 遠位橈尺関節脱臼を分類し発生機序の説明ができる。 4 脱臼種別の整復・固定法の概略を説明できる。 5 橈骨手根関節脱臼を分類し発生機序の説明ができる。 6 橈骨手根関節脱臼の整復・固定法の概略が説明できる。 7 重要な合併症・後遺症について説明できる。

				8 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
		手部脱臼の概要	1 手根骨脱臼の分類、発生機序を知る。 2 脱臼種別の整復・固定法を知る。 3 手根中手関節脱臼の分類、発生機序を知る。 4 脱臼種別の整復・固定法を知る。 5 重要な合併症・後遺症について知る。 6 予後に関する事項を知る。	1 手根骨脱臼を分類し発生機序の説明ができる。 2 脱臼種別の整復・固定法の概略を説明できる。 3 手根中手関節脱臼を分類し発生機序の説明ができる。 4 脱臼種別の整復・固定法の概略を説明できる。 5 重要な合併症・後遺症について説明できる。 6 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
		指関節の脱臼	1 中手指節関節脱臼の分類、発生機序を知る。 2 脱臼種別の整復・固定法を知る。 3 指節間関節脱臼の分類、発生機序を知る。 4 脱臼種別の整復・固定法を知る。 5 重要な合併症・後遺症について知る。 6 予後に関する事項を知る。	1 中手指節関節脱臼を分類し発生機序の説明ができる。 2 脱臼種別の整復・固定法の概略を説明できる。 3 指節間関節脱臼を分類し発生機序の説明ができる。 4 脱臼種別の整復・固定法の概略を説明できる。 5 重要な合併症・後遺症について説明できる。 6 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
7	上肢の軟部組織損傷	肩関節の軟部損傷	1 肩関節軟部損傷の分類、発生機序を知る。 2 分類別の症状及び特徴を知る。 3 施術法の概略を知る。	1 肩関節軟部損傷の分類及び発生機序との関係を示せる。 2 肩回旋腱板損傷の症状及び特徴が説明できる。 3 上腕二頭筋腱損傷の症状及び特徴が説明できる。 4 施術法の概略及び施術上の注意点が説明できる。
		いわゆる五十肩・その他	肩部疼痛疾患の種類と概念を知る。	1 肩部疼痛疾患の分類及び発生機序との関係を示せる。 2 いわゆる五十肩の症状及び特徴が説明できる。 3 腱板損傷と五十肩の鑑別点を挙げ説明できる。 4 治療法の概略が説明できる。
		肘部の軟部組織損傷	1 肘関節軟部組織損傷の概要を知る。 2 損傷組織別の症状及び特徴を知る。 3 治療法の概要を知る。 4 予後に関する事項を知る。	1 肘関節軟部組織損傷の種類を挙げ概要が説明できる。 2 損傷組織別に症状及び特徴を挙げて説明できる。 3 治療法の概略が説明できる。 4 治療に当たって注意すべき事項を挙げ説明できる。 5 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
		前腕から手関節部の軟部組織損傷	1 前腕部軟部組織損傷の概要を知る。 2 損傷組織別の症状及び特徴を知る。 3 治療法の概要を知る。 4 予後に関する事項を知る。	1 前腕部軟部組織損傷の種類を挙げ概要が説明できる。 2 損傷組織別に症状及び特徴を挙げて説明できる。 3 治療法の概略が説明できる。 4 治療に当たって注意すべき事項を挙げ説明できる。 5 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
		手指部の軟部組織損傷	1 手部軟部組織損傷の分類、発生機序を知る。 2 手指部軟部組織損傷の分類、発生機序を知る。 3 それぞれの損傷の特徴を知る。	1 手部軟部組織損傷を分類し発生機序の説明ができる。 2 手指部軟部組織損傷を分類し発生機序を説明できる。 3 弾発指の概要が説明できる。 4 指伸筋腱裂の特徴が説明できる。 5 損傷種別の治療法の概略が説明できる。
8	下肢の骨折	下肢帯骨折の概要	下肢帯骨折の種類と概念を知る。	1 下肢帯骨折の種類を挙げ概略が説明できる。
		骨盤骨折	1 骨盤骨折の分類、発生機序の特徴を知る。	1 骨盤骨折の発生機序及び特徴が説明できる。

		<p>2 骨盤骨折の症状を知る。</p> <p>3 治療法の概略を知る。</p> <p>4 重要な合併症・後遺症について知る。</p> <p>5 予後に関する事項を知る。</p>	<p>2 骨盤骨折の分類を挙げて相違点を説明できる。</p> <p>3 骨盤骨折の重要な症状を挙げ説明できる。</p> <p>4 治療法の概略が説明できる。</p> <p>5 失血性ショックの危険性について説明できる。</p> <p>6 その他の合併症・後遺症を挙げ説明できる。</p> <p>7 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p>
大腿骨近位端部骨折	<p>1 大腿骨近位部骨折の分類を知る。</p> <p>2 大腿骨骨頭骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>3 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p> <p>4 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>5 大腿骨頸部骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>6 症状及び代表的な整復法を知る。</p> <p>7 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>8 大腿骨転子部骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>9 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p> <p>10 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>11 大腿骨転子下骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>12 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p> <p>13 重要な合併症・後遺症について理解する。</p>	<p>1 大腿骨近位部骨折の分類を示せる。</p> <p>2 大腿骨骨頭骨折の分類を挙げ発生機序が説明できる。</p> <p>3 特徴的な症状及び治療法の概略が説明できる。</p> <p>4 大腿骨頸部骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>5 症状及び代表的な整復法が説明できる。</p> <p>6 整復操作実施時の注意事項を示し説明できる。</p> <p>7 大腿骨転子部骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>8 特徴的な症状及び治療法の概略が説明できる。</p> <p>9 大腿骨転子下骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>10 特徴的な症状及び治療法の概略が説明できる。</p> <p>11 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p>	
鑑別を要する股関節部の疾患 大腿骨頭すべり症	<p>1 股関節痛を主症状とする疾患の概要を知る。</p> <p>2 大腿骨頭すべり症の概要を知る。</p> <p>3 大腿骨頭すべり症の原因と症状を知る。</p> <p>4 治療法の概略を理解する。</p> <p>5 他疾患の鑑別に資する所見を知る。</p>	<p>1 股関節痛を主症状とする疾患の概要が説明できる。</p> <p>2 大腿骨頭すべり症の概要が説明できる。</p> <p>3 症状の説明ができる。</p> <p>4 治療法の概略が説明できる。</p> <p>5 他疾患の鑑別に資する所見を挙げ説明できる。</p>	
大腿骨骨幹部骨折	<p>1 骨幹部骨折の分類、発生機序を知る。</p> <p>2 骨折型別の症状を知る。</p> <p>3 成人・小児に分け治療法の概略を知る。</p> <p>4 重要な合併症・後遺症について知る。</p> <p>5 予後に関する事項を知る。</p>	<p>1 骨幹部骨折の分類、発生機序を挙げ説明できる。</p> <p>2 骨折型別の症状が説明できる。</p> <p>3 成人・小児に分け治療法の概略が説明できる。</p> <p>4 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。</p> <p>5 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p>	
大腿骨遠位端部骨折	<p>1 大腿骨遠位部骨折の分類を知る。</p> <p>2 大腿骨顆上骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>3 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p> <p>4 大腿骨顆部骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>5 症状及び整復法の概要を知る。</p> <p>6 大腿骨遠位骨端線離開発生機序を知る。</p> <p>7 症状及び整復法の概要を知る。</p> <p>8 重要な合併症・後遺症について理解する。</p>	<p>1 大腿骨遠位部骨折の分類を挙げ説明できる。</p> <p>2 大腿骨顆上骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>3 特徴的な症状及び治療法の概略が説明できる。</p> <p>4 大腿骨顆部骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>5 症状及び整復法の概要が説明できる。</p> <p>6 大腿骨遠位骨端線離開発生機序が説明できる。</p> <p>7 症状及び整復法の概要が説明できる。</p> <p>8 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。</p>	
膝蓋骨骨折	<p>膝蓋骨骨折の概念を知る。</p>	<p>1 膝蓋骨骨折の分類及び発生機序を説明できる。</p> <p>2 分類に伴う症状の相違が説明できる。</p> <p>3 骨折の種類を挙げ症状との関連を説明できる。</p>	

			<p>4 治療法の概略と保存療法の適応が説明できる。</p> <p>5 重要な合併症・後遺症を挙げ説明できる。</p>
	脛骨顆部・顆間隆起	<p>1 下腿骨近位部骨折の分類を知る。</p> <p>2 脛骨顆部骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>3 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p> <p>4 脛骨顆間隆起骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>5 症状及び治療法の概要を知る。</p> <p>6 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>7 予後に関する事項を知る。</p>	<p>1 下腿骨近位部骨折の分類を詳細に説明できる。</p> <p>2 特徴的な症状及び治療法の概略が説明できる。</p> <p>3 脛骨内外顆骨折の整復法の詳細が説明できる。</p> <p>4 固定法の詳細及び注意事項を挙げ説明ができる。</p> <p>5 後療法及び実施上の注意事項を詳細に説明できる。</p> <p>6 重要な合併症・後遺症を挙げ詳細に説明できる。</p> <p>7 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p>
	脛骨結節・腓骨頭	<p>1 脛骨結節骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 類症との鑑別に資する症状を知る。</p> <p>3 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p> <p>4 腓骨頭骨折の発生機序を知る。</p> <p>5 症状及び治療法の概要を知る。</p> <p>6 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>7 予後に関する事項を知る。</p>	<p>1 脛骨結節骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>2 類症との鑑別点を挙げ鑑別項目の説明ができる。</p> <p>3 特徴的な症状及び治療法の概略が説明できる。</p> <p>4 腓骨頭骨折の発生機序が説明できる。</p> <p>5 症状及び治療法の概要が説明できる。</p> <p>6 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p> <p>7 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p>
	下腿骨骨幹部骨折	<p>1 下腿骨骨幹部骨折の分類を知る。</p> <p>2 脛骨単独骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>3 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p> <p>4 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>5 下腿両骨骨幹部骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>6 症状及び代表的な整復法を知る。</p> <p>7 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>8 腓骨単独骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>9 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p> <p>10 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>11 下腿骨果上骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>12 特徴的な症状及び整復法の概略を知る。</p> <p>13 重要な合併症・後遺症について理解する。</p>	<p>1 下腿骨骨幹部骨折の分類を示せる。</p> <p>2 脛骨単独骨折の分類を挙げ発生機序が説明できる。</p> <p>3 特徴的な症状及び治療法の概略が説明できる。</p> <p>4 下腿両骨骨幹部骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>5 症状及び代表的な整復法が説明できる。</p> <p>6 整復操作実施時の注意事項を示し説明できる。</p> <p>7 腓骨単独骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>8 特徴的な症状及び治療法の概略が説明できる。</p> <p>9 下腿骨果上骨折の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>10 特徴的な症状及び整復法の概略が説明できる。</p> <p>11 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p>
	果部外転骨折	<p>1 下腿骨果部骨折の分類を知る。</p> <p>2 果部外転骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>3 特徴的な症状及び整復法の詳細を知る。</p> <p>4 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>5 予後に関する事項を知る。</p> <p>6 類症との鑑別に資する症状を知る。</p>	<p>1 下腿骨果部骨折を分類、概略が説明できる。</p> <p>2 果部外転骨折を分類、発生機序との関係が説明できる。</p> <p>3 特徴的な症状を挙げ整復法の詳細が説明できる。</p> <p>4 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p> <p>5 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p> <p>6 類症との鑑別に資する症状を挙げ説明できる。</p>
	果部内転骨折	<p>1 果部内転骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 症状及び代表的な整復法の詳細を知る。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について理解する。</p>	<p>1 果部内転骨折を分類、発生機序との関係が説明できる。</p> <p>2 症状を挙げ整復法の詳細が説明できる。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p>

			<p>る。</p> <p>4 予後に関する事項を知る。</p> <p>5 類症との鑑別に資する症状を知る。</p>	<p>きる。</p> <p>4 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p> <p>5 類症との鑑別に資する症状を挙げ説明できる。</p>
		三果部骨折	<p>1 三果部骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>4 予後に関する事項を知る。</p> <p>5 類症との鑑別に資する症状を知る。</p>	<p>1 三果部骨折を分類、発生機序との関係が説明できる。</p> <p>2 特徴的な症状を挙げ整復法の概略が説明できる。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p> <p>4 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p> <p>5 類症との鑑別に資する症状を挙げ説明できる。</p>
		距骨骨折	<p>1 距骨骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 特徴的な症状及び整復法の詳細を知る。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>4 予後に関する事項を知る。</p> <p>5 類症との鑑別に資する症状を知る。</p>	<p>1 距骨骨折を分類、発生機序との関係が説明できる。</p> <p>2 特徴的な症状を挙げ整復法の詳細が説明できる。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p> <p>4 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p> <p>5 類症との鑑別に資する症状を挙げ説明できる。</p>
		踵骨骨折	<p>1 踵骨骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 特徴的な症状及び代表的な整復法の詳細を知る。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>4 予後に関する事項を知る。</p> <p>5 類症との鑑別に資する症状を知る。</p>	<p>1 踵骨骨折を分類、発生機序との関係が説明できる。</p> <p>2 特徴的な症状を挙げ整復法の詳細が説明できる。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p> <p>4 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p> <p>5 類症との鑑別に資する症状を挙げ説明できる。</p>
		その他の足根骨骨折	<p>1 その他の足根骨骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について理解する。</p> <p>4 予後に関する事項を知る。</p> <p>5 類症との鑑別に資する症状を知る。</p>	<p>1 その他足根骨骨折を分類、発生機序が説明できる。</p> <p>2 特徴的な症状を挙げ整復法の概略が説明できる。</p> <p>3 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p> <p>4 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p> <p>5 類症との鑑別に資する症状を挙げ説明できる。</p>
		中足骨骨折	<p>1 外傷性中足骨骨折の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 中足骨疲労骨折の概要を知る。</p>	<p>1 外傷性中足骨骨折を分類、発生機序との関係が説明できる。</p> <p>2 症状を挙げ整復法の詳細が説明できる。</p> <p>3 中足骨疲労骨折の種類・特徴を挙げ概要が説明できる。</p> <p>4 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p>
		趾骨骨折	<p>1 趾骨骨折の概要を知る。</p> <p>2 特徴的な症状及び治療法の概略を知る。</p>	<p>1 趾骨骨折を分類、発生機序との関係が説明できる。</p> <p>2 症状を挙げ整復法の詳細が説明できる。</p> <p>3 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p>
9	下肢の脱臼	下肢帯の損傷の概要	股関節脱臼及び軟部組織損傷の種類と概念を知る。	1 股関節脱臼及び軟部損傷の種類を挙げ概略が説明できる。
		股関節の脱臼	<p>1 股関節脱臼の分類と発生機序の関係を知る。</p> <p>2 分類別の症状及びその特徴を理解する。</p> <p>3 診断に資する症状と診断の根拠を理解する。</p> <p>4 後方脱臼の整復・固定法の詳細を知る。</p> <p>5 整復操作各々の解剖学的意義を知る。</p> <p>6 脱臼に伴う骨折の整復への影響を知る。</p>	<p>1 股関節脱臼の分類を挙げ発生機序との関係が説明できる。</p> <p>2 分類別の症状及び特徴の詳細が説明できる。</p> <p>3 診断に資する症状を挙げ、診断の根拠が示せる。</p> <p>4 後方脱臼の整復・固定法の詳細が説明できる。</p> <p>5 整復操作の各々を解剖学的に意義付けて説明できる。</p>

		7 その他の合併症・後遺症を知る。 8 予後に関する事項を知る。	6 脱臼に伴う骨折を挙げ修復への影響が説明できる。 7 その他の合併症・後遺症を挙げ説明できる。 8 股関節拘縮と損傷軟部組織の関係が説明できる。 9 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。
	鑑別を要する 股関節部の疾患 先天性股関節脱臼	1 先天性股関節脱臼の概要を知る。 2 先天性股関節脱臼の原因説と症状を知る。 3 治療法の概略を理解する。 4 他疾患の鑑別に資する所見を知る。	1 先天性股関節脱臼の概要が説明できる。 2 先天性股関節脱臼の原因説を挙げ症状が説明できる。 3 乳児期の治療法を挙げ概略が説明できる。 4 幼児期の治療法を挙げ概略が説明できる。 5 観血的治療法の概略が説明できる。 6 他疾患の鑑別に資する所見を挙げ説明できる。
	膝関節脱臼	1 膝関節脱臼の分類と発生機序を知る。 2 分類別の症状及びその特徴を理解する。 3 脱臼の修復・固定法の概要を知る。	1 膝関節脱臼の分類と発生機序を知る。 2 分類別の症状及びその特徴を理解する。 3 脱臼の修復・固定法の概要を知る。
	膝蓋骨脱臼	1 膝蓋骨脱臼の分類と発生機序を知る。 2 外側脱臼の修復・固定法の詳細を知る。 3 膝蓋骨脱臼の合併症・後遺症を知る。 4 膝関節損傷の治療上の注意点を知る。	1 膝蓋骨脱臼の分類と発生機序を知る。 2 外側脱臼の修復・固定法の詳細を知る。 3 膝蓋骨脱臼の合併症・後遺症を知る。 4 膝関節損傷の治療上の注意点を知る。
	距腿関節脱臼	1 距腿関節脱臼の分類と発生機序を知る。 2 距腿関節脱臼の症状及び特徴を理解する。 3 距腿関節脱臼の特異性(骨折との関係)を理解する。 4 距腿関節脱臼治療法の概要を知る。 5 距腿関節脱臼に見られる合併症・後遺症を知る。 6 治療法の詳細を知る。 7 保存療法の適応範囲を知る。 8 観血療法法の概要を知る。	1 距腿関節脱臼の分類と発生機序の概略が説明できる。 2 距腿関節脱臼の症状及び特徴の概略が説明できる。 3 距腿関節脱臼の特異性(骨折との関係)が説明できる。 4 距腿関節脱臼治療法の概要が説明できる。 5 距腿関節脱臼の合併症・後遺症を挙げ説明できる。 6 治療法の詳細及び重要なポイントが説明できる。 7 保存療法の適用限界について説明できる。 8 観血療法法の概要が説明できる。
	足根部の脱臼	1 距骨脱臼の分類と発生機序を知る。 2 距骨脱臼の症状及び特徴を理解する。 3 距腿関節脱臼治療法の概要を知る。 4 距骨脱臼に見られる合併症・後遺症を知る。 5 距骨下脱臼等の症状及び特徴を知る。 6 治療法及び合併症・後遺症の概要を知る。 7 保存療法の適応範囲を知る。 8 足根中足関節脱臼の症状及び特徴を知る。 9 治療法及び合併症・後遺症の概要を知る。 10 保存療法の適応範囲を知る。 11 観血療法法の概要を知る。 12 治療上の注意点を理解する。	1 距腿関節脱臼の分類と発生機序の概略が説明できる。 2 距腿関節脱臼の症状及び特徴の概略が説明できる。 3 距腿関節脱臼の特異性(骨折との関係)が説明できる。 4 距腿関節脱臼治療法の概要が説明できる。 5 距腿関節脱臼の合併症・後遺症を挙げ説明できる。 6 足関節捻挫の症状及び特徴の詳細が説明できる。 7 側副靭帯損傷の分類と発生機序が説明できる。 8 診断に資する検査法、陽性所見の詳細が説明できる。 9 治療法の詳細及び重要なポイントが説明できる。 10 保存療法の適用限界について説明できる。 11 観血療法法の概要が説明できる。
	趾関節の脱臼	1 中足趾節関節脱臼の分類、発生機序を知る。 2 脱臼種別の修復・固定法を知る。 3 趾節間関節脱臼の分類、発生機序を知る。 4 脱臼種別の修復・固定法を知る。 5 重要な合併症・後遺症について知る。 6 予後に関する事項を知る。	1 中足趾節関節脱臼を分類し発生機序の説明ができる。 2 脱臼種別の修復・固定法の概略を説明できる。 3 趾節間関節脱臼を分類し発生機序の説明ができる。 4 脱臼種別の修復・固定法の概略を説明できる。

				<p>5 重要な合併症・後遺症について説明できる。</p> <p>6 予後及び予後に影響する因子に関して説明できる。</p>
10	下肢の軟部組織損傷	股関節部の軟部組織損傷	<p>1 股関節軟部損傷の分類、発生機序を知る。</p> <p>2 分類別の症状及び特徴を知る。</p> <p>3 施術法の概略を知る。</p>	<p>1 股関節軟部損傷の分類及び発生機序との関係を示せる。</p> <p>2 深層の回旋筋群損傷の症状及び特徴が説明できる。</p> <p>3 浅層の回旋筋群損傷の症状及び特徴が説明できる。</p> <p>4 施術法の概略及び施術上の注意点が説明できる。</p>
		Perthes 病	<p>1 Perthes 病の概要を知る。</p> <p>2 Perthes 病の原因説と症状を知る。</p> <p>3 治療法の概略を理解する。</p> <p>4 他疾患の鑑別に資する所見を知る。</p>	<p>1 Perthes 病の概要が説明できる。</p> <p>2 Perthes 病の原因説を挙げ症状が説明できる。</p> <p>3 Perthes 病の経過にみられる特徴を挙げ説明できる。</p> <p>4 治療法の概略が説明できる。</p> <p>5 鑑別すべき類症を挙げ相違点が説明できる。</p> <p>6 他疾患の鑑別に資する所見を挙げ説明できる。</p>
		特発性大腿骨頭壊死	<p>1 特発性大腿骨頭壊死の概要を知る。</p> <p>2 特発性大腿骨頭壊死の原因説と症状を知る。</p> <p>3 治療法の概略を理解する。</p> <p>4 他疾患の鑑別に資する所見を知る。</p> <p>5 外傷との重要な鑑別点を知る</p>	<p>1 特発性大腿骨頭壊死の概要が説明できる。</p> <p>2 特発性大腿骨頭壊死の原因説を挙げ説明できる。</p> <p>3 治療法の概略が説明できる。</p> <p>4 鑑別すべき類症を挙げ鑑別点の概略が説明できる。</p> <p>5 他疾患の鑑別に資する所見を挙げ説明できる。</p> <p>6 関連する外傷との鑑別に資する所見を挙げ説明できる。</p>
		純性股関節炎	<p>1 単純性股関節炎の概要を知る。</p> <p>2 単純性股関節炎の原因説と症状を知る。</p> <p>3 治療法の概略を理解する。</p> <p>4 他疾患の鑑別に資する所見を知る。</p>	<p>1 単純性股関節炎の概要が説明できる。</p> <p>2 単純性股関節炎の原因を挙げ症状が説明できる。</p> <p>3 単純性股関節炎の特異性を挙げ説明できる。</p> <p>4 治療法の概略が説明できる。</p> <p>5 鑑別すべき類症を挙げ相違点が説明できる。</p> <p>6 他疾患の鑑別に資する所見を挙げ説明できる。</p>
		膝関節の軟部組織損傷	<p>1 膝関節を構成する骨の形状・位置を知る。</p> <p>2 膝関節を構成する骨の構造と機能の特徴を知る。</p> <p>3 膝関節靭帯の形態と機能の特徴を知る。</p> <p>4 膝関節半月板の形態と機能の特徴を知る。</p> <p>5 膝関節の運動及びその特徴を知る。</p> <p>6 膝関節の損傷と治療上の特異性を知る。</p>	<p>1 膝関節の構造・機能上の特徴が説明できる。</p> <p>2 側副靭帯の付着部と作用との関係が説明できる。</p> <p>3 側副靭帯損傷を疑う所見が示せる。</p> <p>4 十字靭帯の付着部と作用との関係が説明できる。</p> <p>5 十字靭帯損傷を疑う所見が示せる。</p> <p>6 内・外側半月板の形態的特徴と機能の関係が説明できる。</p> <p>7 半月板損傷を疑う所見が示せる。</p> <p>8 半月板の障害所見から損傷されている部位を示せる。</p> <p>9 各種膝関節損傷の治療上の注意点を挙げ詳細に説明できる。</p>
		下肢の軟部損傷	<p>1 大腿部挫傷の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解する。</p> <p>3 鑑別を要する類症を知り鑑別点を理解する。</p> <p>4 治療法の詳細を理解する。</p> <p>5 下腿部挫傷の分類と発生機序を知る。</p> <p>6 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解する。</p> <p>7 鑑別を要する類症を知り鑑別点を理解する。</p> <p>8 治療法の詳細を理解する。</p>	<p>1 大腿部挫傷の分類と発生機序が示せる。</p> <p>2 損傷部の病態を説明し、症状・特徴の詳細が示せる。</p> <p>3 鑑別を要する類症を挙げ鑑別点が説明できる。</p> <p>4 各治療法の適応とその詳細が説明できる。</p> <p>5 下腿部挫傷の分類と発生機序が示せる。</p> <p>6 損傷部の病態を説明し、症状・特徴の詳細が示せる。</p> <p>7 鑑別を要する類症を挙げ鑑別点が説明</p>

				<p>できる。</p> <p>8 各治療法の適応とその詳細が説明できる。</p> <p>9 治療上の注意点を挙げ詳細に説明できる。</p>
		アキレス腱損傷	<p>1 アキレス腱断裂の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解する。</p> <p>3 治療法の詳細を理解する。</p> <p>4 保存療法と観血療法の特徴を理解する。</p>	<p>1 アキレス腱断裂の分類と発生機序が示せる。</p> <p>2 損傷部の病態を説明し、症状・特徴の詳細が示せる。</p> <p>3 治療法の詳細が説明できる。</p> <p>4 治療上の注意点を挙げ詳細に説明できる。</p> <p>5 保存療法と観血療法の相違点と特徴を説明できる。</p>
		足関節捻挫	<p>1 足関節捻挫の症状及び特徴を知る。</p> <p>2 側副靭帯損傷の分類と発生機序を知る。</p> <p>3 診断に資する検査法、陽性所見の詳細を知る。</p> <p>4 治療法の詳細を知る。</p> <p>5 保存療法の適応範囲を知る。</p>	<p>1 足関節捻挫の症状及び特徴の詳細が説明できる。</p> <p>2 側副靭帯損傷の分類と発生機序が説明できる。</p> <p>3 診断に資する検査法、陽性所見の詳細が説明できる。</p> <p>4 治療法の詳細及び重要なポイントが説明できる。</p> <p>5 保存療法の適用限界について説明できる。</p>
		足趾部の軟部組織損傷	足趾軟部損傷の種類と概念を知る。	<p>1 足趾軟部損傷の種類を挙げ概略が説明できる。</p> <p>2 発生機序及び分類が説明できる。</p> <p>3 施術法と施術上の注意事項が説明できる。</p>
11	救急蘇生法概説	一次救命処置	<p>1 一次救命処置の位置づけを知る。</p> <p>2 一次救命処置に必要な知識を学ぶ。</p>	<p>1 一次救命処置の位置づけが説明できる。</p> <p>2 一次救命処置に必要な知識が説明できる。</p>
		小児・乳児の心肺蘇生	<p>1 小児・乳児の心肺蘇生法について理解する。</p> <p>2 成人との違いを理解する。</p>	<p>1 小児・乳児の心肺蘇生法が説明できる。</p> <p>2 成人との違いを挙げ、説明できる。</p>
		心肺蘇生法	<p>1 救急蘇生法の意義を知る。</p> <p>2 応急処置に必要な知識・技術を理解できる。</p> <p>3 現在の心肺蘇生法（CPR）を取り巻く状況について知る。</p> <p>4 心肺蘇生の方法が理解できる。</p>	<p>1 救急蘇生法の意義が説明できる。</p> <p>2 応急処置に必要な知識・技術について概要を説明できる。</p> <p>3 現在の心肺蘇生法を取り巻く問題点を挙げ説明できる。</p> <p>4 心肺蘇生の方法が説明できる。</p>
		AED の使用方法	<p>1 AED を知る。</p> <p>2 AED 必要性を理解できる。</p> <p>3 AED の取り扱い方法を理解できる。</p> <p>4 AED の使用上の注意事項を理解する。</p>	<p>1 AED を原理と目的が説明できる。</p> <p>2 AED が必要性な場面を挙げ、効果を説明できる。</p> <p>3 AED の取り扱い方法が説明できる。</p> <p>4 AED の使用上の注意事項を挙げ、説明できる。</p>

柔道整復実技				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	柔道整復の診察	医療面接の概要と目的	1 医療面接と問診の違いを知り、医療面接に必要な環境作りを理解する。 2 意志の疎通のはかり方と患者自らの施術への協力姿勢の意義を理解する。	1 POS の概念を理解できる。 2 コミュニケーション技法を理解できる。 3 医療面接に必要な雰囲気作りを理解できる。
		医療面接の構造	1 問診から医療面接にいたる経緯を知り、コミュニケーションの意義を学ぶ。 2 医療面接の技法として、対人距離について学習する。 3 適切な環境と身だしなみについて学習し、パターンリズムとインフォームド・コンセントの概念を理解し、事例を交えて学習する。	1 問診と医療面接の相違点を説明できる。 2 POS の概念から医療面接の有用性を説明できる。 3 医療面接の対人距離とその効果を例示出来る。 4 理想的な医療面接を例示できる。
		医療面接の実際	1 患者からみた施術者の身だしなみや施術室のあり方を知る。 2 患者情報の効率的な収集方法として予診表の活用方法を知る。 3 患者の立場からみた医療面接の進め方についてその理想を考察する。	1 施術室のセッティングと身だしなみの理想を説明できる。 2 予診表の有効利用を実践できる。 3 患者主体の医療面接の概要を説明できる。
		医療面接の展開	1 医療面接の始め方と対話の実際について学習する。 2 医療面接の前半において開かれた質問の有用性を学び、医療面接の中間において閉ざされた質問の有用性を学習する。 3 医療面接の後半において適切な質問方法を学習する。	1 適切な医療面接の始め方を説明できる。 2 開かれた質問の有用性を説明できる。 3 閉ざされた質問の有用性を説明できる。 4 臨機応変に対応できるように質問技法を使い分けることができる。
		医療面接の実際	1 適切な患者の迎え入れを学習する。 2 施術室の準備と身だしなみを再確認する。 3 適切な挨拶と自己紹介の方法を再確認し、患者の緊張をほぐし、適切な医療面接への導入を実践する。 4 医療面接の技法を適切に用いているか検証する。 5 各単元の総復習を行い、POS の概念を再確認する。 6 コミュニケーション技法の有用性を確認し、柔道整復に求められる科学性について検証する。	1 適切な患者の迎え入れの方法を説明できる。 2 施術室の準備と身だしなみについて説明できる。 3 適切な挨拶と自己紹介の方法について説明できる。 4 適切な医療面接技法を用いているかを客観的に判断できる。 5 有用性の高い医療面接を実践できる。 6 POS の概念に基づく医療面接を創造できる。 7 医療面接の環境を正しく構築できる。 8 科学としての柔道整復を検証することができる。
		骨・関節の徒手検査	1 正常な四肢の関節の復習と、異常が起きたときに検査をすると発現する症状を熟知する。 2 業務範囲の是非を判断するうえで特に重要な臨床徒手検査法を学習する。 3 四肢の臨床徒手検査法の目的・意義を理解し、実施法を完全に行うことができる。	1 四肢の関節の構造と機能が把握できている。 2 異常が起きたときの症状がなぜ発現するのかを理解できている。 3 各々の四肢臨床徒手検査法の目的・意義を熟知し、スムーズに実施することができる。
		体幹の徒手検査	1 正常な体幹の関節の復習と、異常が起きたときに検査をすると発現する症状を熟知する。 2 業務範囲の是非を判断するうえで特に重要な臨床徒手検査法を熟知する。 3 体幹の臨床徒手検査法の目的・意義を理解し、実施法を完全に行うことができる。	1 体幹の関節の構造と機能が把握できている。 2 異常が起きたときの症状がなぜ発現するのかを理解できている。 3 各々の体幹臨床徒手検査法の目的・意義を熟知し、スムーズに実施することができる。
		胸腹背部の検査	1 胸部・腹部・背部の視診を学習し、変形等の原因について理解する。 2 胸部・腹部・背部の打診、聴診の意義や方法について学習する。 3 胸部・腹部・背部の触診を通じて各種の圧痛点の位置や名称を学習する。	1 体幹部における各々の変形や異常運動の原因を説明できる。 2 打診や聴診の意義を説明できる。 3 体幹部の触診ができる。 4 圧痛点と共に関節を触診し、触診から重要な情報を抽出できる。
		感覚検査・反射検査	1 反射の種類を学習し、神経疾患をはじめ糖尿病、甲状腺疾患などの代謝性疾患を含む諸疾患の診察に重要であることを学習する。 2 反射検査を行うにあたっての注意事項	1 各反射の種類と意義が説明できる。 2 反射検査を実施して、いずれの部位での障害かを把握できる。 3 反射検査の実施上の注意事項を説明できる。

			も共に学習する。	<p>4 感覚検査を実施して、いずれの部位での障害かを把握できる。</p> <p>5 感覚検査の実施上の注意事項を説明できる。</p>
		体幹の触診	体幹の体表解剖を理解、触診することができる。	1 体幹の触診ができる。
		上肢の触診	上肢の体表解剖を理解、触診することができる。	1 上肢の触診ができる。
		下肢の触診	下肢の体表解剖を理解、触診することができる。	1 下肢の触診ができる。
2	基本包帯法	概説	柔道整復の概要と包帯の種類を知る。	<p>1 柔道整復の概要を説明できる。</p> <p>2 包帯の目的を挙げ詳細が説明できる。</p> <p>3 包帯の種類(特殊包帯を含む)を挙げられる。</p>
		巻軸包帯	<p>1 晒しを使用し巻軸包帯の作成法を知る。</p> <p>2 巻軸包帯の使用目的と特徴を知る。</p> <p>3 使いやすい巻軸包帯の特徴を知る。</p> <p>4 巻軸包帯を作成できる。</p> <p>5 巻行帯と蛇行帯の適応部位を知る。</p> <p>6 適応部位に巻行帯と蛇行帯が巻ける。</p> <p>7 麦穂帯と亀甲帯の適応部位を知る。</p> <p>8 適応部位に麦穂帯と亀甲帯が巻ける。</p> <p>9 折転帯の適応部位を知る。</p> <p>10 適応部位に折転帯が巻ける。</p>	<p>1 晒しを使用し巻軸包帯の作成法が説明できる。</p> <p>2 巻軸包帯の使用目的と特徴が説明できる。</p> <p>3 使いやすい巻軸包帯の特徴が説明できる。</p> <p>4 巻軸包帯が作成できる。</p> <p>5 巻行帯と蛇行帯の適応部位が説明できる。</p> <p>6 適応部位に巻行帯と蛇行帯を巻くことができる。</p> <p>7 麦穂帯と亀甲帯の適応部位が説明できる。</p> <p>8 適応部位に麦穂帯と亀甲帯を巻くことができる。</p> <p>9 折転帯の適応部位が説明できる。</p> <p>10 適応部位に折転帯を巻くことができる。</p>
		各部位の巻軸包帯	<p>1 巻行帯と蛇行帯の適応部位を知る。</p> <p>2 適応部位に巻行帯と蛇行帯が巻ける。</p> <p>3 麦穂帯と亀甲帯の適応部位を知る。</p> <p>4 適応部位に麦穂帯と亀甲帯が巻ける。</p> <p>5 折転帯の適応部位を知る。</p> <p>6 適応部位に折転帯が巻ける。</p>	<p>1 巻行帯と蛇行帯の適応部位が説明できる。</p> <p>2 適応部位に巻行帯と蛇行帯を巻くことができる。</p> <p>3 麦穂帯と亀甲帯の適応部位が説明できる。</p> <p>4 適応部位に麦穂帯と亀甲帯を巻くことができる。</p> <p>5 折転帯の適応部位が説明できる。</p> <p>6 適応部位に折転帯を巻くことができる。</p>
		冠名包帯法	<p>1 デゾー包帯の適応について理解する。</p> <p>2 ヴェルポー包帯の適応について理解する。</p> <p>3 ジュール包帯の適応について理解する。</p>	<p>1 適切なデゾー包帯を適応部位に巻くことができる。</p> <p>2 適切なヴェルポー包帯を適応部位に巻くことができる。</p> <p>3 適切なジュール包帯を適応部位に巻くことができる。</p>
		絆創膏	<p>1 絆創膏固定の使用目的と特徴を知る。</p> <p>2 絆創膏固定の適応について理解する。</p> <p>3 体幹部の絆創膏固定ができる。</p> <p>4 上肢の主要な関節の絆創膏固定ができる。</p> <p>5 下肢の主要な関節の絆創膏固定ができる。</p>	<p>1 絆創膏固定の使用目的と特徴が説明できる。</p> <p>2 絆創膏固定の適応・非適応について説明できる。</p> <p>2 体幹部の適切な絆創膏固定をすることができる。</p> <p>3 上肢の主要な関節の適切な絆創膏固定をすることができる。</p> <p>4 下肢の主要な関節の適切な絆創膏固定をすることができる。</p>
3	固定法	固定法概念	<p>1 固定法の原則や固定の肢位ならびに良肢位について学習する。</p> <p>2 一定期間患部をある肢位に保持し、運動制限することにより外傷の治癒を企図することを学習する。</p> <p>3 固定の目的について理解を深め、固定範囲は損傷の種類だけでなく損傷程度や年齢などによって異なることを学習する。</p>	<p>1 固定の定義・目的を説明できる</p> <p>2 固定範囲を各々の疾患・年齢により異なることを説明できる。</p> <p>3 各関節の良肢位を示すことができる。</p>
		固定材料	<p>1 固定材料の質から軟性材料・硬性材料に大別し、用途に合わせ使い分けることを学習する。</p>	<p>1 固定材料を大別し、使用上の留意点を説明できる。</p> <p>2 軟性材料を理解し、名称・使用上の留</p>

			<p>2 それぞれの軟性材料の意義・名称・使用上の留意点を学習する。</p> <p>3 硬性材料の意義・名称・使用上の留意点を学習する。</p>	<p>意点を説明できる。</p> <p>3 硬性材料を理解し、名称・使用上の留意点を説明できる。</p>
		厚紙・すだれ副子・クラーメル・アルフェンス	<p>1 軟性材料や硬性材料を実際に使用し、作製法や各関節の装着法について学習する。</p> <p>2 柔道整復師として特に必要な上肢・下肢の各関節の固定肢位を復習し各関節に装着し、理解を深める。</p>	<p>1 上肢の各関節に装着し、固定肢位・固定期間・装着方法・留意点の詳細を説明できる。</p> <p>2 下肢の各関節に装着し、固定肢位・固定期間・装着方法・留意点の詳細を説明できる。</p>
		固定演習	<p>1 代表的な損傷を想定して、固定による二次的な障害の原因を理解する。</p> <p>2 二次的障害に配慮した固定を実施する。</p>	<p>1 代表的な損傷を想定して、固定による二次的な障害の原因を説明できる。</p> <p>2 二次的障害に配慮した固定が実施できる。</p>
4	後療法	手技療法	<p>1 手技療法の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>2 手技療法の応用と禁忌を理解する。</p> <p>3 各手技療法の特徴とその実施法を正しく理解する。</p>	<p>1 手技療法の種類を挙げその特徴を説明できる。</p> <p>2 手技療法の適応を挙げ説明ができる。</p> <p>3 手技療法の禁忌について説明ができる。</p> <p>4 各部の手技療法が適切に実施できる。</p>
		運動療法	<p>1 運動療法の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>2 運動療法の応用と禁忌を理解する。</p> <p>3 各運動療法の特徴とその実施法を正しく理解する。</p>	<p>1 運動療法の種類を挙げその特徴を説明できる。</p> <p>2 運動療法の適応を挙げ説明ができる。</p> <p>3 運動療法の禁忌について説明ができる。</p> <p>4 各部の運動療法が適切に実施できる。</p>
		関節可動域測定	<p>1 関節可動域測定の意義と目的を知る。</p> <p>2 関節可動域測定上の注意事項を知る。</p> <p>3 正しい関節可動域測定法を知る。</p>	<p>1 関節可動域測定の意義と目的が説明できる。</p> <p>2 代表的な関節の関節可動域測定で移動軸と固定軸を示すことができる。</p> <p>3 関節可動域測定上の注意事項を挙げ説明できる。</p> <p>4 代表的な関節の正しい可動域測定ができる。</p>
		徒手筋力検査法	<p>1 徒手筋力検査法の意義と目的を知る。</p> <p>2 徒手筋力検査実施上の注意事項を知る。</p> <p>3 正しい徒手筋力検査実施法を知る。</p>	<p>1 徒手筋力検査法の意義と目的が説明できる。</p> <p>2 徒手筋力検査実施上の注意事項を挙げ説明できる。</p> <p>3 筋力低下時に起こる代表的なトリックモーションを挙げ理由を説明できる。</p> <p>4 四肢の代表的な筋の筋力を徒手筋力検査で正しく測定できる。</p>
		物理療法機器	<p>1 各種物理療法機器の効能の概要を知る。</p> <p>2 物理療法機器の適応と禁忌を知る。</p> <p>3 正しい物理療法機器の使い方を知る。</p>	<p>1 各種物理療法機器の効能の概要が説明できる。</p> <p>2 物理療法機器の適応と禁忌を挙げ説明できる。</p> <p>3 物理療法機器取り扱い上の留意点を挙げ説明できる。</p> <p>4 疾患・状態別に適切な物理療法機器の選択できる。</p> <p>5 物理療法機器が正しく患者に装着できる。</p>
5	骨折の柔道整復実技	鎖骨骨折	<p>1 骨折の有無判定の概要を理解する。</p> <p>2 鎖骨骨折の整復法及び原理を理解する。</p> <p>3 各種整復操作が実施できる。</p> <p>4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1 骨折の有無判定の概要が説明できる。</p> <p>2 鎖骨骨折臥位整復法の要点を説明できる。</p> <p>3 整復操作を実施、実施上の留意点を挙げ説明できる。</p> <p>4 鎖骨骨折坐位整復法の要点を説明できる。</p> <p>5 整復操作を実施、実施上の留意点を挙げ説明できる。</p> <p>6 Desult 包帯固定法のポイントを説明できる。</p> <p>7 Desult 包帯固定法が実施できる。</p> <p>8 Sayre の絆創膏固定のポイントが説明できる。</p> <p>9 Sayre の絆創膏固定が実施できる。</p> <p>10 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
		上腕骨外科頸骨折	<p>1 骨折の有無判定の概要を理解する。</p> <p>2 脱臼との鑑別点を知る。</p>	<p>1 骨折の有無判定の概要が説明できる。</p> <p>2 外転型骨折と鳥口下脱臼の鑑別点を挙</p>

		<p>3内・外転型骨折所見の差異を理解する。 4内・外転型骨折の整復法及び原理を理解する。 5整復操作が実施できる。 6各種固定法のポイントを理解し実施できる。 7後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>げ説明できる。 3内・外転型骨折所見の相違を説明できる。 4外転型骨折整復法の要点を説明できる。 5整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 6内転型骨折整復法の要点を説明できる。 7整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 8骨折固定用金属副子の成形ができる。 9局所副子の制作が実施できる。 10作成した副子を当て固定できる。</p>
	上腕骨顆上骨折	<p>1骨折の有無判定の概要を理解する。 2脱臼との鑑別点を知る。 3伸展・屈曲型骨折所見の差異を理解する。 4伸展・屈曲型骨折の整復法及び原理を理解する。 5整復操作が実施できる。 6各種固定法のポイントを理解し実施できる。 7後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1骨折の有無判定の概要が説明できる。 2肘関節後方脱臼との鑑別点を挙げ説明できる。 3伸展・屈曲型骨折所見の相違を説明できる。 4伸展型骨折伸中整復法の要点を説明できる。 5整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 6屈曲型骨折整復法の要点を説明できる。 7整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 8骨折固定用金属副子の成形ができる。 9局所副子の制作が実施できる。 10作成した副子を当て固定できる。 11固定実施上のポイントが説明できる。 12後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
	前腕両骨骨幹部骨折	<p>1骨折の有無判定の概要を理解する。 2前腕両骨骨幹部骨折の整復法及び原理を理解する。 3各種整復操作が実施できる。 4各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1骨折の有無判定の概要が説明できる。 2前腕両骨骨幹部骨折の整復法の要点を説明できる。 3整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 4固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 5後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
	Colles 骨折	<p>1骨折の有無判定の概要を理解する。 2骨折所見の概要を理解する。 3牽引直圧・屈曲整復法及びその原理を理解する。 4整復操作が実施できる。 5各種固定法のポイントを理解し実施できる。 6後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1骨折の有無判定の概要が説明できる。 2骨折所見及び転位の特徴を挙げ説明できる。 3牽引直圧整復法の要点を説明できる。 4整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 5屈曲整復法の要点を説明できる。 6整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 7骨折固定用金属副子の成形ができる。 8局所副子の制作が実施できる。 9作成した副子を当て固定できる。 10固定実施上のポイントが説明できる。 11後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
	中手骨骨折	<p>1骨折の有無判定の概要を理解する。 2中手骨骨折の整復法及び原理を理解する。 3各種整復操作が実施できる。 4各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1骨折の有無判定の概要が説明できる。 2中手骨骨折の整復法の要点を説明できる。 3整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 4固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 5後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
	指節骨骨折	<p>1骨折の有無判定の概要を理解する。 2指節骨骨折の整復法及び原理を理解する。 3各種整復操作が実施できる。 4各種固定法のポイントを理解し実施で</p>	<p>1骨折の有無判定の概要が説明できる。 2指節骨骨折の整復法の要点を説明できる。 3整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p>

			<p>きる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>4 固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
		膝蓋骨骨折	<p>1 骨折の有無判定の概要を理解する。</p> <p>2 膝蓋骨骨折の整復法及び原理を理解する。</p> <p>3 各種整復操作が実施できる。</p> <p>4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1 骨折の有無判定の概要が説明できる。</p> <p>2 膝蓋骨骨折の整復法の要点を説明できる。</p> <p>3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>4 応急的な固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
		下腿骨骨幹部骨折	<p>1 骨折の有無判定の概要を理解する。</p> <p>2 下腿骨骨幹部骨折の整復法及び原理を理解する。</p> <p>3 応急的な固定法のポイントを理解し実施できる。</p>	<p>1 骨折の有無判定の概要が説明できる。</p> <p>2 下腿骨骨幹部骨折の整復法の要点を説明できる。</p> <p>3 整復操作の実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>4 応急的な固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p>
		中足骨骨折	<p>1 骨折の有無判定の概要を理解する。</p> <p>2 中足骨骨折の整復法及び原理を理解する。</p> <p>3 各種整復操作が実施できる。</p> <p>4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1 骨折の有無判定の概要が説明できる。</p> <p>2 中足骨骨折の整復法の要点を説明できる。</p> <p>3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>4 固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
		趾節骨骨折	<p>1 骨折の有無判定の概要を理解する。</p> <p>2 趾節骨骨折の整復法及び原理を理解する。</p> <p>3 各種整復操作が実施できる。</p> <p>4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1 骨折の有無判定の概要が説明できる。</p> <p>2 趾節骨骨折の整復法の要点を説明できる。</p> <p>3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>4 固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
6	脱臼の柔道整復実技	顎関節脱臼	<p>1 脱臼の有無判定の概要を理解する。</p> <p>2 顎関節脱臼の整復法及び原理を理解する。</p> <p>3 各種整復操作が実施できる。</p> <p>4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1 脱臼の有無判定の概要が説明できる。</p> <p>2 顎関節脱臼の整復法の要点を説明できる。</p> <p>3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>4 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
		肩鎖関節脱臼	<p>1 脱臼の有無判定の概要を理解する。</p> <p>2 肩鎖関節脱臼の整復法及び原理を理解する。</p> <p>3 各種整復操作が実施できる。</p> <p>4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1 脱臼の有無判定の概要が説明できる。</p> <p>2 肩鎖関節脱臼の整復法の要点を説明できる。</p> <p>3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>4 固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
		肩関節脱臼	<p>1 脱臼の有無判定の概要を理解する。</p> <p>2 外科頸骨折との鑑別点を理解する。</p> <p>3 烏口下脱臼の整復法及び原理を理解する。</p> <p>4 整復操作が実施できる。</p> <p>5 各種固定法のポイントを理解し実施できる。</p> <p>6 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1 脱臼の有無判定の概要が説明できる。</p> <p>2 肩関節脱臼の整復法の要点を説明できる。</p> <p>3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>4 固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
		肘関節後方脱臼	<p>1 脱臼の有無判定の概要を理解する。</p> <p>2 上腕骨顆上骨折との所見の相違を理解する。</p> <p>3 整復法及びその原理を理解する。</p> <p>4 整復操作が実施できる。</p> <p>5 各種固定法のポイントを理解し実施で</p>	<p>1 脱臼の有無判定の概要が説明できる。</p> <p>2 上腕骨顆上骨折との鑑別点を挙げ説明できる。</p> <p>3 後方脱臼の所見の要点を説明できる。</p> <p>4 整復操作の概要と実施上のポイントが説明できる。</p>

			きる。	5 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 6 局所副子の制作が実施できる。 7 作成した副子を当て固定できる。 8 固定実施上のポイントが説明できる。
		中手指節間関節脱臼	1 脱臼の有無判定の概要を理解する。 2 中手指節間関節脱臼の整復法及び原理を理解する。 3 各種整復操作が実施できる。 4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 脱臼の有無判定の概要が説明できる。 2 中手指節間関節脱臼の整復法の要点を説明できる。 3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 4 固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。
		指節間関節脱臼	1 脱臼の有無判定の概要を理解する。 2 指節間関節脱臼の整復法及び原理を理解する。 3 各種整復操作が実施できる。 4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 脱臼の有無判定の概要が説明できる。 2 指節間関節脱臼の整復法の要点を説明できる。 3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 4 固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。
		股関節脱臼	1 脱臼の有無判定の概要を理解する。 2 大腿骨頸部骨折との鑑別点を理解する。 3 腸骨脱臼の整復法及び原理を理解する。 4 整復操作が実施できる。 5 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 6 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 脱臼の有無判定の概要が説明できる。 2 股関節脱臼の整復法の要点を説明できる。 3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 4 応急的な固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。
		膝蓋骨脱臼	1 脱臼の有無判定の概要を理解する。 2 膝蓋骨脱臼の整復法及び原理を理解する。 3 各種整復操作が実施できる。 4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 脱臼の有無判定の概要が説明できる。 2 膝蓋骨脱臼の整復法の要点を説明できる。 3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 4 固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。
		中足趾節間関節脱臼	1 脱臼の有無判定の概要を理解する。 2 中足趾節間関節脱臼の整復法及び原理を理解する。 3 各種整復操作が実施できる。 4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 脱臼の有無判定の概要が説明できる。 2 中足趾節間関節脱臼の整復法の要点を説明できる。 3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 4 固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。
		趾節間関節脱臼	1 脱臼の有無判定の概要を理解する。 2 趾節間関節脱臼の整復法及び原理を理解する。 3 各種整復操作が実施できる。 4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 脱臼の有無判定の概要が説明できる。 2 趾節間関節脱臼の整復法の要点を説明できる。 3 整復操作を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 4 固定を実施、実施上の注意点を挙げ説明できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。
7	軟部組織損傷の柔道整復実技	胸背部の軟部組織損傷	1 胸背部の損傷に対し、検査法の概要を理解する。 2 疼痛性の疾患との鑑別点を知る。 3 損傷軟部組織ごとに所見の差異を理解する。 4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 胸背部の損傷に対し、検査の概要が説明できる。 2 代表的な検査法と損傷組織との関係が説明できる。 3 代表的な検査法を実施、意義の説明ができる。 4 それぞれの軟部損傷の鑑別点を挙げ説明できる。 5 固定の意義と実施上のポイントが説明できる。 6 厚紙副子等の制作が実施できる。

			7 作成した副子を当て固定できる。 8 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。
腰部の軟部組織損傷	1 腰部の損傷に対し、検査法の概要を理解する。 2 疼痛性の疾患との鑑別点を知る。 3 損傷軟部組織ごとに所見の差異を理解する。 4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 腰部の損傷に対し、検査の概要が説明できる。 2 代表的な検査法と損傷組織との関係が説明できる。 3 代表的な検査法を実施、意義の説明ができる。 4 それぞれの軟部損傷の鑑別点を挙げ説明できる。 5 固定の意義と実施上のポイントが説明できる。 6 厚紙副子等の制作が実施できる。 7 作成した副子を当て固定できる。 8 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。	
肩関節の軟部組織損傷	1 各肩関節周辺部の損傷に対し、検査法の概要を理解する。 2 骨折・脱臼との鑑別点を知る。 3 損傷軟部組織ごとに所見の差異を理解する。 4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 各肩関節周辺部の損傷に対し、検査の概要が説明できる。 2 代表的な検査法と損傷組織との関係が説明できる。 3 代表的な検査法を実施、意義の説明ができる。 4 それぞれの軟部損傷の鑑別点を挙げ説明できる。 5 固定の意義と実施上のポイントが説明できる。 6 金属副子及び局所副子の制作が実施できる。 7 作成した副子を当て固定できる。 8 後療法実施上のポイントと注意を挙げ説明できる。	
肘関節の軟部組織損傷	1 各肘関節周辺部の損傷に対し、検査法の概要を理解する。 2 骨折・脱臼との鑑別点を知る。 3 損傷軟部組織ごとに所見の差異を理解する。 4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 各肘関節周辺部の損傷に対し、検査の概要が説明できる。 2 代表的な検査法と損傷組織との関係が説明できる。 3 代表的な検査法を実施、意義の説明ができる。 4 それぞれの軟部損傷の鑑別点を挙げ説明できる。 5 固定の意義と実施上のポイントが説明できる。 6 金属副子及び局所副子の制作が実施できる。 7 作成した副子を当て固定できる。 8 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。	
手関節の軟部組織損傷	1 各手関節周辺部の損傷に対し、検査法の概要を理解する。 2 骨折・脱臼との鑑別点を知る。 3 損傷軟部組織ごとに所見の差異を理解する。 4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。 5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。	1 各手関節周辺部の損傷に対し、検査の概要が説明できる。 2 代表的な検査法と損傷組織との関係が説明できる。 3 代表的な検査法を実施、意義の説明ができる。 4 それぞれの軟部損傷の鑑別点を挙げ説明できる。 5 固定の意義と実施上のポイントが説明できる。 6 金属副子及び局所副子の制作が実施できる。 7 作成した副子を当て固定できる。 8 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。	
指関節捻挫	1 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解する。 2 治療法の詳細を理解する。 3 捻挫診断に資する検査法の概要を理解する。 4 骨折・脱臼との鑑別点を知る。 5 内外側側副靭帯損傷の所見の差異を理解する。 6 各種固定法のポイントを理解し実施で	1 損傷部の病態を説明し、症状・特徴の詳細が示せる。 2 治療法の詳細が説明できる。 3 治療上の注意点を挙げ詳細に説明できる。 4 捻挫の判定に資する検査の概要が説明できる。 5 それぞれの軟部損傷の鑑別点を挙げ説明できる。	

			<p>きる。</p> <p>7 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>6 固定の意義と実施上のポイントが説明できる。</p> <p>7 副子を作成し固定が実施できる。</p> <p>8 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
		膝関節捻挫	<p>1 捻挫診断に資する検査法の概要を理解する。</p> <p>2 骨折・脱臼との鑑別点を知る。</p> <p>3 損傷軟部組織ごとに所見の差異を理解する。</p> <p>4 各種固定法のポイントを理解し実施できる。</p> <p>5 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1 捻挫の判定に資する検査の概要が説明できる。</p> <p>2 代表的な検査法と損傷組織との関係が説明できる。</p> <p>3 代表的な検査法を実施、意義の説明ができる。</p> <p>4 それぞれの軟部損傷の鑑別点を挙げ説明できる。</p> <p>5 固定の意義と実施上のポイントが説明できる。</p> <p>6 金属副子及び局所副子の制作が実施できる。</p> <p>7 作成した副子を当て固定できる。</p> <p>8 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
		下肢の軟部損傷	<p>1 大腿部挫傷の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解する。</p> <p>3 鑑別を要する類症を知り鑑別点を理解する。</p> <p>4 治療法の詳細を理解する。</p> <p>5 下腿部挫傷の分類と発生機序を知る。</p> <p>6 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解する。</p> <p>7 鑑別を要する類症を知り鑑別点を理解する。</p> <p>8 治療法の詳細を理解する。</p>	<p>1 大腿部・下腿部挫傷の分類と発生機序が示せる。</p> <p>2 損傷部の病態を説明し、症状・特徴の詳細が示せる。</p> <p>3 鑑別を要する類症を挙げ鑑別点が説明できる。</p> <p>4 各治療法の適応とその詳細が説明できる。</p> <p>5 治療上の注意点を挙げ詳細に説明できる。</p>
		アキレス腱損傷 足関節捻挫	<p>1 アキレス腱断裂の分類と発生機序を知る。</p> <p>2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解する。</p> <p>3 治療法の詳細を理解する。</p> <p>4 保存療法と観血療法の特徴を理解する。</p> <p>5 捻挫診断に資する検査法の概要を理解する。</p> <p>6 骨折・脱臼との鑑別点を知る。</p> <p>7 内外側側副靭帯損傷の所見の差異を理解する。</p> <p>8 各種固定法のポイントを理解し実施できる。</p> <p>9 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1 アキレス腱断裂の分類と発生機序が示せる。</p> <p>2 損傷部の病態を説明し、症状・特徴の詳細が示せる。</p> <p>3 治療法の詳細が説明できる。</p> <p>4 治療上の注意点を挙げ詳細に説明できる。</p> <p>5 保存療法と観血療法の相違点と特徴を説明できる。</p> <p>6 捻挫の判定に資する検査の概要が説明できる。</p> <p>7 代表的な検査法と損傷組織との関係が説明できる。</p> <p>8 それぞれの軟部損傷の鑑別点を挙げ説明できる。</p> <p>9 固定の意義と実施上のポイントが説明できる。</p> <p>10 副子を作成し固定が実施できる。</p> <p>11 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
		趾関節捻挫	<p>1 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解する。</p> <p>2 治療法の詳細を理解する。</p> <p>3 捻挫診断に資する検査法の概要を理解する。</p> <p>4 骨折・脱臼との鑑別点を知る。</p> <p>5 内外側側副靭帯損傷の所見の差異を理解する。</p> <p>6 各種固定法のポイントを理解し実施できる。</p> <p>7 後療法実施上の注意とポイントを理解する。</p>	<p>1 損傷部の病態を説明し、症状・特徴の詳細が示せる。</p> <p>2 治療法の詳細が説明できる。</p> <p>3 治療上の注意点を挙げ詳細に説明できる。</p> <p>4 捻挫の判定に資する検査の概要が説明できる。</p> <p>5 それぞれの軟部損傷の鑑別点を挙げ説明できる。</p> <p>6 固定の意義と実施上のポイントが説明できる。</p> <p>7 副子を作成し固定が実施できる。</p> <p>8 後療法実施上の注意とポイントを挙げ説明できる。</p>
8	心肺蘇生法	CPR の実際	<p>1 質の高い心肺蘇生が実践できる。</p> <p>2 傷病者発見から救急隊報告までの一連が実施できる。</p>	<p>1 知識に基づく的確で質の高い心肺蘇生法が実施できる。</p> <p>2 柔道整復師として遭遇することが予測される事態のシミュレーションに対応できる。</p>

		AED の実際	1 AED が安全で適切に使用できる。	1 AED を素早く的確に装着できる。 2 柔道整復師として遭遇することが予測される AED を使用する場面のシミュレーションに的確に対応できる。
		小児・乳児の心肺蘇生法	1 成人の心肺蘇生法との違いを理解する。 2 小児・乳児の心肺蘇生法を学習する。	1 成人の心肺蘇生法との違いを説明できる。 2 小児・乳児の心肺蘇生法が実践できる。

臨床実習				
	講義・実習内容	単元	指導内容・目標	到達目標
1	臨床実習の心構え	臨床実習の心構え	<ol style="list-style-type: none"> 1 施術所での患者に対する態度を体得する。 2 設備上、患者の安全を確保する方法を知る。 3 施術上、患者の安全を確保する方法を知る。 4 施術所の清潔保持の重要性を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 施術所で患者に不快感を与えない態度がとれる。 2 患者に危険をもたらす設備上の問題が指摘できる。 3 設備上、患者の安全を確保する方法を示せる。 4 患者に危険をもたらす施術上の問題が指摘できる。 5 施術上、患者の安全を確保する方法を示せる。 6 医学的な清潔の意味が説明できる。 7 施術所の清潔保持の重要性について説明できる。 8 施術所の清潔保持ができる。
2	物理療法機器	物理療法機器	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種物理療法機器の効能の概要を知る。 2 物理療法機器の適応と禁忌を知る。 3 正しい物理療法機器の使い方を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種物理療法機器の効能の概要が説明できる。 2 物理療法機器の適応と禁忌を挙げ説明できる。 3 物理療法機器取り扱い上の注意点を挙げ説明できる。 4 疾患・状態別に適切な物理療法機器が選択できる。 5 正しく物理療法機器が患者に装着できる。
3	各部位別損傷実習	肩部の疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1 肩関節部の解剖とその特徴を知る。 2 肩部の疾患について理解を深める。 3 肩部の疾患の徒手検査法を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 肩関節部の構造と運動の特徴が説明できる。 2 肩関節部の体表解剖に触れることができる。 3 肩部の疾患やその鑑別が説明できる。 4 肩部の疾患に対する正しい検査法ができる。
		肘部の疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1 肘関節部の解剖とその特徴を知る。 2 肘部の疾患について理解を深める。 3 肘部の疾患の徒手検査法を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 肘関節部の構造とその特徴が説明できる。 2 肘関節部の体表解剖に触れることができる。 3 肘部の疾患やその鑑別が説明できる。 4 肘部の疾患に対する正しい徒手検査ができる。
		手部の疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1 手関節部の解剖とその特徴を知る。 2 手部の疾患について理解を深める。 3 手部の疾患の徒手検査法を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 手関節部の構造と運動の特徴が説明できる。 2 手関節部の体表解剖に触れることができる。 3 手部の疾患やその鑑別が説明できる。 4 手部の疾患に対する正しい検査法ができる。
		膝部の疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1 膝関節部の解剖とその特徴を知る。 2 膝関節部の疾患の診察法を知る。 3 膝関節部の疾患の徒手検査法を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 膝関節部の構造と運動の特徴が説明できる。 2 膝関節部の疾患の診察法を理解し適切に行える。 3 膝関節部の疾患の徒手検査法の意義と目的が説明できる。
		足部の疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1 足関節部の解剖とその特徴を知る。 2 足関節部の動きについて理解を深める。 3 捻挫に対する固定法を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 足関節部の構造の特徴が説明できる。 2 足関節部の体表解剖に触れることができる。 3 足関節に対するテーピングの適応や意義が説明できる。 4 足関節捻挫に対するテーピングができる。
		体幹の疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1 体幹部に対する体表解剖の技術を知る。 2 体幹部の疾患の診察法を知る。 3 体幹部の疾患の徒手検査法を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 体幹部の体表解剖ができる。 2 体幹部疾患の診察法を理解し適切に行える。 3 体幹部疾患の徒手検査法の意義と目的が説明できる。
4	診療の実習	後療法	<ol style="list-style-type: none"> 1 後療法の種類と特徴について学ぶ。 2 各療法の応用と禁忌を理解する。 3 物理療法機器の特徴とその使用方法について正しく理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 後療法の種類と特徴が理解できる。 2 各療法の応用と禁忌について説明ができる。 3 機器の特徴とその使用方法について説明ができる。

	徒手筋力検査法	<ul style="list-style-type: none"> 1 徒手筋力検査法の意義と目的を知る。 2 徒手筋力検査実施上の注意事項を知る。 3 正しい徒手筋力検査実施法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 徒手筋力検査法の意義と目的が説明できる。 2 徒手筋力検査実施上の注意事項を挙げ説明できる。 3 筋力低下時の徒手筋力検査で起こる正常な動きとトリックモーションとが見分けられる。 4 筋力の低下を想定して測定時の姿勢や肢位を変えるなど正しく徒手筋力検査ができる。
	固定材料	<ul style="list-style-type: none"> 1 ギブスシーネの使用目的と特徴を知る。 2 ギブスシーネの適応について理解する。 3 厚紙副子固定の使用目的と特徴を知る。 4 厚紙副子固定の適応について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 各種のギブスシーネの使用目的と特徴が説明できる。 2 各種のギブスシーネの適応が説明できる。 3 主要な部位をギブスシーネ固定できる。 4 厚紙副子固定の使用目的と特徴が説明できる。 5 厚紙副子固定の適応が説明できる。 6 主要部位の厚紙副子を作成し固定できる。
	固定の実際	<ul style="list-style-type: none"> 1 各々の固定材料の適切な使用方法を知る。 2 各々の固定材料の長所短所を理解する。 3 各固定材料に適した使用目的を理解する。 4 各固定材料の加工や取り外しの留意点を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 各々の固定材料の使用方法を説明・実施できる。 2 各々の固定材料の特徴を説明できる。 3 各固定材料に適した外傷や部位を理解する。 4 各固定材料を目的に応じて加工し、安全に取り外しをすることができる。